

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウケン トウカイイブイ 学校法人 東海大学							
フリガナ大学の名称	トウカイイブイ 東海大学 (Tokai University)							
大学本部の位置	神奈川県平塚市北金目4-1-1							
大学の目的	本学は、人道に根ざした深い教養をもつ有能な人材を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。							
新設学部等の目的	本学科は、大学・学部の教育目的に沿って、大きく変わりゆく社会において新しい価値観に柔軟に対応できる「工学の規範に即した志と倫理観を持った人材」を育成すると同時に、先端医療を支えさらに発展させるための医療技術・医療機器・医用システムの研究・開発、応用、及び工学的評価ができる工学分野と医学分野の「確かな知識・技術」を持ち、社会の変化に柔軟に対応しながら、有機的かつ継続的に問題解決に向かうことができる技術者及び臨床工学技士としての人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	工学部 [Undergraduate School of Engineering]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	神奈川県平塚市 北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市 下糟屋143
	医工学科 [Department of Medical Engineering]	4	80	—	320	学士（工学） [Bachelor of Engineering]	令和4年4月 第1年次	
	計		80	—	320			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	別紙のとおり							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	工学部医工学科	78科目	13科目	17科目	108科目	124単位		

教	員	組	の	概	要	学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼任 教員等						
							教授	准教授	講師	助教	計	助手							
							人	人	人	人	人	人	人	人					
新	設	分	既	設	分	工学部医工学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	21 (21)						
						児童教育学部児童教育学科	9 (7)	5 (5)	6 (5)	1 (1)	21 (18)	0 (0)	3 (9)	令和3年3月認可申請					
						経営学部経営学科	9 (9)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	12 (12)	令和3年4月届出予定					
						国際学部国際学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)	令和3年4月届出予定					
						情報理工学部情報メディア学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	6 (6)	令和3年4月届出予定					
						情報通信学部情報通信学科	10 (10)	7 (7)	6 (6)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	10 (10)	令和3年4月届出予定					
						工学部生物工学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	20 (20)	令和3年4月届出予定					
						工学部機械システム工学科	5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	18 (18)	令和3年4月届出予定					
						建築都市学部建築学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	7 (7)	令和3年4月届出予定					
						建築都市学部土木工学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	15 (15)	令和3年4月届出予定					
						人文学部人文学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	11 (11)	令和3年4月届出予定					
						海洋学部海洋理工学科	15 (15)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	20 (20)	令和3年4月届出予定					
						文理融合学部経営学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	12 (12)	令和3年4月届出予定					
						文理融合学部地域社会学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	13 (13)	令和3年4月届出予定					
						文理融合学部人間情報工学科	9 (9)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	17 (17)	令和3年4月届出予定					
						農学部農学科	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	13 (13)	令和3年4月届出予定					
						農学部動物科学科	4 (4)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	16 (16)	令和3年4月届出予定					
						農学部食生命科学科	6 (6)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	22 (22)	令和3年4月届出予定					
											計	127 (125)	63 (63)	43 (42)	7 (7)	240 (237)	0 (0)	— (—)	
						既	設	分	既	設	分	文学部文学科	3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	14 (14)
文学部歴史学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	15 (15)							0 (0)	23 (23)						
文学部日本文学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)							0 (0)	16 (16)						
文学部英語文化コミュニケーション学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)							0 (0)	8 (8)						
文化社会学部アジア学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)							0 (0)	20 (20)						
文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)							0 (0)	12 (12)						
文化社会学部北欧学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)							0 (0)	7 (7)						
文化社会学部文芸創作学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)							0 (0)	3 (3)						
文化社会学部広報メディア学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)							0 (0)	2 (2)						
文化社会学部心理・社会学科	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)							0 (0)	13 (13)						
政治経済学部政治学科	10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (14)							0 (0)	5 (5)						
政治経済学部経済学科	8 (8)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	14 (14)							0 (0)	11 (11)						
法学部法律学科	12 (12)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	20 (20)							0 (0)	2 (2)						
教養学部人間環境学科	9 (9)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	15 (15)							0 (0)	27 (27)						
教養学部芸術学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)							0 (0)	88 (88)						
体育学部体育学科	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)							0 (0)	5 (5)						
体育学部競技スポーツ学科	6 (6)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	11 (11)							0 (0)	11 (11)						
体育学部武道学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)							0 (0)	10 (10)						
体育学部生涯スポーツ学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)							0 (0)	6 (6)						
体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)							0 (0)	1 (1)						

教	既	健康学部健康マネジメント学科	10 (10)	6 (6)	6 (6)	2 (2)	24 (24)	0 (0)	2 (2)
		理学部数学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)
員		理学部情報数理学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	11 (11)
		理学部物理学科	11 (11)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	12 (12)
		理学部化学科	9 (9)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		理学部 基礎教育研究室	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		情報理工学部情報科学科	6 (6)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	8 (8)
		情報理工学部コンピュータ応用工学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	11 (11)
		工学部応用化学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		工学部電気電子工学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	5 (5)
		工学部機械工学科	8 (7)	4 (4)	4 (0)	0 (0)	16 (11)	0 (0)	13 (13)
		工学部航空宇宙学科	12 (12)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	5 (5)
		観光学部観光学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	10 (10)
		海洋学部水産学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
		海洋学部海洋生物学科	8 (8)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	5 (5)
		海洋学部 海洋フロンティア教育センター	1 (1)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	7 (7)
		医学部医学科	127 (127)	106 (106)	205 (205)	396 (396)	834 (834)	0 (0)	131 (131)
		医学部看護学科	8 (8)	8 (8)	14 (14)	4 (4)	34 (34)	0 (0)	47 (47)
		国際文化学部地域創造学科	9 (9)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	14 (14)
		国際文化学部国際コミュニケーション学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	9 (9)
		生物学部生物学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	14 (14)
		生物学部海洋生物科学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)
		計	403 (402)	231 (231)	296 (292)	411 (411)	1341 (1336)	0 (0)	— —
		現代教養センター	4 (4)	12 (12)	5 (5)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	20 (20)
		国際教育センター	17 (17)	20 (20)	20 (20)	3 (3)	60 (60)	0 (0)	160 (160)
		情報教育センター	2 (2)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	19 (19)
		課程資格教育センター	6 (6)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	46 (46)
		先進生命科学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		教育開発研究センター	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		スポーツ医科学研究所	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		情報技術センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合社会科学研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		高輪教養教育センター	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	43 (43)
		清水教養教育センター	9 (9)	10 (10)	5 (5)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	55 (55)
		海洋研究所	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		総合医学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		九州教養教育センター	4 (4)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	23 (23)
		総合農学研究所	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		札幌教養教育センター	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	33 (33)
		計	64 (64)	66 (66)	47 (47)	8 (8)	185 (185)	0 (0)	— —
		合計	594 (591)	360 (360)	386 (381)	426 (426)	1766 (1758)	0 (0)	— —

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		779 (779)	269 (269)	1048 (1048)					
	技 術 職 員		57 (57)	2 (2)	59 (59)					
	図 書 館 専 門 職 員		44 (44)	22 (22)	66 (66)					
	そ の 他 の 職 員		8 (8)	0 (0)	8 (8)					
	計		888 (888)	293 (293)	1181 (1181)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	東海大学付属望星高等学校と共用 名称：東海大学付属望星高等学校（通信制） 収容定員：3,000名 校地面積基準：なし				
	校舎敷地	1,770,691.41 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²	1,772,744.29 m ²		内借用地：55,045.86m ²			
	運動場用地	396,797.97 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	396,797.97 m ²		内借用地：47,282.12m ²			
	小 計	2,167,489.38 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²	2,169,542.26 m ²					
	そ の 他	211,174.76 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	211,174.76 m ²		内借用地：153,717.23m ²			
	合 計	2,378,664.14 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²	2,380,717.02 m ²		借用期間：2～30年			
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計						
	532,456.15 m ² (532,456.15 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	532,456.15 m ² (532,456.15 m ²)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	480 室	328 室	1,260 室	79 室 (補助職員 20 人)	6 室 (補助職員 0 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		工学部医工学科		16 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用として、 電子データベースは37種〔うち国 外16種〕 学術雑誌（電子ジャーナル含 む）は約45,000種〔うち国外約 42,200種〕 電子ブックは約12,700点 〔うち国外約7,000点〕 が利用可能。		
	工学部医工学科	76,640 [14,850] (76,036 [14,738])	194 [85] (179 [78])	74 [45] (65 [40])	775 (753)	0 [0] (0 [0])	0 [0] (0 [0])			
	計	76,640 [14,850] (76,036 [14,738])	194 [85] (179 [78])	74 [45] (65 [40])	775 (753)	0 [0] (0 [0])	0 [0] (0 [0])			
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	21,687.00 m ²		3,734 席		2,318,166 冊					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	24,060.79 m ²		トレーニングセンター		25mプール					
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		330千円	330千円	330千円	330千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		560千円	560千円	560千円	560千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	200千円	240千円	280千円	320千円	360千円	— 千円	— 千円	
		設備購入費	2,994千円	2,994千円	2,994千円	2,994千円	2,994千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,554千円	1,354千円	1,354千円	1,354千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、手数料等							

既設大学の状況	大学の名称	東海大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
		年	人	年次人	人		倍			
大	文学部		370	—	1,480		1.02	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文学部 文明学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.03	平成13年	〃	
	文学部 アジア文明学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 E-ロケット文明学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 アフリカ文明学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 北欧学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和42年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 歴史学科		130	—	520		1.02	昭和35年	〃	
	文学部 日本史専攻	4	50	—	200	学士(文学)	1.07	昭和58年	〃	
	文学部 東洋史専攻	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和58年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 西洋史専攻	4	50	—	200	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
	文学部 考古学専攻	4	30	—	120	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
	文学部 日本文学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.01	平成13年	〃	
	文学部 文芸創作学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 英語文化コミュニケーション学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.00	昭和35年	〃	
	文学部 広報行政学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 心理・社会学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	学	文化社会学部		450	—	1,800		1.01	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1
文化社会学部 アジア学科		4	70	—	280	学士(文化社会学)	1.03	平成30年	〃	
文化社会学部 E-ロケット・アフリカ学科		4	70	—	280	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
文化社会学部 北欧学科		4	60	—	240	学士(文化社会学)	1.02	平成30年	〃	
文化社会学部 文芸創作学科		4	60	—	240	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
文化社会学部 広報行政学科		4	100	—	400	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
文化社会学部 心理・社会学科		4	90	—	360	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
等	政治経済学部		480	—	1,920		1.00	昭和41年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	政治経済学部 政治学科	4	160	—	640	学士(政治学)	1.03	昭和41年	〃	
	政治経済学部 経済学科	4	160	—	640	学士(経済学)	0.99	昭和41年	〃	
政治経済学部 経営学科	4	160	—	640	学士(経営学)	0.99	昭和49年	〃		
の	法学部		300	—	1,200		1.01	昭和61年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	法学部 法律学科	4	300	—	1,200	学士(法学)	1.01	昭和61年	〃	
	教養学部		330	—	1,320		1.03	昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	教養学部 人間環境学科		160	—	640		1.01	昭和43年	〃	
	教養学部 自然環境課程	4	65	—	260	学士(教養学)	0.97	昭和43年	〃	
	教養学部 社会環境課程	4	95	—	380	学士(教養学)	1.01	昭和43年	〃	
	教養学部 芸術学科		90	—	360		1.03	昭和43年	〃	
	教養学部 音楽学課程	4	32	—	128	学士(教養学)	1.04	昭和43年	〃	
	教養学部 美術学課程	4	20	—	80	学士(教養学)	1.08	昭和43年	〃	
	教養学部 デザイン学課程	4	38	—	152	学士(教養学)	1.04	昭和43年	〃	
状	体育学部		480	—	1,920		1.01	昭和42年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	体育学部 体育学科	4	110	—	440	学士(体育学)	0.97	昭和42年	〃	
	体育学部 競技スポーツ学科	4	140	—	560	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃	
	体育学部 武道学科	4	60	—	240	学士(体育学)	1.02	昭和43年	〃	
	体育学部 生涯スポーツ学科	4	110	—	440	学士(体育学)	0.99	昭和46年	〃	
体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科	4	60	—	240	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃		
況	健康学部		200	—	800		1.02	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	健康学部 健康マネジメント学科	4	200	—	800	学士(健康マネジメント学)	1.02	平成30年	〃	
	理学部		320	—	1,280		0.98	昭和39年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.99	昭和39年	〃	
	理学部 情報数理学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.99	昭和49年	〃	
	理学部 物理学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
	理学部 化学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
	情報理工学部		200	—	800		1.03	平成13年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	情報理工学部 情報科学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.04	平成13年	〃	
	情報理工学部 コンピュータ応用工学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.03	平成13年	〃	

既 設 大 学 等 の 状 況	工学部		1,390	—	5,560		1.01	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	生命化学科	4	100	—	400	学士(工学)	0.99	平成13年	〃		
	応用化学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.00	平成13年	〃		
	光・画像工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.02	平成18年	〃		
	原子力工学科	4	40	—	160	学士(工学)	0.89	平成18年	〃		
	電気電子工学科	4	140	—	560	学士(工学)	1.04	平成18年	〃		
	材料科学科	4	80	—	320	学士(工学)	0.98	昭和41年	〃		
	建築学科	4	200	—	800	学士(工学)	1.07	昭和41年	〃		
	土木工学科	4	120	—	480	学士(工学)	1.05	昭和41年	〃		
	精密工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.06	昭和46年	〃		
	機械工学科	4	140	—	560	学士(工学)	0.99	昭和46年	〃		
	動力機械工学科	4	150	—	600	学士(工学)	0.99	昭和46年	〃		
	航空宇宙学科		140	—	560		0.99	昭和42年	〃		
	航空宇宙専攻	4	90	—	360	学士(工学)	1.03	昭和42年	〃		
	航空操縦学専攻	4	50	—	200	学士(工学)	0.93	昭和42年	〃		
	医用生体工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.04	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143		
	観光学部			200	—	800		1.03	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4	
	観光学科	4	200	—	800	学士(観光学)	1.03	平成22年	〃		
	情報通信学部			320	—	1,280		1.02	平成20年	東京都港区高輪2-3-23	
	情報メディア学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.00	平成20年	〃		
	組込みソフトウェア工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.07	平成20年	〃		
	経営システム工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.00	平成20年	〃		
	通信ネットワーク工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.04	平成20年	〃		
	海洋学部			530	—	2,120		1.00	昭和37年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
	海洋文明学科	4	80	—	320	学士(海洋学)	1.00	平成16年	〃		
環境社会学科	4	80	—	320	学士(海洋学)	1.06	平成23年	〃			
海洋地球科学科	4	80	—	320	学士(海洋学)	1.01	平成23年	〃			
水産学科	4	120	—	480	学士(海洋学)	1.04	平成18年	〃			
海洋生物学科	4	90	—	360	学士(海洋学)	1.03	平成18年	〃			
航海工学科		80	—	320		0.83	平成23年	〃			
航海学専攻	4	20	—	80	学士(海洋学)	0.96	平成23年	〃			
海洋機械工学専攻	4	60	—	240	学士(海洋学)	0.78	平成23年	〃			
医学部			203	—	1,048		0.90	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143		
医学科	6	118	—	708	学士(医学)	0.88	昭和49年	〃			
看護学科	4	85	—	340	学士(看護学)	0.97	平成30年	〃			
健康科学部								平成7年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	平成30年度より学生募集停止	
看護学科	4	—	—	—	学士(看護学)	—	—	平成7年	〃	平成30年度より学生募集停止	
社会福祉学科	4	—	—	—	学士(社会福祉学)	—	—	平成7年	〃	平成30年度より学生募集停止	
経営学部			230	—	920		0.99	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1		
経営学科	4	150	—	600	学士(経営学)	1.04	平成25年	〃			
観光ビジネス学科	4	80	—	320	学士(経営学)	0.92	平成25年	〃			
基盤工学部			140	—	560		0.74	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1		
電気電子情報工学科	4	80	—	320	学士(工学)	0.73	平成25年	〃			
医療福祉工学科	4	60	—	240	学士(工学)	0.77	平成25年	〃			
農学部			230	—	920		0.89	平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽		
応用植物科学科	4	80	—	320	学士(農学)	0.95	平成20年	〃			
応用動物科学科	4	80	—	320	学士(農学)	0.88	平成20年	〃			
バイオサイエンス学科	4	70	—	280	学士(農学)	0.86	平成20年	〃			
国際文化学部			260	—	1,040		1.01	平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1		
地域創造学科	4	110	—	440	学士(教養学)	1.05	平成20年	〃			
国際コミュニケーション学科	4	80	—	320	学士(教養学)	1.05	平成20年	〃			
デザイン文化学科	4	70	—	280	学士(教養学)	0.89	平成24年	〃			
生物学部			140	—	560		1.02	平成24年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1		
生物学科	4	70	—	280	学士(理学)	0.99	平成24年	〃			
海洋生物科学科	4	70	—	280	学士(理学)	1.05	平成24年	〃			

既	《大学院》											
	総合理工学研究所									平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
	総合理工学専攻 博士課程	3	35	—	105	博士(理学)・博士(工学)	0.47			平成17年	〃	
設	地球環境科学研究所									平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	令和3年度より学生募集停止 令和3年度より学生募集停止
	地球環境科学専攻 博士課程	3	—	—	—	博士(理学)・博士(工学)	—			平成17年	〃	
大	生物科学研究所									平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
	生物科学専攻 博士課程	3	10	—	30	博士(理学)・博士(農学) 博士(保健学)	0.10			平成17年	〃	
学	文学研究科									昭和44年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文明研究専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.31			昭和49年	〃	
	文明研究専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.41			昭和51年	〃	
	史学専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.06			昭和44年	〃	
	史学専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00			昭和46年	〃	
	日本文学専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.81			昭和49年	〃	
	日本文学専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.50			昭和51年	〃	
	英文学専攻 博士課程前期	2	4	—	8	修士(文学)	0.12			昭和44年	〃	
	英文学専攻 博士課程後期	3	2	—	6	博士(文学)	0.00			昭和46年	〃	
	コミュニケーション学専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.43			昭和49年	〃	
	コミュニケーション学専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00			昭和51年	〃	
	観光学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(観光学)	0.43			平成26年	〃	
	政治学研究所									昭和46年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
政治学専攻 博士課程前期	2	10	—	20	修士(政治学)	0.05			昭和46年	〃		
政治学専攻 博士課程後期	3	5	—	15	博士(政治学)	0.00			昭和48年	〃		
経済学研究所									昭和54年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
応用経済学専攻 博士課程前期	2	10	—	20	修士(経済学)	0.10			昭和54年	〃		
応用経済学専攻 博士課程後期	3	5	—	15	博士(経済学)	0.00			昭和56年	〃		
法学研究科									平成2年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
法律学専攻 博士課程前期	2	10	—	20	修士(法学)	0.00			平成16年	〃		
法律学専攻 博士課程後期	3	5	—	15	博士(法学)	0.00			平成5年	〃		
人間環境学研究所									平成19年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
人間環境学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士(学術)	0.45			平成19年	〃		
芸術学研究所									昭和48年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
音響芸術専攻 修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.37			昭和48年	〃		
造型芸術専攻 修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.37			昭和48年	〃		
体育学研究所									昭和51年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
体育学専攻 博士課程前期	2	20	—	35	修士(体育学)	1.36			昭和51年	〃		
体育学専攻 博士課程後期	3	3	—	3	博士(体育学)	—			令和3年	〃		
理学研究科									昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
数理科学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.56			昭和43年	〃		
物理学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.37			昭和43年	〃		
化学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.49			昭和43年	〃		
工学研究科									昭和38年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
電気電子工学専攻 修士課程	2	50	—	100	修士(工学)	1.03			平成28年	〃		
応用理化学専攻 修士課程	2	45	—	90	修士(工学)	1.24			平成28年	〃		
建築土木工学専攻 修士課程	2	25	—	50	修士(工学)	1.16			平成28年	〃		
機械工学専攻 修士課程	2	75	—	150	修士(工学)	1.21			平成28年	〃		
医用生体工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.37			平成26年	神奈川県伊勢原市下糟屋143		
情報通信学研究所									平成24年	東京都港区高輪2-3-23		
情報通信学専攻 修士課程	2	30	—	60	修士(情報通信学)	0.99			平成24年	〃		
海洋学研究所									昭和42年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1		
海洋学専攻 修士課程	2	20	—	40	修士(海洋学)	0.65			平成27年	〃		

既 設 大 学 等 の 状 況	医学研究科								昭和55年	神奈川県伊勢原市下糟屋143		
	医科学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(医科学)	0.80	平成7年	〃		
	先端医科学専攻	博士課程	4	35	—	140	博士(医学)	0.49	平成17年	〃		
	健康科学研究科									平成11年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	看護学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(看護学)	0.85	平成11年	〃		
	保健福祉学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(保健福祉学)	0.15	平成11年	〃		
	農学研究科									平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
	農学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(農学)	0.87	平成20年	〃		
	生物学研究科									令和2年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
	生物学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.25	令和2年	〃		
大学の名称		東海大学短期大学部										
学部等の名称		修業 年限	入 学 員 定 員	編入学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地			
		年	人	年次 人	人		倍					
食物栄養学科		2	—	—	—	短期大学士(食物栄養学)	—	昭和41年	静岡県静岡市葵区宮前町101	令和2年度より学生募集停止		
児童教育学科		2	—	—	—	短期大学士(児童教育学)	—	昭和44年	〃	令和2年度より学生募集停止		
大学の名称		東海大学医療技術短期大学										
学部等の名称		修業 年限	入 学 員 定 員	編入学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地			
		年	人	年次 人	人		倍					
看護学科		3	—	—	—	短期大学士(看護学)	—	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-2	令和2年度より学生募集停止		

附属施設の概要	<p>名称：東海大学医学部付属病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年2月 規模等：土地 116,282.91㎡、建物 83,850.19㎡</p>	
	<p>名称：東海大学医学部付属東京病院 目的：医療機関 所在地：東京都渋谷区代々木1-2-5 設置年月：昭和58年12月 規模等：土地 2,498.45㎡、建物 7,550.91㎡</p>	
	<p>名称：東海大学医学部付属大磯病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県中郡大磯町月京21-1 設置年月：昭和59年4月 規模等：土地 23,286.72㎡、建物 19,752.88㎡</p>	
	<p>名称：東海大学医学部付属八王子病院 目的：医療機関 所在地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年3月 規模等：土地 47,708.39㎡、建物 44,334.88㎡</p>	
	<p>名称：望星丸 目的：海洋調査研修 所在地：東京都（船籍港） 設置年月：平成5年3月（進水の年月） 規模等：総トン数1,777トン、国際総トン数2,174トン 全長全長87.98m、型幅12.80m、型深さ8.10m</p>	

【別紙】同一設置者内における変更状況

政治経済学部経営学科（廃止）（△160）	※令和4年4月学生募集停止
教養学部国際学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部生命化学科（廃止）（△100）	※令和4年4月学生募集停止
工学部光・画像工学科（廃止）（△60）	※令和4年4月学生募集停止
工学部原子力工学科（廃止）（△40）	※令和4年4月学生募集停止
工学部材料科学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部建築学科（廃止）（△200）	※令和4年4月学生募集停止
工学部土木工学科（廃止）（△120）	※令和4年4月学生募集停止
工学部精密工学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部動力機械工学科（廃止）（△150）	※令和4年4月学生募集停止
工学部医用生体工学科（廃止）（△60）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部情報メディア学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部組込みソフトウェア工学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部経営システム工学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部通信ネットワーク工学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部海洋文明学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部環境社会学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部海洋地球科学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科航海学専攻（廃止）（△20）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科海洋機械工学専攻（廃止）（△60）	※令和4年4月学生募集停止
経営学部（廃止）	※令和4年4月学生募集停止
経営学科（廃止）（△150）	※令和4年4月学生募集停止
観光ビジネス学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
基盤工学部（廃止）	※令和4年4月学生募集停止
電気電子情報工学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
医療福祉工学科（廃止）（△60）	※令和4年4月学生募集停止
農学部応用植物科学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
農学部応用動物科学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
農学部バイオサイエンス学科（廃止）（△70）	※令和4年4月学生募集停止
国際文化学部デザイン文化学科（廃止）（△70）	※令和4年4月学生募集停止
児童教育学部（令和3年3月認可申請）	
児童教育学科（150）	
経営学部（令和3年4月届出予定）	
経営学科（230）	
国際学部（令和3年4月届出予定）	
国際学科（200）	
情報理工学部情報メディア学科（100）（令和3年4月届出予定）	
工学部生物工学科（100）（令和3年4月届出予定）	
工学部機械システム工学科（140）（令和3年4月届出予定）	
建築都市学部（令和3年4月届出予定）	
建築学科（240）	
土木工学科（100）	
情報通信学部情報通信学科（240）（令和3年4月届出予定）	
人文学部（令和3年4月届出予定）	
人文学科（180）	
海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻（130）（令和3年4月届出予定）	
海洋学部海洋理工学科航海学専攻（20）（令和3年4月届出予定）	
文理融合学部（令和3年4月届出予定）	
経営学科（130）	
地域社会学科（100）	
人間情報工学科（70）	
農学部農学科（80）（令和3年4月届出予定）	
農学部動物科学科（80）（令和3年4月届出予定）	
農学部食生命科学科（70）（令和3年4月届出予定）	
政治経済学部	
政治学科〔定員増〕（40）（令和4年4月）	
経済学科〔定員増〕（40）（令和4年4月）	
教養学部	
人間環境学科〔定員減〕（△40）（令和4年4月）	
芸術学科〔定員減〕（△20）（令和4年4月）	
体育学部	
体育学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
競技スポーツ学科〔定員増〕（30）（令和4年4月）	
生涯スポーツ学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
スポーツ・レジャーマネジメント学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
工学部	
応用化学科〔定員増〕（20）（令和4年4月）	
電気電子工学科〔定員減〕（△20）（令和4年4月）	
海洋学部	
海洋生物学科〔定員減〕（△10）（令和4年4月）	
医学部	
看護学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
生物学部	
生物学科〔定員増〕（5）（令和4年4月）	
海洋生物科学科〔定員増〕（5）（令和4年4月）	

学校法人東海大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	
文学部	文明学科	60	—	240		
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科	90	—	360		
英語文化コミュニケーション学科	90	—	360			
文化社会学部	アジア学科	70	—	280		
	ヨーロッパ・アメリカ学科	70	—	280		
	北欧学科	60	—	240		
	文芸創作学科	60	—	240		
	広報メディア学科	100	—	400		
	心理・社会学科	90	—	360		
政治経済学部	政治学科	160	—	640		
	経済学科	160	—	640		
	経営学科	160	—	640		
法学部	法律学科	300	—	1200		
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	65	—	260	
		社会環境課程	95	—	380	
	芸術学科	音楽学課程	32	—	128	
		美術学課程	20	—	80	
		デザイン学課程	38	—	152	
国際学科	80	—	320			
体育学部	体育学科	110	—	440		
	競技スポーツ学科	140	—	560		
	武道学科	60	—	240		
	生涯スポーツ学科	110	—	440		
	スポーツレジャーマネジメント学科	60	—	240		
健康学部	健康マネジメント学科	200	—	800		
理学部	数学科	80	—	320		
	情報数理学科	80	—	320		
	物理学科	80	—	320		
	化学科	80	—	320		
情報理工学部	情報科学科	100	—	400		
	コンピュータ応用工学科	100	—	400		
工学部	生命化学科	100	—	400		
	応用化学科	80	—	320		
	光・画像工学科	60	—	240		
	原子力工学科	40	—	160		
	電気電子工学科	140	—	560		
	材料科学科	80	—	320		
	建築学科	200	—	800		
	土木工学科	120	—	480		
	精密工学科	80	—	320		
	機械工学科	140	—	560		
	動力機械工学科	150	—	600		
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	医用生体工学科	60	—	240		
観光学部	観光学科	200	—	800		
	情報メディア学科	情報メディア学科	80	—	320	
		組込みソフトウェア工学科	80	—	320	
		経営システム工学科	80	—	320	
		通信ネットワーク工学科	80	—	320	
海洋学部	海洋文明学科	80	—	320		
	環境社会学科	80	—	320		
	海洋地球科学科	80	—	320		
	水産学科	120	—	480		
	海洋生物学科	90	—	360		
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
	医学部	医学科	118	—	708	<small>118名は令和3年度入学生まで</small>
看護学科		85	—	340		
経営学部	経営学科	150	—	600		
基盤工学部	観光ビジネス学科	80	—	320		
	電気電子情報工学科	80	—	320		
	医療福祉工学科	60	—	240		

令和4年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由	
文学部	文明学科	60	—	240			
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200		
		西洋史専攻	50	—	200		
		考古学専攻	30	—	120		
	日本文学科	90	—	360			
英語文化コミュニケーション学科	90	—	360				
文化社会学部	アジア学科	70	—	280			
	ヨーロッパ・アメリカ学科	70	—	280			
	北欧学科	60	—	240			
	文芸創作学科	60	—	240			
	広報メディア学科	100	—	400			
	心理・社会学科	90	—	360			
政治経済学部	政治学科	<u>200</u>	—	<u>800</u>		定員変更(40)	
	経済学科	<u>200</u>	—	<u>800</u>		定員変更(40)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
経営学部	経営学科	<u>230</u>	—	<u>920</u>		学部の設置(届出)	
法学部	法律学科	300	—	1200			
教養学部	人間環境学科	人間環境学科	<u>120</u>	—	<u>480</u>		定員変更(Δ40)
		芸術学科	<u>70</u>	—	<u>280</u>		定員変更(Δ20)
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
国際学部	国際学科	<u>200</u>	—	<u>800</u>		学部の設置(届出)	
児童教育学部	児童教育学科	<u>150</u>	—	<u>600</u>		学部の設置(認可申請)	
体育学部	体育学科	<u>120</u>	—	<u>480</u>		定員変更(10)	
	競技スポーツ学科	<u>170</u>	—	<u>680</u>		定員変更(30)	
	武道学科	60	—	240			
	生涯スポーツ学科	<u>120</u>	—	<u>480</u>		定員変更(10)	
	スポーツレジャーマネジメント学科	<u>70</u>	—	<u>280</u>		定員変更(10)	
健康学部	健康マネジメント学科	200	—	800			
理学部	数学科	80	—	320			
	情報数理学科	80	—	320			
	物理学科	80	—	320			
	化学科	80	—	320			
情報理工学部	情報科学科	100	—	400			
	コンピュータ応用工学科	100	—	400			
	情報メディア学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>		学部の学科の設置(届出)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	生物工学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>		学部の学科の設置(届出)	
	応用化学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>		定員変更(20)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	電気電子工学科	<u>120</u>	—	<u>480</u>		定員変更(Δ20)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	機械システム工学科	<u>140</u>	—	<u>560</u>		学部の学科の設置(届出)	
	機械工学科	140	—	560			
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	航空宇宙学科	90	—	360			
		航空宇宙学専攻	90	—	360		
		航空操縦学専攻	50	—	200		
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	医工学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>		学部の学科の設置(届出)	
建築都市学部	建築学科	<u>240</u>	—	<u>960</u>		学部の設置(届出)	
	土木工学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>		学部の設置(届出)	
観光学部	観光学科	200	—	800			
情報通信学部		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	情報通信学科	<u>240</u>	—	<u>960</u>		学部の学科の設置(届出)	
人文学部	人文学科	<u>180</u>	—	<u>720</u>		学部の設置(届出)	
海洋学部		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	水産学科	120	—	480			
	海洋生物学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>		定員変更(Δ10)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	海洋理工学科	<u>130</u>	—	<u>520</u>		学部の学科の設置(届出)	
		<u>20</u>	—	<u>80</u>		航海学専攻	
医学部	医学科	110	—	660		臨時定員増(8)は令和3年度まで	
	看護学科	<u>95</u>	—	<u>380</u>		定員変更(10)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
文理融合学部	経営学科	<u>130</u>	—	<u>520</u>		学部の設置(届出)	
	地域社会学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>		学部の設置(届出)	
	人間情報工学科	<u>70</u>	—	<u>280</u>		学部の設置(届出)	

令和3年度

農学部	応用植物科学科	80	—	320
	応用動物科学科	80	—	320
	バイオサイエンス学科	70	—	280
	計	6773	—	27328
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440
	国際コミュニケーション学科	80	—	320
	デザイン文化学科	70	—	280
生物学部	生物学科	70	—	280
	海洋生物科学科	70	—	280

令和4年度

農学部	農学科	0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	動物科学科	80	—	320	学部の学科の設置(届出)
	畜生命科学科	70	—	280	学部の学科の設置(届出)
	計	6855	—	27640	
	生物学部	生物学科	75	—	300
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440	
	国際コミュニケーション学科	80	—	320	
	デザイン文化学科	70	—	280	
生物学部	海洋生物科学科	75	—	300	定員変更(5)
	計	6855	—	27640	

東海大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻 (D)	35	—	105	
生物科学研究科	生物科学専攻 (D)	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻 (M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12
	史学専攻 (M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12
	日本文学専攻 (M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12
	英文学専攻 (M)	4	—	8	
		(D)	2	—	6
	コミュニケーション学専攻 (M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12
観光学専攻 (M)	8	—	16		
政治学研究科	政治学専攻 (M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15
経済学研究科	応用経済学専攻 (M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15
法学研究科	法学専攻 (M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15
人間環境学研究科	人間環境学専攻 (M)	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻 (M)	4	—	8	
		造型芸術専攻 (M)	4	—	8
体育学研究科	体育学専攻 (M)	20	—	40	
		(D)	3	—	9
理学研究科	数理学専攻 (M)	8	—	16	
	物理学専攻 (M)	12	—	24	
	化学専攻 (M)	12	—	24	
工学研究科	電気電子工学専攻 (M)	50	—	100	
	応用理化学専攻 (M)	45	—	90	
	建築土木工学専攻 (M)	25	—	50	
	機械工学専攻 (M)	75	—	150	
情報通信学研究科	医用生体工学専攻 (M)	8	—	16	
		情報通信学専攻 (M)	30	—	60
海洋学研究科	海洋学専攻 (M)	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻 (M)	10	—	20	
	先端医科学専攻(4年制D) (D)	35	—	140	
健康科学研究科	看護学専攻 (M)	10	—	20	
	保健福祉学専攻 (M)	10	—	20	
農学研究科	農学専攻 (M)	12	—	24	
生物学研究科	生物学専攻 (M)	8	—	16	
計		563	—	1277	

東海大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻 (D)	35	—	105		
生物科学研究科	生物科学専攻 (D)	10	—	30		
文学研究科	文明研究専攻 (M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12	
	史学専攻 (M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12	
	日本文学専攻 (M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12	
	英文学専攻 (M)	4	—	8		
		(D)	2	—	6	
	コミュニケーション学専攻 (M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12	
観光学専攻 (M)	8	—	16			
政治学研究科	政治学専攻 (M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻 (M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15	
法学研究科	法学専攻 (M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻 (M)	10	—	20		
芸術学研究科	音響芸術専攻 (M)	4	—	8		
		造型芸術専攻 (M)	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻 (M)	20	—	40		
		(D)	3	—	9	
理学研究科	数理学専攻 (M)	8	—	16		
	物理学専攻 (M)	12	—	24		
	化学専攻 (M)	12	—	24		
工学研究科	電気電子工学専攻 (M)	50	—	100		
	応用理化学専攻 (M)	45	—	90		
	建築土木工学専攻 (M)	25	—	50		
	機械工学専攻 (M)	75	—	150		
情報通信学研究科	医用生体工学専攻 (M)	8	—	16		
		情報通信学専攻 (M)	30	—	60	
海洋学研究科	海洋学専攻 (M)	20	—	40		
医学研究科	医科学専攻 (M)	10	—	20		
	先端医科学専攻(4年制D) (D)	35	—	140		
健康科学研究科	看護学専攻 (M)	10	—	20		
	保健福祉学専攻 (M)	10	—	20		
農学研究科	農学専攻 (M)	12	—	24		
生物学研究科	生物学専攻 (M)	8	—	16		
計		563	—	1277		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 医工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
I 現代 文明 論	現代文明論	2前・後	2			○								兼1	
	小計(1科目)	—	2	0	0	—								兼1	
II 現代 教養 科目	基礎 教養 科目	入門ゼミナールA	1前	2			○		5	2		1			
		入門ゼミナールB	1後	2			○		5	2		1			
		小計(2科目)	—	4	0	0	—		5	2	0	1	0		
	発展 教養 科目	シティズンシップ	1前・後	2			○								兼1
		地域・国際理解	1前・後	2			○								兼1
		現代教養講義	2前・後	2			○								兼1
		小計(3科目)	—	6	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼1
	健康 スポ ーツ 科目	健康・フィットネス理論実習	1前・後	1				○							兼1
		生涯スポーツ理論実習	1前・後	1				○							兼1
		小計(2科目)	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼1
III 英語 科目	英語リスニング&スピーキング	1前・後	2				○							兼1	
	英語リーディング&ライティング	1前・後	2				○							兼1	
	小計(2科目)	—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼1	
IV 主専 攻科 目(学 部共 通科 目)	データサイエンス1 統計学のためのプログラミング	1前		1			○							兼1	
	データサイエンス2 データ分析と機械学習	1前		1			○							兼1	
	ICTプログラミング基礎1 Webアプリケーション	1後		1			○							兼1	
	ICTプログラミング基礎2 IoT実装	1後		1			○							兼1	
	Exercise for TOEIC(R) Test 1	2前		1			○							兼1	
	Exercise for TOEIC(R) Test 2	2後		1			○							兼1	
	工科の線形代数	1前		2		○								兼1	
	工科の微積分	1前		2		○								兼1	
	工科の確率・統計	1後		2		○								兼1	
	物理学	1前		2		○								兼1	
	化学	1前		2		○								兼1	
	一般生物学	1前		2		○								兼1	
	航空宇宙学概論	1前		1		○								兼1	
	航空操縦学概論	1前		1		○								兼1	
機械工学概論	1前		1		○								兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 医工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主 専 攻 科 目 （ 学 部 共 通 科 目 ）	機械システム工学概論	1前		1		○								兼1	
	電気電子工学概論	1前		1		○								兼1	
	医工学概論	1前	1			○			1						
	生物工学概論	1前		1		○								兼1	
	応用化学概論	1前		1		○								兼1	
	小計（20科目）	-	1	25	0			-	0	1	0	0	0	0	兼15
IV 主 専 攻 科 目 （ 学 科 開 講 科 目 ）	医療技術と社会	医用機器学	1前		2		○						1		
		医学概論	1前		1		○			1					
		医工系専門英語	2後	2				○		1					
		公衆衛生学	3前		1		○				1				
		英語プレゼンテーション	3後	2				○		1					
		小計（5科目）	-	4	4	0			-	2	1	0	1	0	
	医工学の基礎	物理学A（質点の力学・電磁気学）	1後		2		○							1	
		物理学B（固体・流体・波動・熱）	2前		2		○			1					
		電気工学A	1後		2		○				1				
		電気工学B	2前		2		○				1				
		電気工学実習	3前	1					○	1	2		1		
		電子工学A	2前		2		○				1				
		電子工学B	2後		2		○				1				
		電子工学実習	3後	1					○	1	2		1		
		材料工学	1後		2		○			1					
		基礎製図	2後		2				○	1					
小計（10科目）	-	2	16	0			-	2	2	0	1	0			

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 医工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目（学科開講科目）	システム・情報工学	情報処理実習	1前	1					○					1	
		プログラミング演習	1前	1					○	1					
		基礎解析	1後		2			○		1					
		応用数学	2前		2				○	1					
		情報処理工学A	2後		2			○		1					
		情報処理工学B	2後		2			○		1					
		システム工学1	2後		2			○		1					
		システム工学2	3前		1			○		1					
		生体シミュレーション工学	3前		2			○		1					
		生体制御工学	3前		2			○			1				
		最適化学	3前		1			○			1				
		人工知能アーキテクチャ	3後		2			○		1					
		医用データマイニング	3後		2			○		1					
		ヒューマンコンピュータインタラクション	3後		2			○		1					
		アドバンスプログラミング	3後		2			○		1					
小計（15科目）	-		2	24	0			-	2	1	0	1	0		
医工学	医工学	物性工学	2後		2			○			1				
		機械工学	2後		2			○		1					
		バイオマテリアル	3前		2			○		1					
		バイオメカニクス	3前		2			○		1					
		医用ロボティクス	3後		2			○			1				
		バイオメティクス	3後		1			○		1					
		小計（6科目）	-		0	11	0			-	1	2	0	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部 医工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目 (学科開講科目)	生体機能	人の構造及び機能A		2		○								兼1
		人の構造及び機能B	1後	2		○			1					
		生化学	1後	2		○								兼1
		病理学概論	2前	2		○			1					
		生理学	2前	2		○								兼1
		免疫学	2後	2		○								兼1
		基礎医学実習	2後	1				○	2			1		
		臨床医学総論	2後	2		○			1					
		薬理学	3後	2		○								兼1
		放射線画像診断学	3後	2		○			1					
	小計 (10科目)	-	1	18	0		-	2	0	0	1	0	兼2	
生体計測	計測工学	2前	2		○				1					
	生体信号処理工学	3前	1		○				1					
	生体計測装置学	3前	2		○				1					
	医用画像装置学	3前	2		○						1			
	生体計測装置学実習	3後	1				○	3						
	小計 (5科目)	-	1	7	0		-	3	1	0	1	0		
機器と安全	医用機器安全管理学A	3前	2		○				1					
	医用治療機器学	3後	2		○			1						
	医用機器安全管理学B	3後	2		○								兼1	
	レギュラトリサイエンス	3後	1		○				1					
	小計 (4科目)	-	0	7	0		-	1	2	0	0	0	兼1	
臨床工学	生体機能代行装置学総論A	2前	2		○			1						
	生体機能代行装置学総論B	2後	2		○			1					兼1	
	代謝機能代行装置学	3前	2		○								兼1	
	循環機能代行装置学A	3前	2		○			1						
	循環機能代行装置学B	3後	2		○								兼1	
	呼吸機能代行装置学	3後	2		○			1						
	小計 (6科目)	-	0	12	0		-	2	0	0	0	0	兼1	
ゼミナール	卒業研究 1	4前	2				○	5	2		1			
	卒業研究 2	4後	2				○	5	2		1			
	小計 (2科目)	-	2	2	0		-	5	2	0	1	0		

教 育 課 程 等 の 概 要														
（工学部 医工学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目（学科開講科目）	資格関連科目 医用治療機器学実習	4前			1			○	2	2		1		
	医用機器安全管理学実習	4前			1			○	1					
	看護学概論	3前			2	○								兼1
	臨床医学各論A	3前			2	○								兼1
	臨床医学各論B	3後			2	○			1					
	臨床医学各論C	3後			2	○								兼1
	関係法規	3後			1	○								兼1
	生体機能代行装置学実習	4前			1			○	1			1		兼1
	臨床実習A	3後			6			○	1			1		
	臨床実習B	4前			6			○	1			1		兼1
	臨床実習C	4後			6			○	1			1		
	臨床実習特論	3後			1	○			1			1		兼1
	ME基礎	2後			1	○			1			1		兼1
	臨床工学特論1	3前			1	○			1			1		兼1
	臨床工学特論2	4後			2	○			1			1		
小計（15科目）		-	0	0	35			-	3	2	0	1	0	兼3
合計（108科目）		-	31	126	35			-	5	2	0	1	0	兼21
学位又は称号	学士（工学）				学位又は学科の分野	工学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：20単位（1学期）） <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅰ現代文明論 <必修科目> 2単位修得 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅱ現代教養科目 基礎教養科目 <必修科目> 4単位修得 発展教養科目 <必修科目> 6単位修得 健康スポーツ科目 <必修科目> 2単位修得 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅲ英語コミュニケーション科目 <必修科目> 4単位修得 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅳ主専攻科目 76単位修得 <必修科目> ■学部共通科目に設定された科目から1単位を修得。 ■学科開講科目に設定された科目から12単位を修得。（計13単位） <選択科目> ■学部共通科目 ■医療技術と社会 ■医工学の基礎 ■システム・情報工学 ■医工学 ■生体機能 ■生体計測 ■機器と安全 ■臨床工学 ■ゼミナール に設定された選択科目の中から合わせて 63単位以上習得。（計63単位） <自由科目> 資格取得希望者のみ履修。卒業要件に含まない。 ■資格関連科目 35単位 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30単位修得 合計124単位修得						1学年の学期区分 2学期 1学期の授業期間 14週 1時限の授業時間 100分								

教育課程等の概要															
(工学部 医用生体工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
論 I 現代文明	現代文明論	2前	2			○									
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0		
II 現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1後	2			○							兼7	
		社会科学	1後	2			○							兼7	
		自然科学	1前	2			○							兼6	
		小計(3科目)	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼20
	発展教養科目	シティズンシップ	1後	1			○								兼5
		ボランティア	1後	1			○								兼5
		地域理解	1前	1			○								兼6
		国際理解	1前	1			○								兼6
		小計(4科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼18
	目 健康 スポ ーツ 科	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼12
生涯スポーツ理論実習		1後	1					○						兼16	
小計(2科目)		—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼22	
III 英語科目	ケ ー 語 シ コ ミ ュ ニ 科 目	英語リスニング&スピーキング	1後	2				○						兼26	
		英語リーディング&ライティング	1前	2					○					兼30	
		小計(2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼48
	育 成 科 目 バ ル 人 材	グローバルスキル	2前	2					○						兼26
		アカデミック英語	2後	2					○						兼25
小計(2科目)		—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼43	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部 医用生体工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主 専 攻 科 目	工学共通基礎科目	工科の微積分1	1前・後	2		○								兼17
	工科の微積分2	1後・2前	2		○									兼13
	工科の微分方程式1	1後・2前・後	2		○									兼13
	工科の微分方程式2	2後・3前	2		○									兼7
	工科の線形代数1	1前・後	2		○									兼17
	工科の線形代数2	1後	2		○									兼17
	工科の確率統計	2前・後	2		○									兼8
	基礎数学	1前・後	1		○									兼10
	物理学A	1前	4		○									兼2
	物理学B	1前・後	4		○									兼7
	物理学C	1前	2		○									兼9
	電磁気学基礎	1前・後・2前・後	2		○									兼9
	熱力学基礎	1後・2前・後	2		○									兼5
	基礎物理A	1前・後	1		○									兼4
	基礎物理B	1前	1		○									兼3
	物理実験	1前・後	2				○							兼20
	化学	1後・2前	4		○									兼3
	化学基礎	1前・後	2		○									兼10
	基礎化学A	1前・後	1		○									兼4
	化学実験	1前・後・2後	2				○							兼6
	ものづくり1	2前・後	1				○							兼4
	ものづくり2	2前・後	1				○							兼4
小計(22科目)	—	0	44	0	—								兼85	
工学 関 連 科 目	国際インターンシップ	4後	2			○								兼1
	科学と倫理	2前	2		○									兼2
	特許戦略	3前	2		○									兼1
	小計(3科目)	—	0	6	0	—								兼4

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部 医用生体工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
IV 主 専 攻 科 目	工学分野横断基礎科目	応用化学数学	1後	2		○								兼1
	電気電子工学概論	1前		2		○								兼12
	建築デザイン入門	1前		2		○								兼3
	建築の理数学	1前		2		○								兼4
	機械工学概論	1前		2		○								兼11
	宇宙利用技術	1後		2		○								兼5
	大気圏科学	4前		2		○								兼1
	医用生体工学概論	1前		2		○			1					
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			1	0	0	0	0	兼36
科 初 年 次 教 育	入門ゼミナール	1前・後	2			○			7	2		1		
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			7	2	0	1	0	
学 科 基 礎 科 目	情報処理実習	1前	1			○				1		1		
	医学概論	1前		1		○			1					
	人の構造及び機能A	1後・2前	2			○			1					
	人の構造及び機能B	1後・2前	2			○			2					
	公衆衛生学	1後			1	○				1				
	固体・流体・波動・熱の物理学	1後		2					1					
	プログラミング実習	1後	1						1					
	病理学概論	2前			2	○			1					
	基礎医学実習	2後	2						6			1		兼1
	関係法規	3前			1	○			1					
小計(10科目)	—	8	3	4	—			7	2	0	1	0	兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部 医用生体工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
IV 主 専 攻 科 目	工学 基 礎 科 目 A	電気工学A	1後	2		○				1				
	電気工学B	2前		2		○				1				
	電子工学A	2前		2		○				1				
	電子工学B	2後		2		○				1				
	電気工学実習	3前	2					○	2	2		1		兼1
	電子工学実習	3後	2					○	2	2		1		兼1
	小計（6科目）	—	4	8	0	—			2	2	0	1	0	兼1
工 学 基 礎 科 目 B	材料工学	2前		2		○			1					
	物性工学	2後		2		○			1					
	機械工学	3前		2		○			1					
	バイオマテリアル	3前		2		○								兼1
	バイオメカニクス	3前		2		○			1					
	小計（5科目）	—	0	10	0	—			1	0	0	0	0	兼1
工 学 基 礎 科 目 C	応用数学A	2前		2		○			1					
	応用数学B	2前		2		○						1		
	応用数学演習	2後			2		○		1					
	情報処理工学A	2後		2		○			1					
	情報処理工学B	2後		2		○				1				
	システム工学	2後		2		○			1					
	システム工学演習	3前			1		○		1					
	小計（7科目）	—	0	10	3	—			3	1	0	1	0	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部 医用生体工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主 専 攻 科 目	臨床生理学	2前		2		○			1					
	臨床生化学	2前			2	○			1					
	臨床免疫学	2後			2	○			1					
	臨床医学総論	2後		2		○			1					
	看護学概論	3前			2	○								兼4
	臨床医学各論A	3前		2		○			1					
	臨床医学各論B	3後		2		○			1					兼1
	臨床医学各論C	3後		2		○								兼1
	臨床薬理学	3後			2	○								兼1
	小計(9科目)	—	0	10	8	—			3	0	0	0	0	兼6
生 体 機 能 代 行 装 置 学 科 目	生体機能代行装置学総論A	2後		2		○			1					
	生体機能代行装置学総論B	2後		2		○			1					
	代謝機能代行装置学	3前		2		○			1					兼1
	循環機能代行装置学A	3前		2		○			1					兼1
	循環機能代行装置学B	3後		2		○			1					
	呼吸機能代行装置学	3後		2		○				1				
	生体機能代行装置学実習	4前			2			○	1					
小計(7科目)	—	0	12	2	—			3	1	0	0	0	兼2	
生 体 計 測 装 置 学 科 目	計測工学	2前		2		○			1					
	生体計測装置学	3前		2		○				1				
	放射線画像診断	3後		2		○			1					
	生体計測装置学実習	3後	2					○	5			1		兼2
	小計(4科目)	—	2	6	0	—			6	1	0	1	0	兼2

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部 医用生体工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主 専 攻 科 目	医用機器学A	2前		2		○				1				
	医用機器学B	2前		2		○			1					
	医用治療機器学	3前		2		○			1					
	医用機器安全管理学A	3後		2		○			1					
	医用機器安全管理学B	3後		2		○			1					
	医用治療機器学実習	4前			1			○	1					
	医用機器安全管理学実習	4前			1			○	1					
	小計(7科目)	—	0	10	1			—	3	1	0	0	0	
ロ ボ ット 工 学 科 目	制御工学	3前		2		○				1				
	ロボティクス	3前		2		○			1					
	人工知能アーキテクチャ	3後		2		○			1					
	バイオメメティクス	3後		2		○							兼1	
	小計(4科目)	—	0	8	0			—	2	1	0	0	0	兼1
情 報 工 学 科 目	シミュレーション工学	3前		2		○			1					
	アドバンスプログラミング	3後		2		○			1					
	小計(2科目)	—	0	4	0			—	1	0	0	0	0	
経 営 工 学 科 目	最適化学	3前		2		○				1				
	経営工学	3後		2		○				1				
	小計(2科目)	—	0	4	0			—	0	1	0	0	0	
生 物 工 学 科 目	細胞分子生物学	2後		2		○			1					
	ナノ・バイオテクノロジー	3後		2		○				1				
	小計(2科目)	—	0	4	0			—	1	1	0	0	0	
卒 業 研 究 科 目	卒業研究ゼミナール	4前・後	2						7	2	0	1	0	
	卒業研究	4後	4						7	3	0	1	0	
	小計(2科目)	—	6	0	0			—	7	2	0	1	0	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部 医用生体工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
IV 主 専 攻 科 目	臨床工学特別演習	3後			2		○		2	1			1	
	医用生体工学特論	4後			2	○			1					
	臨床実習	3後・4前・後			6			○	3					
	小計(3科目)	—	0	0	10		—		3	1	0	1	0	
合計(118科目)		—	44	155	28		—		7	2	0	1	0	兼258
学位又は称号	学士(工学)			学位又は学科の分野				工学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
以下の合計で124単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限:24単位(1学期))							1学年の学期区分			2学期				
□科目区分Ⅰ現代文明論(必修科目) 2単位修得 □科目区分Ⅱ現代教養科目(必修科目) 12単位修得 □科目区分Ⅲ英語科目(必修科目) 8単位修得 □科目区分Ⅳ主専攻科目 72単位修得 (必修科目) 22単位修得 (選択科目) 50単位修得 □科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30単位修得 合計124単位修得							1学期の授業期間			14週				
							1時限の授業時間			100分				

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 医工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 現代 文明 論	現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。	
II 現代 教養 科目	基礎 教養 科目	入門ゼミナールA	本授業は1年次生を対象とした全学共通のゼミナール形式の初年次教育科目である。「大学での学び方」を学ぶことを目的とし、4年間の計画的な学習スケジュールを構築しつつ、ノートの取り方や情報収集の方法、情報リテラシー、図書館の利用方法といった、大学生活を送るうえで必要なアカデミックスキルの基礎的能力・知識をまずは養っていく。さらに特定のテーマについて個人の関心に応じた調査・発表といった演習を通じ、学生個別の学問的関心を喚起させ、自分自身が持つ興味や関心を正しく探求し表現していく方法を学ぶ。
		入門ゼミナールB	本授業は1年次生を対象とした全学共通のゼミナール形式の初年次教育科目である。「入門ゼミナールA」で培った個人的関心から生じた問いを、より公共的・普遍的な問いへ変換させる能力を養うことを目的とする。具体的にはクリティカルリーディング、レポートのまとめ方の学び、グループ演習・発表を通じて、「スキルの向上」を目指すと同時に、所属学科における専門分野の基礎的知識や問題点に対する取り組み方、倫理観などの育成を通じて、本学が育成を目指す、自ら考え、集い、挑み、成し遂げていく力を身に付けるための学び方と姿勢を醸成していく。
	発展 教養 科目	シティズンシップ	現代社会においては、思想信条、宗教、人種、民族、文化、性別、国籍等の異なる様々な人々が相互に関わりながら暮らしている。背景の違いはあっても、共同体に参加する人々のことを市民（シティズン）と呼ぶ。この科目では、「シティズンシップ（市民性）」の観点から、多様な人々が民主政治の担い手である市民として、意見の違いを乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成するにはどうすればよいかを考えることを目標とする。参加型授業を通じ、社会の様々な課題について話し合い、周囲と協同しつつ解決方法を考えることで、社会参加のあり方を学ぶ。
		地域・国際理解	人は日々、ある地域で様々なひと・もの・ことに支えられながら生活している。豊かな生活を営むために、地域で仲間をつくり、議論し、協同し、基盤となる豊かな地域を持続させていく必要がある。一方、現代の地域社会はグローバル化の波にさらされ、遠く離れた地域ともひと・もの・ことを介して緊密に連動するようになってきている。この科目では、自らが暮らす地域社会と国際社会の現実を見つめ、多様な人々の視点に立ち、地域社会・国際社会の様々な課題を発見し、その解決について考える。さらに、コミュニティにおける自らの役割を認識することを目標とする。
		現代教養講義	現代教養とは、人々が現在の複雑化した文明社会を生きるために必要な知識である。情報技術の発展や経済活動のグローバル化など、急激な社会的変化にさらされる一方、気候変動や階級格差など、様々な問題解決を迫られている。こうした現代社会の中でより良く生きるため、高度に専門化した現代の科学的知識について、その枝葉にとらわれず本質をつかみ、学ぶ必要がある。この科目は教員自身が現在取り組んでいる研究について講義する。文理融合的な幅広い視野を重視しつつ、現代の新たな研究知見を学び、幅広い知識と視野を養う。
	健康 スポ ーツ 科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。
	生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの”おもしろさ”や”大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学部 医工学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
	英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
IV 主専攻科目（学部共通科目）	データサイエンス1 統計学のためのプログラミング	データサイエンスにおける「統計学」は、多様なデータを元に現象を記述し、現象のモデルを構築して科学的な知識や結論を導くためのコンピュータ科学の実践である。本科目は、データサイエンスにおける統計学の知識を持つための基礎を学びながら理解する科目である。具体的には、統計学の特長を中心に理解し、Pythonスクリプト言語を用いたデータ処理とデータの可視化の方法を理解し、さらに統計グラフの活用と確率的な現象の扱い方を理解することを目的とする。	
	データサイエンス2 データ分析と機械学習	「データ分析と機械学習」は、多様なデータベースから情報抽出と統計学による確率的な扱いによって、与えられた条件を満たす解のうち数理的に最適な解を探索する最適化手法である。本科目は、データ分析および機械学習に必要な技術と知識を学びながらデータサイエンスの基礎を理解する科目である。具体的には、Pythonスクリプト言語によるプログラムをツールとして、まず回帰と分類の数学解法を理解し、次に機械学習の仕組みと技術ならびに活用方法を理解することを目的とする。	
	ICTプログラミング基礎1 Webアプリケーション	「Webアプリケーション」は、ユーザーが直接的に操作するWebフロントエンド（ブラウザ側）と、それを監視するWebバックエンド（サーバ側）の2つのシステムから構成される。本科目は、Webサイト表示とWebサーバ制作に必要な技術と知識を持つためのプログラミングの基礎を学びながら理解する科目である。具体的には、JavaScriptによるオブジェクト指向言語を中心に理解し、WebブラウザとWebサーバの間でメッセージを双方向通信するためのモジュールの構築方法を理解することを目的とする。	
	ICTプログラミング基礎2 IoT実装	「IoT実装」は、センサやスイッチなどのハードウェアデバイスをリモート操作・監視するICTの応用である。本科目は、IoT実装に必要な技術と知識を持つためのハードウェアとソフトウェアの基礎を学びながら理解する科目である。具体的には、Pythonスクリプト言語を中心に理解し、ハードウェアデバイスをリモート操作・監視するためのソフトウェアをつくり、WebフロントエンドおよびWebバックエンドに連携するための方法を理解することを目的とする。	
	Exercise for TOEIC(R) Test 1	グローバル化された現代社会においては、様々な場面で英語を使いこなす力が要求される。英語力の向上には、「リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング」の4技能をバランス良く学習することが必要である。本科目は、実用的な英語能力の向上を図ることを目標としている。具体的には、TOEICテストのスコア目標450点までに従って演習を行い、各自がスコアアップを目指す。また、コンピュータやインターネットを活用した英語学習などについても取り扱う。	
	Exercise for TOEIC(R) Test 2	グローバル化された現代社会においては、様々な場面で英語を使いこなす力が要求される。英語力の向上には、「リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング」の4技能をバランス良く学習することが必要である。本科目は、実用的な英語能力の向上を図ることを目標としている。具体的には、TOEICテストのスコア目標600点以上に従って演習を行い、各自がスコアアップを目指す。また、コンピュータやインターネットを活用した英語学習などについても取り扱う。	
	工科の線形代数	特に理工学の基礎として重要な概念である行列について学ぶ。工学で扱う現象の多くは、条件を単純化すれば計算が簡単な線形代数の問題に言い換えられる。連立1次方程式の「消去法による解法」から解説を始め、行列の考え方や行列に対する演算を自然に定義する。連立1次方程式の解法、解集合の幾何的性質そして行列の階数の間の有機的関係に注意して前半の授業を進める。主な内容は、ベクトル（ベクトルとスカラー、演算、内積・外積）と行列（行列とベクトルとその演算、行列式、逆行列、階数、連立方程式、1次変換、固有値と固有ベクトル）である。	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学部 医工学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目（学部共通科目）	工科の微積分	微分積分学は、ニュートン、ライブニッツ等により創始され、物体の運動を記述する上で不可欠な学問である。その応用範囲は自然科学、工学等へと広がり、現象を理解、分析するための強力な道具となっている。例えば、速度、加速度は微分を用いて記述され、長さ、面積、体積、質量、エネルギーは積分を用いて記述される。本授業では、工学系専門科目で必要となる微分と積分の基礎を学ぶ。本授業を通して微分積分の考え方や概念、基本的な計算方法の習得を目的としている。その結果、専門科目において微分積分を道具として正しく使えるようになることを目標とする。	
	工科の確率・統計	科学や工学の研究では、多くの場合、実験、観測、調査等が必要になる。統計学はこれらのデータから情報を取り出す学問である。その一つは、データを整理して、その分布、傾向および特徴等を明らかにすることであり、もう一つはデータの背後にある全体の情報を推測することである。これは適当なモデルを使って全体の特性を表す値（パラメータ）を推定する。さらに、このパラメータに関する仮説が妥当かどうかを検定する。講義では 場合の数、試行と事象、確率の意味、平均と分散・標準偏差、母集団と標本、正規分布、ポアソン分布、統計的推定、統計的検定について学修する。	
	物理学	物理学はすべての理工学の基礎であり、学科の専門基礎科目を学習する前に必ず習得しなければならない基礎科目である。通常、物理学は力学、熱力学、電磁気学に分けられるが、本科目では力学に重点をおいて学習する。学習範囲には質点の力学および剛体の力学が含まれる。この授業により、様々な自然界の現象を物理的に捉えることが出来るようになり、これから学ぶ専門的な基礎学力を養うことができる。	
	化学	化学とは「物質に関する科学」であり、本科目では工学部の専門課程で学ぶために必要となる自然科学的な基礎知識を習得することを目標としている。まず、物質を構成する原子および分子、そして「物質質量」の概念を学び、物理化学的な物質の状態と性質、酸・塩基や酸化・還元などの化学反応をはじめ無機化学や有機化学の基礎について学ぶ。本科目を学ぶことにより、工学以外にも自然現象や日常生活に密接したエネルギー問題や環境問題について自ら学ぶための能力を培うことも目標としている。	
	一般生物学	本科目は、主に生物学の基本的事項に関する講義を行う科目である。生物工学の分野では、生物の共通性と多様性、遺伝子の変化と進化、個体の発生と細胞分化、生態系のバランスと保全などを習得することが重要である。そこで本科目では、それらに関連して、突然変異、自然選択、遺伝子発現調節、生態系の物質循環などを学び、生物を巨視的な視野でとらえ、生命の起源とその行く先を考えるためにベースとなる事項を身につけることを目的とする。	
	航空宇宙学概論	航空宇宙学の対象は航空機やロケット、人工衛星や惑星探査機、オーロラや宇宙プラズマなど幅広く存在する。これらは、航空機に関する周辺技術を幅広く学ぶ「航空工学」、宇宙開発につながる力を身につける「宇宙工学」、自然現象を科学的に理解する力を養う「宇宙環境科学」の3分野に分けられる。本授業の目的は、航空宇宙学をより深く学ぶための目標を示すことである。それぞれの分野について興味深い重要な事柄をいくつか取り上げて説明する。	
	航空操縦学概論	航空機を安全に運航するために知るべき知識は多岐にわたる。本授業では、飛行機、その運航、および運航を支える様々なしくみを知ることによって、航空操縦学における学習と訓練の概要の理解を目指す。具体的には、航空機の基本的な構造、飛行の基本原則、航空界の基本的な用語から始まり、仮想フライトを通じた操縦業務、航空気象、航空法、飛行訓練、飛行の準備、エアラインの運航業務に係るシステムなどを概説する。	
	機械工学概論	本授業は、自動車や産業機械のような身近にある代表的な機械を例に、機械工学の各分野がこれらの機械にどのように関わっているかについて、講義を行う。具体的には、最も基本的な知識である4力学（機械力学・流体力学・熱力学・材料力学）および計測制御・設計・材料学・加工学などの知識が、一つの機械を作り上げるまでにどのように関係するのかを学び、機械工学の概要を理解することを目的としている。	
	機械システム工学概論	ロボットや自動車などに代表される「機械システム」に関する知識は、私たちの生活を今後さらに豊かにする上で、非常に重要となる。本授業では、大学に入学してきた学生が、早い段階から「機械システム工学」への関心と理解を深めるために企画されたものである。具体的には、自動車やロボットのような身近にある代表的な「機械システム」を例に、機械システム工学の各分野がどのようにかかわっているかについて講義を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(工学部 医工学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
IV 主専攻科目 (学部 共通科目)	電気電子工学概論	電気・電子・情報・通信技術は、さまざまな産業からインターネットを利用した各種情報サービスに至るまで幅広く浸透し、私たちの豊かな生活と社会システムを支えている。本授業では、現代の電気電子工学を構成する電気・電子・情報・通信工学を対象に、これらの社会的な位置付けを理解し、学生一人ひとりの視野を広げることを目標としている。電気・電子・情報・通信分野の発展の歴史、主要技術、最新動向、今後の展望等を紹介するとともに、それらの基礎知識について教授する。また、電気・電子・情報・通信工学の学び方についても指導する。		
	医工学概論	医工学は医療の科学技術化はもちろん、高齢化社会、医療資源の枯渇あるいは環境問題などの解決に不可欠の学問分野である。医工学を学ぶには医学から理学・工学と多岐にわたる知識を必要とするが、授業では、生体の構造と機能および特異性、生体の各種情報の特異性や種々の物理的エネルギーに対する生体の反応、生体計測と制御、生体を対象とする医療機器や医療システムに必要な条件などを概説し、医用生体工学の全体像が把握できるようにする。		
	生物工学概論	生物学の知識や技術は、医薬品・食品・化粧品等の製造に用いられ、医療の現場において様々な疾患や病原体への対応に広く活用されている。これら生物工学の分野では、生物に関する基本的な知識・技術を理解し、社会につなげることが重要である。本科目では、生物の成り立ち、細胞と器官、DNAやタンパク質を含む生体分子、医薬品の働きなどを学び、産業や医療への応用を理解するためのベースとなる事項を身につけることを目的とする。		
	応用化学概論	化学の知識や技術を応用して創られる化学製品は、豊かな現代社会を支える基礎となっている。そして、これらの化学製品が環境問題の一因やエネルギー問題の解決に役立っていることも事実である。本科目では、無機化学や有機化学の知識を応用して創られる化学製品やその生産技術の概要について学ぶ。さらに、環境問題やエネルギー問題に直面する近代社会の現状を踏まえて大学で化学を学ぶ工学的に应用することの意義について考える。本科目を通じて、将来の文明社会を担う化学技術者としての心構えや考え方を身につけることを目的としている。		
IV 主専攻科目 (学科 開講科目)	医療 技術と 社会	医用機器学	本講義では治療機器、医療機器全般に関して講義する。臨床で使用される診断機器（CT、MRI、超音波断層診断装置、PET等）また、臨床で使用される治療機器（高気圧酸素療法や在宅医療機器等）について取り上げる。次いで、これらの医療機器を用いた診断法、治療法の概要に関して講義する。特に臨床工学領域と関連の深い呼吸、循環領域の検査法、治療法に関しては詳細に解説する。また、臓器移植に関連した脳死、人工呼吸装置についても取り上げる。非常にリスクの高い患者管理に必要な細菌学、バイオクリーンルームについても概観する。	
		医学概論	本科目は、1年次生がはじめて触れる「臨床への直接リンク」と現代社会で生じている問題点や課題をリンクし、将来の方向性や可能性を考えていく科目である。医学は、理論的学問と比べ、基本的に必要となる知識量が多いという特徴がある。したがって、基礎となる知識から関連する多くの分野の知識を含め、過去から現在、そして将来の可能性を意識しながら学問の体系化を行っていく。そして、本学科での志や倫理観を含め、自分自身のモチベーションの持ち方について考えていく科目である。	
		医工系専門英語	近年、医学はもとより工学においても英語で専門的な情報を得なければならない必要性が高まっている。この科目は、一般的な文章読解や対人コミュニケーションの修得に重心を置くのではなく、英語で専門的な文献を読みこなす基礎力の修得を目指していく。そして世界的な視野で医療技術と向き合うために必要な英語での専門用語の修得を目指しながら、英語の基礎力を向上させていく。	
		公衆衛生学	本講義では医療と社会に付随する問題に対し、大局的な視点を養うことを目的とする。まず公衆衛生の基礎的概念、疾病予防とそのための疫学調査法などを解説した後、人口動態と医療・福祉とのかかわり、保健、生活環境と健康、公害と疾病、食品衛生、労働衛生と産業医学、衛生統計の考え方、福祉と社会保障などについて論じる。特に、各国の公衆衛生の考え方の比較に加え、日本で進んでいる高齢化問題を軸として実社会における公衆衛生の理解を進めていく。なお、理解を深化させることを目的に、統計資料の検討や各種の事例研究を交えながら講義を行う。	
		英語プレゼンテーション	本科目ではグローバルな視点で医療技術を捉えていくことを目的に、医工学関連の国際学会の英文論文集や抄録集をテキストとして、毎回トピックスを選び輪読する。英語を通じて最新の研究動向に触れながら、論理的な文章の特徴や語法・用語について学ぶと同時に、英語での質疑や応答の技術、グラフや図表を用いた説明の仕方などにも触れる。仮想的な研究テーマを指定して、英文抄録を作成し、情報発信能力の向上も目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 医工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目（学科開講科目）	医工学の基礎	物理学A（質点の力学・電磁気学）	本科目では、物理学の基礎である「質点の力学」ならびに「電磁気学」の重要な内容に絞って学習する。「力学」は最も簡単な系である一粒子の運動法則（ニュートンの運動法則）の学習から出発し、運動方程式を用いて物体の運動について理解する。引き続き、「仕事」、「エネルギーの概念とエネルギー保存則」、「運動量の概念と運動量保存則」を学習する。「電磁気学」はその入門を意識して、基礎的な知識・考え方を身につけることを目的とする。前半では静電気学的な現象を、後半では磁場が関与する現象において見出される種々の法則を学ぶ。
		物理学B（固体・流体・波動・熱）	物理法則にもとづいて自然現象を捉えるための基礎的な物の見方・考え方について学ぶ。まず、物体の運動とは何か、主に剛体の運動に関するニュートン力学の基礎的枠組について説明する。次に仕事やエネルギーの概念を正しく理解するために、力と運動の関係を見直す。エネルギー保存の概念を、流体の定常流れや、熱と仕事の等価性に対する議論に拡張する。さらに、エントロピーの概念を導入し、熱は仕事に変換できる有効な熱とそうではない無駄な熱があることを示す。最後に、音波と光（電磁波）の両者の性質を比較しながら、波動現象の基礎的事項とその取り扱いについて講義する。
		電気工学A	医用工学において、電気工学は単なる知識としてではなく、機器やシステムを開発したり、臨床工学技士として従事するために道具として使いこなすための基礎科目である。本授業では単に知識を伝達するのではなく、自ら電気現象を考え、回路の計算や解析が行える基礎力の養成を図る。
		電気工学B	本講義では「電気工学A」で基本事項を理解し、最新の臨床工学に必要な電気工学の専門事項を理解するため、工学系科目の学習に繋がる講義を行う。具体的には、電荷と電界、導体と電流、電流と磁界、電磁誘導、電磁波、直流回路（キルヒホッフの法則）、交流回路、過渡現象、電力装置・変圧器、発電・モータ、医用機器の安全基準について学んでいく。
		電気工学実習	本実習では、電気に関連する講義で学んできた理論や法則を実習を通して体得し、「医用治療機器学」や「医用機器安全管理学B」の授業で必要となる基礎的知識や技術を身につけることを目的とする。実習の内容は、オリエンテーション、はんだ付けの方法、実験器具や実験設備の取り扱いの方法を学ぶ。具体的には、商用電源、一次・二次電池、ローレンツ力、電動機、インピーダンスブリッジ、フィルタ回路、過渡現象を実験のテーマとする。
		電子工学A	医療機器の多くはトランジスタで代表される各種の半導体素子が各所で使われている。本講義はその半導体素子の動作原理とその応用について学習する。具体的には、前半で半導体の種類・構造とキャリアのふるまい・移動について、後半でダイオードとトランジスタの種類・構造・特性・応用回路について説明する。この講義を通じ、医用機器で用いられている増幅回路やスイッチング回路、光検出・発光・半導体レーザーなどの光エレクトロニクス素子の理解を深める。
		電子工学B	医療機器の多くはトランジスタで代表される各種の半導体素子が各所で使われている。本講義では半導体素子がいかに電子回路に使われどのような働きをするのかを学習する。ダイオード、トランジスタ、サイリスタ、オペアンプ、集積回路（IC）などの能動素子の構造や特性、生体計測に不可欠な各種センサや治療やデータ転送に必要とされる半導体レーザーなどの光エレクトロニクス素子の電子技術についても具体的に解説する。半導体素子の動作原理と、それがいかに電子回路に使われ、どのような働きをするかなどの応用技術を学ぶ。
		電子工学実習	本実習では電気・電子工学の知識を実験を通じて身につけ、理論と実験結果の違いを考察することにより、問題発見と解決の能力を培うことを目的とする。医療機器の多くはトランジスタで代表される各種の半導体素子が各所で使われている。実験を通じ、半導体素子がいかに電子回路に使われどのような働きをするのかを学習する。ダイオード、トランジスタ、サイリスタ、オペアンプ、集積回路（IC）などの能動素子の構造や特性、生体計測に不可欠な各種センサや治療やデータ転送に必要とされる半導体レーザーなどの光エレクトロニクス素子の電子技術についても具体的に解説する。
		材料工学	本科目では、現代の医療を支える材料とその基礎について講義する。化学的視点から見た材料と、物理的視点から見た材料について解説する。講義前半では、原子の構造、電子配置、化学結合、結晶構造、溶体の性質について説明する。講義後半では、材料の諸物性や機能、特に材料の機械的性質について解説した後、金属材料、セラミックス、高分子材料についてその特徴や製造方法などについて説明する。

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 医工学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
IV 主 専 攻 科 目 （ 学 科 開 講 科 目 ）	医 工 学 の 基 礎	基礎製図	本科目では図面を理解できるようになることを目標とする。また、設計者は自分のアイデアを具現化するため、多くの情報を設計図面上に具体的に表現し、その意図を正確・簡素に製作者に伝えなくてはならない。基礎製図の実習を通じて、図面を正しく読むための読図能力と、対象物を正確に図面に表現する作図能力の体得を目指す。さらに、現在は図面をCAD(Computer Aided Design)で描く時代であるため、CADによる作図の基礎についても体得する。	
	シ ス テ ム ・ 情 報 工 学	情報処理実習	今日の社会・医療現場では、他人に情報を正確に伝達し、かつ他人から正確に情報を受け取るコミュニケーションが非常に重要である。本実習では、その情報伝達に欠かせない情報処理のスキルの向上を通じて、情報および情報伝達とは何であるのかを考察する。具体的には、Windows PC上でMicrosoft Officeを操作して、目的にかなう文書、表、グラフの作成とデータの解析手法を学ぶ。	
		プログラミング演習	システム工学を基に、システムの分析ならびに開発を行う場合、問題をモデル化し数式化する数学的知識が必要である。ほとんどの問題は複雑な計算となる可能性が多く、実際にはコンピュータプログラミング技術により解析する必要がある。本科目では、「システム工学1・2」および「情報処理工学A・B」で習得する知識の理解を深めることを目的に、課題として行う演習を通して、より実践的に経験を積むことにより理解を深めていく。具体的には波形とスペクトル、システム応答のシミュレーション、フィードバック制御技術などについて、基礎から理解を深めていく。	
		基礎解析	身の回りで発生するいろいろな物理的な現象を理解しようとするとき、物理的な現象を方程式で表し、数学的な手法により解く方法が知られている。方程式で表し解くことを修得することにより、物理現象だけでなく、生体もシステムとして理解することができるようになる。この数学的な手法として微分方程式の解法やフーリエ解析、ラプラス変換、複素関数論がある。本講義では、これらの数学的手法についての知識を習得することを目的として、既に学習した微分・積分・三角関数等の知識を基本に、微分方程式、ラプラス変換、フーリエ解析について講義する。	
		応用数学	本科目では既に習得した数学の知識をより実践的なものにするため、「いろいろな問題を自分自身で解く」ことで演習を進めていく。主なテーマは、（1）微分方程式の解法、（2）複素数と複素関数、（3）確率と統計、であり、これらのテーマは卒業研究などで必要とされる知識である。演習では、「いろいろな問題をたくさん解く。ノートは自分で問題を解くことで作る」ことに重点を置き、毎授業で演習問題を各自で解き説明を行うことになる。これにより、解法力と応用力を同時に養っていく。	
		情報処理工学A	本科目では、「情報処理実習」「プログラミング演習」の実践的な学びを受けて、コンピュータの本質をさらに深く理解するための講義を進める。医療現場で利用されている医療情報システムについて、デジタル信号処理、医療情報システムを中心に解説する。また、臨床工学に必要な情報処理工学の基礎である計算機の原理、計算機のソフトウェア、数値計算アルゴリズムについても理解を深化させていく。	
		情報処理工学B	本科目では、「情報処理実習」「プログラミング演習」の学びを受けて、コンピュータの本質を理解するために講義を進めていく。医療現場で利用されている医療情報システムについて、デジタル信号処理、医療情報システムを中心に解説する。また、臨床工学に必要な情報処理工学の基礎、データ通信やコンピュータネットワーク、知的財産や情報関連の法律についても理解を深化させていく。	
		システム工学1	本講義では、医学と工学の両分野を考慮して、人間を含めたシステムを分析または開発する上で重要となる、システム理論、信号理論、制御理論の基礎習得を目的とする。主な内容は、①システム工学の基礎、②システムの設計と評価、③信頼性、④生体システム、⑤制御と伝達関数、でほとんどが卒業研究等に関連してくる重要な内容である。また、特に医療施設で使用されているシステムとシステム工学との関連を中心に数学的知識を深めながら、分析手法についても解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 医工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目（学科開講科目）	システム工学・情報工学 システム工学2	本講義は「システム工学1」で学んだ理論的基礎に基づき、臨床工学に必要な、生体時系列情報や画像情報の信号処理の実際について学ぶ。授業は、脳波などの時間波形を例題として扱う。主な内容は、インパルス応答、伝達関数、信号と雑音、誤差、アンサンブル平均や適応フィルタによる処理、自己および相互相関関数による解析、ゼロクロス法やピーク法など比較的単純な周波数分析手法、高速フーリエ変換を用いたスペクトル推定、量的および質的に限定されたデータの扱い、フィードバック制御である。	
	生体シミュレーション工学	モノづくりでは、実際に作る前にコンピュータ上でモノの特性を微分方程式として表し解析することがある。このような解析する技術はシミュレーションと呼ばれ、大規模システムなど実験的に確認できないような研究にも応用されている。生体内の流体、力学、熱などの物理現象も微分方程式で表すことができ、シミュレーション技術を応用することにより工学的に解明することができる。本講義では、物理現象を微分方程式で表すモデル化・数式化から始まり、有限要素法などの数値計算法の解説、今後の展望等について講義する。	
	生体制御工学	医師が行っている投薬や手術などは、患者を望ましい状態に制御する操作と解釈できる。生物が持つホメオスタシスは細胞外の環境を一定に保つ機能であり、体内で行われる制御そのものである。加えて、治療ロボットや義手・義足の開発に伴ってそれらの制御問題も重要になりつつある。しかし、これまでの医工学分野では制御工学をあまり重要視してこなかった。本科目では、ブロック線図やラプラス変換の復習という座学から始めて、古典制御（PID制御）を実際に使えるように説明する。そして、それを応用して実際の装置をフィードバック制御する手法を学ぶ。	
	最適化工学	最適化という手法は、交通路線やカーナビゲーションのルート検索、効率性が最大となる作業手順の検討、電力損失が最小になる機器パラメータの設定など、現在、至る所で使われている。医療現場、あるいは医療機器開発においても、例えば患者や医療従事者の負担を最小とする治療や費用対効果が最大となる機器開発など、最適化手法が求められる場合は今後ますます増大する。本講義では、評価関数による最適の定義から説き始め、最小二乗法、変分、線形計画法、遺伝的アルゴリズムなどのアルゴリズムを解説する。	
	人工知能アーキテクチャ	近年のロボット開発には、音声認識や画像認識等の技術のみでなく、人の思考や判断の過程を工学的に実現する人工知能も必要となる。人工知能は半世紀も前に開発が始まり、現在では医療への応用も期待されている。本講義では、人工知能の研究を過去から未来へと紹介する。過去に開発されたエキスパートシステムやニューロコンピュータが含まれる。また、現在話題となっている機械学習やディープラーニング、それらを構築する上で有効な手段となるプログラミング言語Pythonについても解説する。	
	医用データマイニング	近年、生活のさまざまな場面で情報が統合的にシステム化され、商業や流通から医療に至るまで、きわめて大量のデータが集積され処理されるようになった。こうした”big data”から有用な情報を抽出する技術はデータマイニングと呼ばれている。本講義ではデータマイニングの基礎概念として、データベース、知的情報処理、パターン認識、クラスタリング、決定木、各種の回帰分析などについて解説し、医療分野での応用事例を軸に最新の研究成果も紹介する。	
	ヒューマンコンピュータインタラクション	人とコンピュータのかかわりは多様化し、さまざまなモダリティを介して高度なインタフェースを成している。運動障害者のための代替コミュニケーション手段としてのBrain Computer Interface BCIはその代表といえる。本講義では、BCI技術を例として、脳波やNIRSなどの生体計測、それらの信号処理、意思決定論理、信号のフィードバックや外部システムの制御などについて学ぶ。この分野の医療・福祉への応用についても触れ、最新の研究成果も紹介し、英文の資料の輪読も行なう。	
	アドバンストプログラミング	「プログラミング演習」から始まり積み重ねてきた、プログラミング言語の文法、与えられた問題のアルゴリズムを考えること、プログラムとして表現することについて、より実践的なソフトウェアの開発、例えばグラフィカルユーザーインターフェース（GUI）を使ったプログラミングなどについて理解を深めていく科目である。本科目では、C++やC#でGUIを使用したソフトウェアの開発を実践的に身に付けていくことを目標とし、オブジェクト指向型のプログラミングについても解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学部 医工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目 （ 学 科 開 講 科 目 ）	医 工 学		
	物性工学	電気、磁気、超音波、光などの刺激を生体に加え、その応答を解析して情報を得ることは重要である。物理刺激の伝播法則や、刺激に対する生体特性を理解しておく必要がある。本講義では、物性工学の概要、生体の力学特性、生体の流体力学的特性、生体の電気特性、生体と超音波、電磁波、生体の産熱と放熱について講義する。個々の生体物性について、生体における光の吸収と散乱、生体の放射線特性、医用画像に関して解説する。	
	機械工学	機械工学は「ものづくり」の根幹をなす学問領域の一つであり、あらゆる機械システムの設計、開発、製造に活かされている。機械工学なくして、人類にとって有用な「もの」は存在し得ないといっても過言ではない。機械工学は材料力学、機械力学、熱力学、流体力学の4力学と、設計製図を柱としている。本科目はこれらの4力学に焦点をあて、修得しておくべき基礎的事項をME機器との関連を含めて講義する。	
	バイオマテリアル	バイオマテリアルを用途別に分類して、材料の構造、性能、加工性、耐久性、経済性などを系統的に理解する。さらに、材料と生との界面において重要な問題である材料の生体適合性、安全性について分子レベルに掘り下げて学習し、バイオマテリアルの本質を理解して現状の問題点の把握と理想的なバイオマテリアルの設計に必要な基礎について、また手術用材料、軟組織補綴材料、眼科材料、医薬用材料、金属材料、高分子材料、セラミックス、生体適合性材料、生体分解吸収性材料、バイオマテリアルの安全性などを中心に学習を進める。	
	バイオメカニクス	本講義は生体の各種生理学的現象を力学的原理、主に機械工学にもとづいて理解することを目的とする。講義前半では、一般力学の基礎について、「物理学」の授業で学んだ内容を復習した上で、生体組織のうちでも取り扱いが比較的容易な硬組織を採り上げ、その材料力学的特性について学ぶ。その後、生体組織の異方性や粘弾性などについて解説する。さらに、血流など生体流れの力学について説明し、流れの種類や特徴、血液の性質について学習する。講義後半では、生体の熱的現象理解の基本として、熱力学の法則、熱伝導、気体の状態方程式などについて学ぶ。最後に、筋骨格系の力学として、関節反力や筋力の推定法について説明する。	
	医用ロボティクス	現代社会においてロボットは身近な存在となっており、多くの分野に応用が進んでいる。本科目では、ロボット工学への導入として、まず「ロボットとは何か」、その起源や開発における歴史的経緯の説明からはじめ、昨今話題となっている人工知能との関連性にも言及する。その後、主に機械工学の立場より、ロボットアームの力学、ロボットの構成要素（機械要素、アクチュエータ、センサ）、ロボットの制御と設計の基礎について説明する。これらを通じてロボット工学の方法論について修得することを目標とする。	
バイオミメティクス	バイオミメティクスは、生物のもったすぐれた機能（仕組み）や構造（形状）を模倣し、それらを人工的に再現し、工学や医療分野に応用する研究分野である。そのため、対象とする生物をよく観察し、その本質・特徴を表現するモデルを的確に作成し、物理学的・材料的・工学的に実現するプロセスが重要となる。本科目では、このようなバイオミメティクスの方法について学ぶ。サメ肌をヒントにした水着や、動物の足裏のパターンをまねたスポーツシューズなど、さまざまな開発応用事例を通じて、生物はこんなに巧妙な仕組みで動いていたのか、その本質の捉え方に重きを置き講義する。		
生 体 機 能	人の構造及び機能A	身体の様々な構造を明らかにする解剖学と身体の様々な機能を明らかにする生理学は、医学の中で最も基本的な学問である。本講義ではまず、人体あるいは生命体の基本単位である細胞のはたらきについて、分化の程度を異にする細胞の集団からなる組織の特徴と構造について解説する。そして人体の構造の主となる骨格と筋の構造と機能について解説する。また、神経細胞の細胞レベルではたらきから、各種の感覚を含む神経系の構造と機能について、末梢から中枢に渡って説明する。	
	人の構造及び機能B	基礎医学においては、体の構造と機能に密接な関係をよく理解する事が大切である。本講義では人体を、循環器、免疫系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、内分泌系といった諸系統の解剖および生理的機能について解説する。特に呼吸・循環・代謝系を理解することは生体機能代行装置学を学ぶ上で大変重要である。また、消化器系、免疫系は生化学、免疫学につながる基礎的知識であるため、十分に理解する必要がある。人体の構造と機能を理解し、今後学習する臨床医学関連科目への導入とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 医工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目(学科開講科目)	生体機能		
	生化学	生物は細胞の集合体である。細胞は、個々のレベルで成長、分化、修復、適応、自己複製を行いつつ、細胞間、組織間で協調した統一体としてふるまう。この活動、協調統合には化学反応が基本的に介在している。本講義はこれらの生化学的機序の理解と、その上で、さまざまな病態における変化とその解析方法の理解を目的とする。具体的には生体内物質すなわち、糖質、タンパク質、脂質、酵素、電解質、ホルモン、生体色素などの生物学的意義などについて解説する。	
	病理学概論	臨床工学が病める人を対象とする以上、疾病の認識は欠くことの出来ない。病理学は基礎医学と臨床医学にまたがる学際的な学問である。本講義では、人体の正常な状態を学習した上で、病的な状態を解説する。病理学の医療における意義、病理関連領域等(代謝障害、循環障害、退行性病変、炎症感染症、免疫、新生物等)について総合的に理解することを目標とする。また、これに関係する各種検査方法とその診断法、臓器別疾患の病態等についても講義する。	
	生理学	全ての人体の器官や組織は、人体の内部環境を恒常的に維持するために機能している。人体は恒常性を維持できなくなると、機能不全や疾病と呼ばれる病的状態に陥る。したがって、病気の診断に恒常性の善し悪しの評価は不可欠で、臨床の現場では、機能的生体情報あるいは形態学的生体情報を採取して診断が行われている。本講義では、日常の診療に多用されている生体情報を取り上げ、それらの生体情報の生理学および病理学的意義とそれぞれの測定法について学ぶ。	
	免疫学	免疫は「疫を免れる」という名前通り、病原微生物から生体をまもる重要な防御機構である。体外循環においてはアレルギー反応、輸血時の拒絶反応、自己免疫疾患における自己抗体の除去などに遭遇する。ここでは医用工学者として必要とされる免疫システムの基本的なしくみを理解することにより、今後必要となる臨床的な項目について、その機序、治療法を理解するための基礎とする。免疫システム概論、感染症と免疫、血液型と輸血、移植免疫、アレルギー(過敏反応)、自己免疫、免疫抑制剤、免疫吸着療法などについて理解するための基礎的事柄を学習する。	
	基礎医学実習	本実習では座学で得た知識を体験学習を通じて身に付けることを目的とする。人体の標本を手にとって人体の構造的な角度から理解すると同時に、呼吸・循環系および筋肉系の機能や心電図や脳波の波形を観察することによって器官や系の働きや構造・機能の両面から観察する。実習器具取り扱い法、脳波の計測、平衡感覚、イオンと心筋収縮、病理標本鏡見、人体解剖体幹部、人体解剖頭頸部、ヒトの心電図、血圧測定、尿検査、救急蘇生をテーマとする。	
	臨床医学総論	医学には、生物学的側面や理論的な研究手法に基づく基礎医学と、診断と治療や予防を中心に据えた臨床医学とがある。本講義では、現在の医療技術の礎となっている医学の歴史について概観する。次いで、内科学、外科学の総論としての、症候学、治療の管理事項、基本的な手術操作と手術機器、インフォームドコンセント、セカンドオピニオンについて解説する。	
	薬理学	特に治療を目的とした臨床工学技士に、薬理学の知識は必須である。ここでは、薬物の分子レベルでの作用から個体レベルでの作用を簡潔に説明し、薬剤の基礎から臨床使用法まで、系統的理解を目指す。臨床工学領域において頻りに使用される薬剤、心臓外科手術・人工透析関連・麻酔関連・集中治療領域で汎用される薬剤に関しては、使用法や副作用について、詳しく講義する。薬理学の講義であるが、臨床医学・解剖学・生理学の体系的な理解が基本となる。	
放射線画像診断学	本講義は、「放射線」という名称であるが、放射線を使わない画像診断装置(超音波やMRI)も内容に含む。疾病の治療は、「来院一診断一治療方針決定一治療」の順序で行われるが、治療方針決定の道具として、近年非常に重要性が増しているのが画像診断である。病院で働く際に必要な、(1)画像解剖の知識、(2)疾病が示す画像所見、(3)画像診断の目的などについて、お互いがつながる学習を目指す。		

授 業 科 目 の 概 要			
（工学部 医工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目 （ 学 科 開 講 科 目 ）	生 体 計 測	計測工学	今日の医療現場には多数の生体計測用の医用機器が導入され、診断、治療、介護などの全ての分野で幅広く利用されている。本講義では、まず計測とは何か、計測値の意味と取り扱い、誤差について等の基礎について講義する。次に工学技術を使用した医療現場で行われている計測について、その基礎や原理を中心に講義する。主に取り扱う機器は、心電計、脳波計、筋電計、生体情報の各種分析装置である。
		生体信号処理工学	生体信号は比較的規則性の高いものからランダム過程として扱うべきものまで幅広く、定常性も考慮すると、データ処理においては注意が必要である。この講義では定常不規則過程を例として、サンプリング、平均値と分散、数値フィルタ、確率密度関数、フーリエ解析、高速フーリエ変換、自己相関と相互相関、パワースペクトルなどについて解説する。デジタルデータのサンプルを配布し、実際に処理を体験することにより生きた知識として習得する。
		生体計測装置学	生体計測は診断学の基本手段であるのみならず、治療効果の評価や治療経過の監視、さらには予防や健康管理に重要である。生体計測技術は医用工学とくにMEによって発展しているのが臨床工学との関連性が深く、臨床工学技士が臨床の場で直接関与する機会が多い重要項目である。生体計測装置学の学習においては装置そのものの機構や機能を知り、解剖学・生理学・病理学などに基づいた生体計測の意義を充分に理解することを目標とする。
		医用画像装置学	現代の診療ではX線やMRIなど様々な画像検査が行われており、医療を支える大きな分野となっている。それゆえ、臨床あるいは医用機器メーカーなどでの従事を目指すには、これに関わる装置の構造と原理、及びそれを使った画像の構築方法に対する理解が欠かせない。本講義では、単純X線、X線CT、シンチグラム、SPECT、PET、超音波画像、MRI、及び内視鏡について、装置の工合・原理と画像構築法を説明する。
		生体計測装置学実習	「生体計測装置学」で学んだ知識を基に実習を行なう。種々のセンサを手にとり動作原理を確認すると同時に、実際にセンサを生体に装着して生体情報の表示記録および計測を行い、座学では得られない体験学習を通じて疑問点や問題を解決する。実験器具取り扱い法、サーモグラフィ、心機図、血糖の計測、光電比色計、脳幹誘発電位、生体計測装置学演習、筋電図基礎と応用、肺機能検査、超音波検査、心臓カテーテル法について実習する。
	機 器 と 安 全	医用機器安全管理学A	今日の医療現場では、数多くの医用機器が用いられる。医療行為の違いによってこれらはその都度組みかえられて使用される。医用機器を安全に使用し、患者の安全を十分に確保しながら医療行為を遂行するためには、医療機器やそれらを構成する部品の安全性の保障だけではなく、使用環境、患者、医療スタッフなど、これら全てを一つの「システム」として考え、安全対策をとることが有効である。本講義では、システム安全の基礎となる信頼性工学について概説し、信頼性に関する製品の設計手法、データの処理方法、予測方法、管理手法の基礎に触れる。
	医用治療機器学	この講義では、物理的エネルギーを利用した臨床現場でよく用いられる治療機器を、電氣的治療機器、手術用機器、機械的治療器、ICU/CCU用機器に分けて、それらの使用目的、原理・構造、操作・運用、保守・点検について解説する。主な機器は、除細動器、電磁波治療器、電気メス、レーザー治療機器、温熱治療装置、内視鏡、結石破碎装置、麻酔器、ICU/CCU関連機器、ダ・ビンチです。また、滅菌・消毒装置についても解説する。	
	医用機器安全管理学B	「医用機器安全管理学A」に続き、より現実的な安全上の諸問題を各論的に取り上げ、具体的な対処の手法を示し、次いで臨床工学技士の業務の一部となる安全管理の実践について、病院内における業務を紹介しつつ解説する。呼吸、循環、代謝領域の各種治療法の安全管理、そして医療施設内で実際に起こったトラブルに関して事例を挙げて、その対処法について講義を進める。医療施設における安全管理の取り組みに臨床工学技士として直ちに参加しうるレベルにまで到達することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 医工学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目 (学 科 開 講 科 目)	機 器 と 安 全 レギュラトリーサイエンス	本学科は、学習する科目が電気・電子、機械、材料、物性、計測、システムといった工学分野に加えて基礎・臨床医学と幅広いという特徴がある。将来、医療現場、医療機器メーカー、医療機器認証機関、および医療行政現場で専門性を活かすためには、これらの領域を束ねて活用することが必要である。特に、医療機器開発の企画やプロジェクト管理は医工学の幅広い領域を束ねて活用する業務であり、レギュラトリーサイエンスはそれを支える知識・手法の一つである。本授業では一般的なレギュラトリーサイエンスの概論と手順に引き続いて、医療機器・医用システムの実際の開発過程について紹介する。	
	臨 床 工 学 生体機能代行装置学総論 A	「人の構造及び機能 A・B」で学修した内容を基に、機器により代行しうる生体の機能について講義する。この講義では主に代謝機能代行装置について解説する。まず、血液浄化療法の歴史について概説し、腎疾患と病態生理について解説する。次いで、血液透析の原理と構成では、拡散と浸透、限外濾過、透析膜について、治療モードについて説明する。透析技術では、透析液、抗凝固薬、パスキュラアクセスについて解説する。また、透析技術を応用した各種治療法について学ぶ。	
	生体機能代行装置学総論 B	この講義では主に、循環機能代行装置について学修する。循環機能障害の病態生理について解説する。損なわれた循環機能を補うための手段としての、PCPS、IABP、補助人工心臓について解説する。また、手術に欠かせない人工心臓装置、人工呼吸装置とその周辺機器についての概要を説明する。不整脈治療としてのペースメーカ、ICD、CRTとその管理の概要についても学ぶ。	
	代謝機能代行装置学	臨床工学技士の業務で最も従事者数が多いのが、血液浄化業務である。この講義では腎疾患を対象とした代行装置を中心に講義する。その前段階として、腎臓の解剖と機能、病理について学習し、その上で血液透析について透析原理、透析装置の構造・構成操作・運用、保守・点検、患者管理、シャント形成術について学ぶ。その他の治療法として、血液濾過、腹膜透析、血液吸着についても解説する。又、腎不全以外の各種疾患に対する血液浄化療法についても学習する。	
	循環機能代行装置学 A	心臓外科手術の際に使用する各種循環機能代行装置に関して講義する。具体的には人工心臓装置に関して、血液ポンプ、人工肺、病態生理、運転方法、トラブルシューティングについて、補助循環に関して、IABP、PCPS、左心バイパス、拍動流補助人工心臓、全置換型人工心臓に関して説明する。さらに各種装置に使用する物品に関する原理、材料について、操作法、装着方法、生体の臓器との違い、安全な使用方法、保守点検方法について解説する。	
	循環機能代行装置学 B	電子技術の進歩とともに、ペースメーカや除細動器は、著しい進歩を遂げた。本講義ではまず、心電図の読み方、ペースメーカの構造、ペーシングリードの構造、プログラミング、トラブルシューティングに関して解説する。ペーシング治療は、従来の徐脈性不整脈の治療から、致死性不整脈の治療、重症心不全の治療へと効用範囲は広がっていく。ペースメーカならびに除細動器に関する知識の習得ならびに、カテーテルアブレーションに関する知識の習得を目的とする。さらに、心機能の評価に関する心臓カテーテルの理論と実際の仕様、虚血性心疾患に対する血管内カテーテル治療についても学ぶ。	
	呼吸機能代行装置学	呼吸は生物にとって根源的な行為であり、呼吸が損なわれれば死に直結する。本授業では、呼吸機能を代行する人工呼吸装置と吸入麻酔を行う麻酔器について学ぶ。まず呼吸の生理と病態生理について深く学習する。その上で、人工呼吸装置の構造、基本的操作法、適用疾患、呼吸モード、警報、医療ガス配管、安全管理について講義する。さらに、新生児や乳幼児の呼吸管理に加えて、麻酔器の構造、保守点検、吸入麻酔の方法と目的についても説明する。	
ゼ ミ ナ ー ル 卒業研究 1		本学科では 4 年間の総まとめとしてこれまでの知識や技術を総合した「卒業研究」を行うが、「卒業研究 1」はこの研究が科学的手法で行えるように準備するための科目である。ゼミナールではテーマを選定し、仮説を立てて実験手法をデザインするまでを行なう。研究テーマは、興味を持つ領域に相応しい研究室に所属して決め、最新の情報を調査し、研究が何処まで究明され、どこが解っていないかを知り、未知の分野について仮説を立てる。その仮説を究明するにはどのような実験をどんな方法で行うのが適切かを考える能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学部 医工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	ゼミ ナ ー ル	卒業研究2	「卒業研究1」で決定した研究テーマについて実験を行い、得られた結果と考察を基に結論を導く過程で科学する態度を養う。同時に専門知識を深めて医用工学技術に関する諸問題に積極的に挑戦する行動力と創造性を培うとともに、今後技術者や臨床工学技士として医用機器の研究開発あるいは臨床応用に生かすことを目的とする。最終的には卒業研究発表会で各自が研究成果を発表し、質疑応答を行う中でプレゼンテーションの技法、特に表現力や説得性を身につける。
	資 格 関 連 科 目	医用治療機器学実習	現在臨床で用いられている治療機器の臨床的適応、機器の操作、保守・点検・管理について学ぶ。治療機器の基本動作、原理について習熟することは極めて重要である。輸液ポンプ、電気メス、超音波断層診断装置、ペースメーカ、医用治療機器学演習、麻酔器、シリンジポンプ、低圧持続吸引器、直流除細動装置・AED、超音波メス、内視鏡治療の原理と構成について実習する。
		医用機器安全管理学実習	現在の医療技術は医用電子工学領域の進歩により、様々な医用機器が用いられている。それらの医用機器を安全に使用するためには、生体の電気的特性、物理的特性、生物学的特性について理解することが重要である。生体の特性を踏まえた上で検査領域、治療領域における医療の安全について実習する。また、臨床で使用される代表的な機器の安全対策についても実習する。
		看護学概論	本科目では、保健医療チームの中で働く看護職の位置づけとその役割および看護活動の一端を紹介する。また、看護職およびその他の医療職の対象である健康人から健康を逸脱している患者やその家族の健康や疾病に対する考え方や対処行動について理解し、医療職としての支援方法について、その基本的考え方や技術を理解することができるよう理解を深める。看護の対象は、患者のみならずその家族にも影響を与えていることを考慮し、ケア・対処方法などを患者・家族の立場から一緒に考えていく。
		臨床医学各論A	本講義では内科学的疾患へのアプローチを学ぶ。疾病の原因と症状、患者心理疾患の経過と転機について講義する。基礎的内容を踏まえて、チアノーゼ、浮腫、肥満、痩せ、呼吸困難、動悸、黄疸の症候について講義する。次いで、脱水、酸塩基平衡、電解質異常、ショック状態について学修しそれぞれの病態が全身に及ぼす影響と治療について学ぶ。各論として、呼吸器、循環器、泌尿器、内分泌、神経系疾患について解説する。
		臨床医学各論B	本講義では、腹腔臓器である消化器系の疾患、感染症、血液疾患を対象とする。各臓器の生理的機能が失われるとどのような疾患が起きるのか、どのような治療法が適当であるのかを講義する。消化器系疾患では、食道・胃・腸・肝臓・胆道系・膵臓の疾患についての病態生理・治療法について解説する。感染症は、総論および主要な感染症（各論）の他、社会問題にもなっている院内感染・多剤耐性菌について取りあげ、その発生原因・対処法について説明する。血液疾患は、貧血、白血球、血液凝固異常などを取り上げ、その病態生理と治療法について学ぶ。
		臨床医学各論C	麻酔と手術による治療は多岐にわたり多くの分野で成果を上げているが、これには医用生体工学技術の役割も極めて大きい。本講義では基礎的な生理学を確認した後、麻酔の概要、手術の方法、適用、滅菌や殺菌、患者管理等の基礎的事項、またこれにかかわる医用工学的な側面について解説する。
		関係法規	本講義では、臨床工学技士として医療関連業務を行うにあたり、その根拠法となる医事関連法規（臨床工学技士法、医療法、医師法、薬事法、臓器移植法など）を中心に法の内容を学ぶ。また、臨床工学技士の業務を具体的に定めている臨床工学技士業務指針についても解説する。さらに「医の倫理と医療行為」や「医療過誤および医療事故」など、現代医療が抱えている諸問題にも言及し、医療に携わる者が必要とする基本的な知識を習得する。

授 業 科 目 の 概 要			
（工学部 医工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目 （ 学 科 開 講 科 目 ）	資格 関 連 科 目	生体機能代行装置学実習	本実習は臨床工学技士の主要な業務に関する内容であり、生体機能代行装置の操作、保守・点検・管理について習得することを目的とする。人工心肺装置に関して、血液ポンプ、人工肺、運転方法、トラブルシューティングについて、補助循環に関して、IABP、PCPSについて実習する。さらに各種装置に使用する物品に関する原理、材料について、操作法、装着方法、生体の臓器との違い、安全な使用方法、保守点検方法を学ぶ。
		臨床実習A	これまでに学んだ臨床工学の知識をもとに、臨床工学技士の行う業務について臨床の現場で見学を中心に実際の知識や技術を体験学習する。実習は見学が中心になるが、臨床の現場では座学では得られない知識や問題解決のヒントを提供してくれる。患者の尊厳を損なわず、恐怖や不安を与えることなく患者に接する技術を修得し、臨床医学について研鑽を積み重ねていく。主に、人工心肺業務・透析業務について実習する。
		臨床実習B	これまでに学んだ臨床工学の知識をもとに、臨床工学技士の行う業務について臨床の現場で見学を中心に実際の知識や技術を体験学習する。実習は見学が中心になるが、臨床の現場では座学では得られない知識や問題解決のヒントを提供してくれる。患者の尊厳を損なわず、恐怖や不安を与えることなく患者に接する技術を修得し、臨床医学について研鑽を積み重ねていく。主に、集中治療室業務・心臓カテーテル室業務について実習する。
		臨床実習C	これまでに学んだ臨床工学の知識をもとに、臨床工学技士の行う業務について臨床の現場で見学を中心に実際の知識や技術を体験学習する。実習は見学が中心になるが、臨床の現場では座学では得られない知識や問題解決のヒントを提供してくれる。患者の尊厳を損なわず、恐怖や不安を与えることなく患者に接する技術を修得し、臨床医学について研鑽を積み重ねていく。主に、ME機器管理室業務について実習する。
		臨床実習特論	臨床実習に行く前に臨床実習の基本的な流れを身につける。基本的な臨床実習マナーとして準備、予習方法や、患者接遇の方法、実習中の安全管理として記録・報告・連絡・相談の重要性、院内感染対策・守秘義務・個人情報保護を再確認する。そのうえで客観的臨床能力試験：Objective Structured Clinical Examination (OSCE) を実施し、筆記試験では評価できない技術、態度を客観的に評価する。
		ME基礎	医工学は工学と医学が融合された学問領域である。その中でMEとはメディカルとエンジニアリングの融合を意味する。この科目では、医工学を学び、さらに医療機器の開発、操作運用を円滑に行うための基礎的知識の定着を目指す。電気、電子工学、機械工学、物性工学、材料工学、臨床工学がどのように医療現場に応用されているかを総合的に学ぶ。
		臨床工学特論1	臨床工学関連科目でこれまで学んだ診断、治療の工学的基礎となる生体計測、電気電子工学、治療機器学、生体機能代行装置学、安全管理工学及び種々の臨床医学系科目などについて知識の整理を行うと共に、各科目内容の関連性をよく理解することを目的とする。これにより企業、病院において求められる知識を系統的に整理する。医用生体工学の本質を理解すると共に、実際の問題発生時に迅速に対処できる力の基を養う。
		臨床工学特論2	「臨床工学特論1」で学んだ診断、治療の工学的基礎となる生体計測、電気電子工学、治療機器学、生体機能代行装置学、安全管理工学及び種々の臨床医学系科目などについて知識の整理を行うと共に、各科目内容の応用編として理解を深めることを目的とする。これにより企業、病院において求められる知識を系統的に整理し、応用することができる。医用生体工学・臨床工学の本質を理解すると共に、実務的に対応する能力を養う。

(位置関係図)

東海大学 湘南校舎
神奈川県平塚市

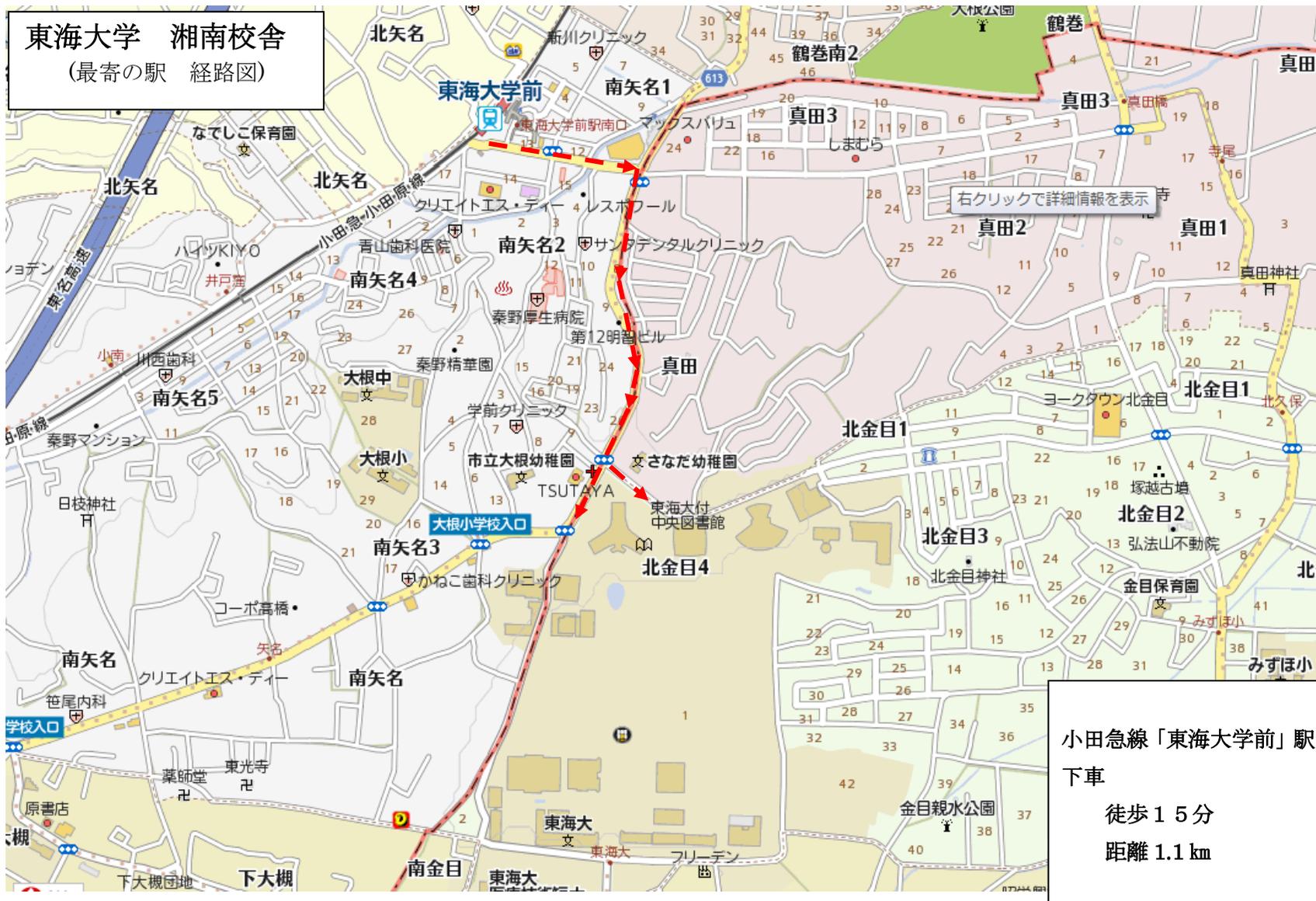


図面 5

東海大学 伊勢原校舎
(位置関係図)



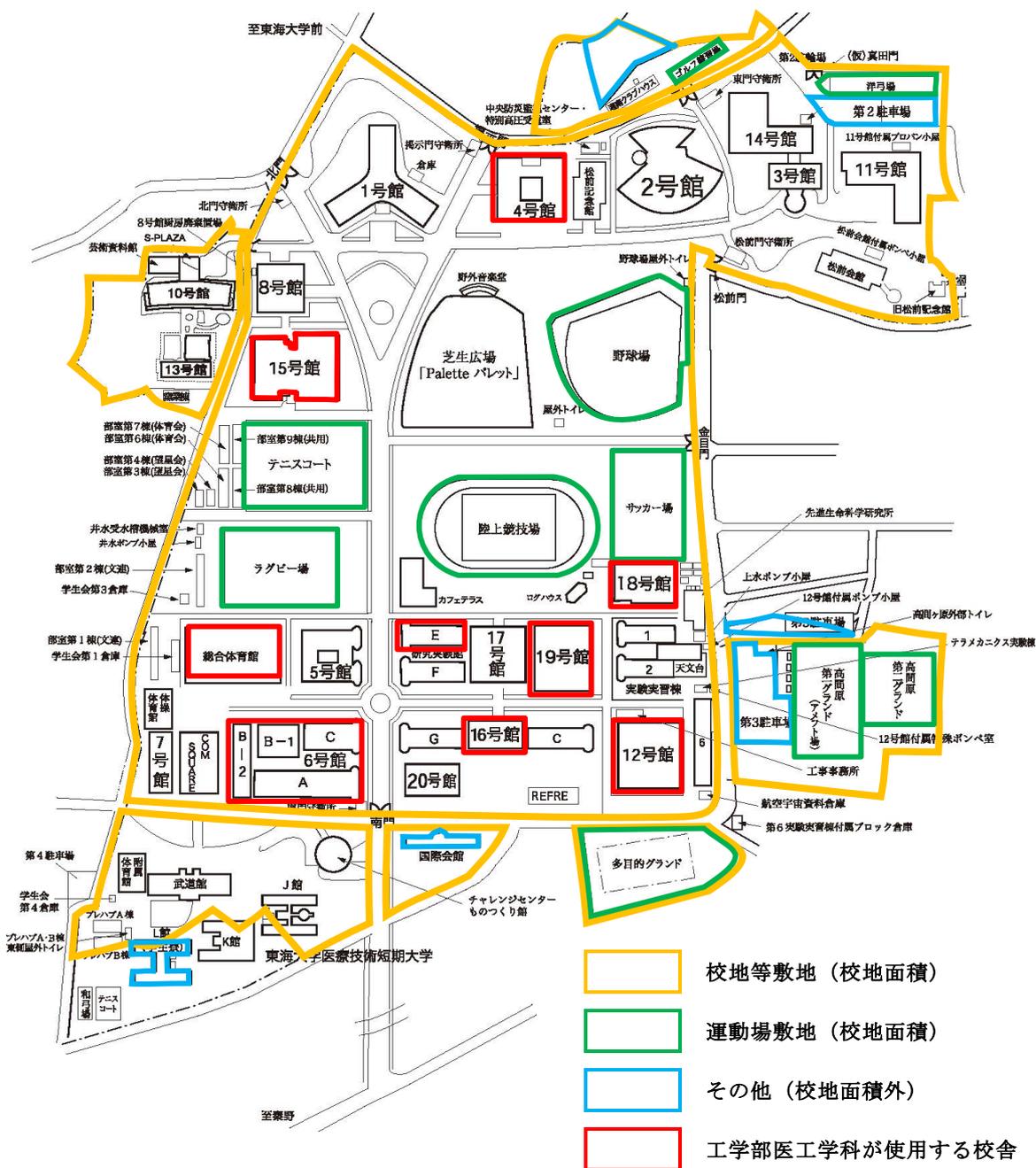
図面 6



東海大学 伊勢原校舎
(最寄の駅 経路図)



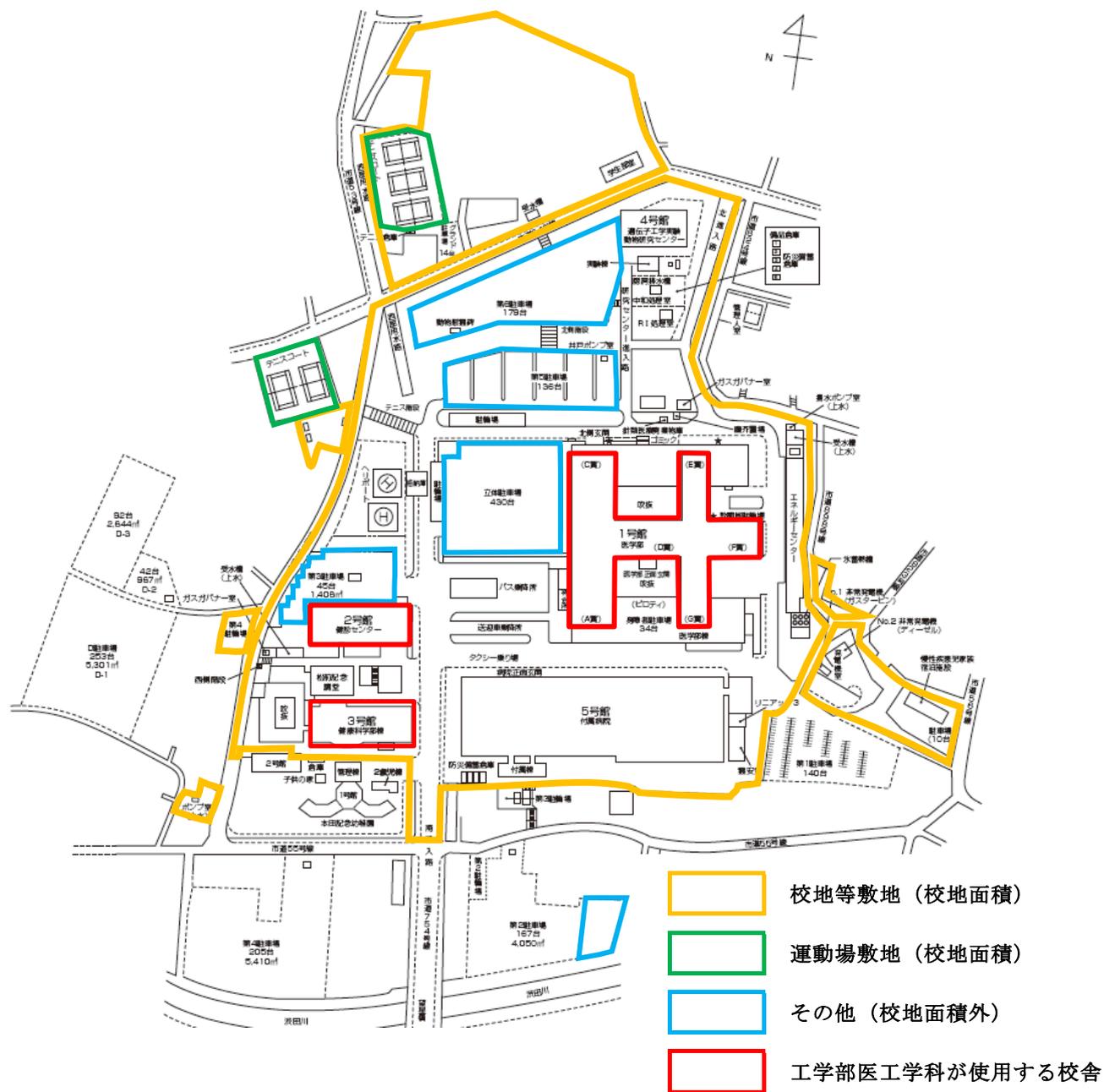
湘南校舎配置図



湘南校舎 校地・校舎面積

区分	専用	共用	共有する他の学校の専用	計	
	校舎敷地	377,017.10 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	
運動場用地	155,168.27 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	155,168.27 m ²	
小計	532,185.37 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	532,185.37 m ²	
その他	14,699.03 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	14,699.03 m ²	
合計	546,844.40 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	546,844.40 m ²	
校舎	専用	共用	共有する他の学校の専用	計	
	249,088.72 m ² (249,088.72 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	249,088.72 m ² (249,088.72 m ²)	

伊勢原校舎配置図



伊勢原校舎 校地・校舎面積

校地等	区分	専用	共用	共有する他の学校の専用	計
	校地等	校舎敷地	101,425.38 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²
運動場用地		4,725.9 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	4,725.9 m ²
小計		106,151.28 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	106,151.28 m ²
その他		12,691.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	12,691.00 m ²
合計		118,842.28 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	118,842.28 m ²
校舎	専用	86,066.04 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	86,066.04 m ²
		(86,066.04 m ²)	(0.00 m ²)	(0.00 m ²)	(86,066.04 m ²)

**設置の趣旨等を記載した書類
工学部医工学科**

【本文目次】

- 1 設置の趣旨及び必要性…p. 2
- 2 学部・学科等の特色…p. 4
- 3 学部・学科等の名称及び学位の名称…p. 4
- 4 教育課程の編成の考え方及び特色…p. 5
- 5 教育方法，履修指導方法及び卒業要件…p. 8
- 6 実習の具体的計画…p. 11
- 7 取得可能な資格…p. 13
- 8 入学者選抜の概要…p. 13
- 9 教員組織の編成の考え方及び特色…p. 14
- 1 0 施設・設備等の整備計画…p. 16
- 1 1 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画…p. 18
- 1 2 管理運営…p. 18
- 1 3 自己点検・評価…p. 19
- 1 4 情報の公表…p. 19
- 1 5 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等…p. 23
- 1 6 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制…p. 24

1. 設置の趣旨及び必要性

1. 東海大学の2022年度改組改編

東海大学では、建学80周年にあたる2022年4月に全学的な改組改編を行う。その目的は、来るべき社会の変化に対応し、地球市民として未来を創造していく人材育成を推進すること、そして、建学以来継承してきた文理融合の理念と一貫教育を基軸とした教育・研究活動をより一層進化・推進し、学生が幅広い知識を養い、深い理解力をもって社会に貢献することである。改組改編の概要としては、学部学科の再編により、全国5キャンパス8校舎23学部62学科・専攻体制とする。学部学科の新設状況は次のとおりである。

①湘南キャンパス

湘南キャンパスにおいては、理工系から情報系、社会・人文科学、体育スポーツまで、文理融合型総合大学ならではの多様な学部構成を活かし、受験生の多様なニーズに応えられるよう、既設の学科・課程を統合してシナジー効果を引き出すための集約型学科構成を目指し、湘南校舎（神奈川県平塚市）に次の学部学科を新設する。

児童教育学部（児童教育学科）を新設する。

情報理工学部（情報メディア学科）を新設する。

建築都市学部（建築学科、土木工学科）を新設する。

工学部に機械システム工学科、医工学科、生物工学科を新設する。

なお、児童教育学部（児童教育学科）の新設は設置認可申請中であり、工学部医工学科の教育研究は、湘南校舎及び伊勢原校舎（神奈川県伊勢原市）で行う。

②東京キャンパス

東京キャンパスにおいては、都心からほど近くに位置する利便性の高い立地を活かし、来るべき国際社会で活躍できる人材を育成するため、高輪校舎（東京都港区）に次の学部学科を新設する。

経営学部（経営学科）を新設する。

国際学部（国際学科）を新設する。

情報通信学部（情報通信学科）を新設する。

なお、これらの学部学科の教育研究は、湘南校舎及び高輪校舎で行う。

③静岡キャンパス

静岡キャンパスにおいては、海洋国家日本を支える人材を養成してきた既設の海洋学部のさらなる充実と静岡地域における人材育成に関するニーズに応えるため、静岡校舎（静岡県静岡市）に次の学部学科を新設する。

海洋学部に海洋理工学科（海洋理工学専攻、航海学専攻）を新設する。

人文学部（人文学科）を新設する。

④九州キャンパス

九州キャンパスにおいては、熊本・阿蘇の地でこれまで育んできた教育資源を継承し、文

理分断からの脱却を目指す教育を推進するとともに、農学部さらなる充実を図るため、熊本校舎（熊本県熊本市）において、文理融合学部（経営学科、地域社会学科、人間情報工学科）を新設し、臨空校舎（熊本県上益城郡）において、農学部農学科、動物科学科、食生命科学科を新設する。なお、農学部の教育研究は、熊本校舎及び臨空校舎で行う。

2. 工学部医工学科設置の社会的背景・必要性、教育研究上の目的・養成する人材

超少子高齢化社会が到来し社会保障費の増加する中、一方では先端医療の一層の実現や健康寿命の増進などのQOLの向上が求められている。医療は単に先端技術を導入するだけでなく、さまざまな社会的な問題を考慮した総合的なソリューションであることが求められている。したがって、狭い専門性にこもることなく、多分野の変化に対して広い視野を持ち柔軟に対応し、継続的に問題解決にあたる人材が求められている。

工学部医工学科においては、現代の医療問題に対して、科学・技術に携わる者としての使命と社会との関係を、工学の規範に則した志をもって考える教育を行う。それを基礎として、先端医療を支え、さらに発展させるための医療技術・医療機器・医用システムの研究・開発、応用および工学的評価など複眼的視野から、工学分野と医学分野の確かな知識・技術を持ち、社会の変化に柔軟に対応しながら、有機的かつ継続的に問題解決に向かうことができる技術者及び臨床工学技士としての人材を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

工学部医工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与する。

『知識・理解』

先端医療技術・医療機器・医用システムの仕組みや生体機能・生体情報の工学的評価法を理解し、応用できる基礎学力。

『汎用的技能』

医療技術、医療機器の技術進歩に対応できる柔軟な力。

『態度・志向性』

工学の規範に即した志と倫理観を有し、確かな専門知識・技術をもって、社会の変化に柔軟に対応しながら、問題解決に向かうことができる。また、チーム医療に必要な、人と人との円滑な関係を構築できるコミュニケーション力や相手の考え方を理解、尊重し、また自分の考え方を相手に適切に伝えようとする態度。

【具体的な人材像】

- ・ 工学的分野に精通した臨床工学技士
- ・ 医療機器の開発のリーダー

3. 研究対象とする中心的な学問分野

工学部医工学科が研究対象とする学問分野は、医用生体工学に関する学問及び技術を発展

させることに寄与する分野であり、「生体システム工学」、「医用電子工学」、「生体計測工学」、「臨床工学」が挙げられる。

2 学部・学科等の特色

医工学科では、低学年で医療問題に対する工学的課題を探りアプローチする点と態度を身に付けさせ、「学部共通科目」、「医療技術の基礎」科目群で「専門技術の知識と技能の学び」を自主的に進めるための基礎を固める。まず、「先端医療を継続し発展させる”確かな知識に裏付けされた技術”を学科に設置されている専門科目群によって確実に身につけさせる。これと同時に、社会の変化を考慮し、専門的な力を社会に役立てるため、専門科目群の実験、実習により基礎的技術と機器の安全性、取扱法を身に付け、実践的応用力を養う。そして卒業研究により、創造力・積極性を身に付けながら、臨床工学技士や医療機器を扱う技術者として社会の課題にあたっていくことを目的とする。また、本学医学部との連携を密にすることで医療における課題を的確に抽出・認識し、教育に反映させる。

なお、工学部医工学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像（平成17年1月）」で提言された「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、大学の7種の機能のうち、臨床工学技士としての「高度専門職業人養成」及び医工分野の「幅広い職業人の養成」を担う。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

1. 学科の名称

工学的観点から人体の構造・機能・特性、疾病に対するアプローチ法を研究し、生体医工学分野の技術者、臨床現場でその技術、知識を駆使し医療に貢献する臨床工学技士を養成することから、学科名称を「医工学科」とする。

2. 学位の名称

医療産業界、医学界では、工学に強い医療技術者が求められていることから、工学部における広い領域をカバーできる人材であることを示し、かつ基礎工学分野を強化した医工学科の独自性を示すため、医工学科の学位の名称を「工学」とする。

【日本語名称】

学部名称 : 工学部

学科名称 : 医工学科

学位名称 : 学士（工学）

【英訳名称】

工学部 : Undergraduate School of Engineering

医工学科 : Department of Medical Engineering
学士 (工学) : Bachelor of Engineering

4 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程の編成方針

【カリキュラム・ポリシー】

工学部医工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施する。

『教育課程・学修成果』

(1) 1、2年次 (工学系基礎分野)

4年制総合大学ならではの幅広い人文系・工学系教育を行い、他分野にまたがる問題や課題を探る視点を有し、豊かな人間性を基にした社会的知識、物事を論理的、多面的に捉えることができる能力を養う。具体的には「学部共通科目」、「医療技術と社会」により、医用生体工学が人間社会に果たす役割、社会への貢献やその意義について教育する。「医工学の基礎」では電気・電子工学、機械工学、計測工学等の面での充実した教育環境・カリキュラムを取り入れ、高度かつ的確な実践的工学知識を習得できるように図る。このためには、講義形式の授業に加え、物理実験、情報処理実習、プログラミング実習、基礎医学実習などの実験・実習科目を充実させることで対応する。

(2) 3、4年次 (医用工学系専門分野)

1、2年次に習得した論理的考察力、工学基礎知識を基に、臨床医学、治療・診断機器に関する座学と実習を展開する。この教育にあたっては工学系教員に加え、医師、臨床工学技士からなる医学系教員を充当し、臨床医学のほか、各種医療機器の構造・原理から治療のメカニズムまでを徹底して教育する。さらに、関連する分野の最新の知見を吸収できるよう、学生の志向に応じて先端分野の講義科目も開講する。

その結果として医療機関、メーカー、商社、公的機関等を含む幅広い医療分野において将来の指導者に相応しい技術者、臨床工学技士を養成する。

『学修成果の評価方法』

医工学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、修得単位数・GPAによる分析評価等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っている。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげている。

以上のカリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のため、後述する教育課程に基づき、資料のとおり図式化することができる。**【資料1】参照**

2. 教育課程の構成

1) 現代文明論・現代教養科目・英語科目（教養科目）

教養科目として、1年次から2年次にかけて、「Ⅰ現代文明論」、「Ⅱ現代教養科目」、「Ⅲ英語科目」の科目区分に必修科目を開講する。これらの科目の学びをとおして、現在の複雑化した社会の課題に対して、幅広い視点から、自らの考えを深め、行動していく姿勢を育てるとともに、後述する主専攻科目と影響しあいながら、ディプロマ・ポリシーの達成に向け、学修を進めていく。

教養科目の学びは以下のとおりである。

「Ⅰ現代文明論」

幅広い分野の問題点や課題の発見、そして解決への姿勢を育てていくことを目的とした「現代文明論」や「現代教養講義」の履修をとおして、自らの人生の過ごし方や、その姿勢について考える機会を設定している。

「Ⅱ現代教養科目」

“基礎教養科目”において、大学教育や学部教育への理解を深める「入門ゼミナールA」、「入門ゼミナールB」を開講し、“発展教養科目”において、国際・地域を基点として社会について学び、そこでの課題の把握とその解決について能動的に考える授業を展開する「シテイズンシップ」、「地域・国際理解」、「現代教養講義」を開講する。

また、“健康スポーツ科目”において、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤として、「健康・フィットネス理論実習」「生涯スポーツ理論実習」を開講する。

「Ⅲ英語科目」

“英語コミュニケーション科目”において、国際的に幅広く社会と関わる素地を身につけるため、「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」を開講する。

2. 主専攻科目（専門科目）

「学部共通科目」科目群

工学部共通で開講している科目であり、基本的に工学部の学生が受講可能である。多岐にわたる工学の分野について、その基礎を幅広く学んで多様な視点と工学の基礎知識を習得することを目的としている。工学部を構成する各学科の「概論」科目も開講されており、各学科の概要を学修することが可能である。「医工学概論」では、医工学分野の概要を学修する。

「医療技術と社会」科目群

生体医工学を履修する上での基礎的知識を習得することを目的としている。工学と医学のかかわりの基礎的概念について学修する。

医療行為の基礎概念を学び、工学分野がいかに医学分野に応用されているのかについて講義する。今後展開されていく専門科目への入り口となる。「医用機器学」、「医学概論」が相当する。

「医工学の基礎」科目群

工学的視点で医学を俯瞰するための基礎的知識を学修する。医学を物理的視点、数視点から工学を医学に応用した際の客観的評価方法の基礎的知識を学ぶ。また、医学に応用されている電気・電子工学を履修させ、応用科目につなげる。

生体を工学的に扱うためには、電気回路アナロジーや数値シミュレーション、生体計測データの解析等、電気・電子工学の知識が必要である。この科目群では、物理・数学の知識を確認しながら電気・電子工学、情報工学などの応用に向けた分野について学習する。

「物理学」、「電気工学」、「電子工学」で理論を学び、「電気工学実習」、「電子工学実習」で理論を実践することで知識の定着を図る。

「システム・情報工学」科目群

情報化社会を見据え、医学に応用されている情報処理技術・生体情報処理技術を学修する。

情報を適切に評価・運用する技術を学修する。この科目群では、システム・情報処理技術の応用科目も配置する。

医療分野において得られたデータの定量的な扱いは欠くことのできない技術である。生体から得た時系列および画像データを適切に処理する能力も求められている。ここで学習したスキルを「生体計測学」科目群、「医工学」科目群へとつなげる。

「医工学」科目群

生体物性工学、機械工学等が配置され、医学と工学にまたがる共通の分野について学修する。これらの科目を履修することで、工学の生体への応用手法を身に着ける。

「物性工学」、「機械工学」を学修し、人体の構造や仕組みを工学的観点から評価、考察するための基礎的内容を学び、「臨床工学」科目群、「生体機能」科目群へとつなげる。

「生体機能」科目群

主として人体の構造と機能について学修する基礎的な科目群である。

人体の構造と機能について学習する。「人の構造及び機能A・B」で人体の解剖と生理機能の概要を学修し、次いで人体の機能を免疫学、生理学、生化学の視点からさらに細かく学修する。これらの科目は、「臨床工学」科目群の理解へとつながる

「生体計測」科目群

生体情報を得るための計測理論を基礎として、センサやトランスデューサの機能を学ぶ。これらの知識に基づき、生体シミュレーション、生体制御、医療機器のプログラミング、生体機能代行装置の操作運用について学習し、医工学の重要な要素である「マン・マシンシステム」の基礎を習得させる。併せて本来電気現象ではない温度や圧力を含めたさまざまな生体情報を得るための技術、理論を学修する。また生体から得た情報を処理し、研究、臨床にフィードバックするための手法を学ぶ。

「機器と安全」科目群

医用機器を安全に使用し、患者の安全を十分に確保しながら医療行為を遂行するために不

可欠である、医療機器やそれらを構成する部品の安全性および使用環境全体の安全対策について学修する。システム安全の基礎となる信頼性工学、病院内における安全管理の実際などを学ぶ。

「臨床工学」科目群

医工学科の特徴である、生体機能代行装置に関する科目群である。医学と工学が融合され、臨床場面と強く関連する技術について学修する。既習の生体機能、生体計測、電気・電子工学、情報工学などの知識が臨床場面にどのように生かされているかを具体的に学ぶ機会となる。「生体機能代行装置学総論」で、呼吸、循環、代謝の生体の3大機能と、それを代行する機器の概略を学修し、各論として、「呼吸機能代行装置学」「循環機能代行装置学」「代謝機能装置学」の深い理解へとつなげる。

「ゼミナール」科目群

大学での学びの集大成である卒業研究を、「卒業研究1」、「卒業研究2」にて扱う。自ら調査、研究し、それを他人に伝える手法を身につける科目群である。

「資格関連科目」科目群

臨床工学技士の受験資格を取得するために規定された科目群であり、卒業に必要な単位に含まれない自由選択科目とする。

臨床工学技士国家試験要件科目であり、卒業単位に含まれない科目である。第4 Semester以降に順次配置し、進路選択の鍵となるように配置する。また、国家試験関連科目の実習科目として配置している。

5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教養科目と主専攻科目（専門科目）の計画的な融合

本学は、教養科目と主専攻科目（専門科目）の融合の実現を目指し、1年次から2年次にかけて、次のとおり教養科目を配置している。

大学教育や学部教育への理解を深め、大学生活を送るうえで必要なアカデミックスキルの基礎的能力・知識を養う「入門ゼミナールA」、「入門ゼミナールB」、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤となる“健康スポーツ科目”や国際的に幅広く社会と関わる素地を身につける“英語コミュニケーション科目”により、主専攻科目（専門科目）への円滑な学びへと導いていく。

また、多様な人々が民主政治の担い手である市民として、意見の違いを乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成するにはどうすればよいかを考えることを目標とする「シティズンシップ」、多様な人々の視点に立ち、地域社会・国際社会の様々な課題を発見し、その解決について考える「地域・国際理解」の学びを通じて、学生が社会の構成員であることを自覚し、社会と関わろうとする自発的な意識を高め、公共に資する判断と行動の必要性を認識することにより、自らが社会の持続的な発展に向けて取り組んでいく必要性を認識し、深

化させていく。

以上を礎に、2年次に学修する本学の基幹科目である「現代文明論」や「現代教養講義」により、正しい姿勢や倫理観をもって、自ら考え、問題解決を目指して、挑み、仲間と集い、成し遂げていく姿勢を身に付けていく。そして、「主専攻科目（専門科目）」の学びと融合しながら、現代社会に必要とされる専門知識や技術に加え、倫理観をもって、様々な課題に積極的に取り組んでいく姿勢を育成していくカリキュラム体系となっている。

2. 教養科目に基づく専門科目の展開

医工学科の学習の流れは、教養科目による基礎知識の修得と専門科目により得た専門知識による社会への貢献を目指している。低学年における医療技術の基礎、医工学の基礎等の科目群により専門科目への興味を持たせる。

医工学は医学と工学の学際的な分野であり、工学的基礎知識、医学的基礎知識を第1～4セメスターで定着させ、5セメスター以降の専門分野の学修成果へと繋げる。

3. 履修順序と学修の進め方

本学においては、カリキュラムの体系化を目指し、全科目を3桁の数字でナンバリングしている。1桁目は履修推奨年次、2桁目は科目群やグループ、3桁目は履修時の条件の有無を表している。これらカリキュラム表に記載して学生に提示し、履修モデルと合わせて学生が学修計画を組み立てる際の一助となるように対応している。

1) 学修の進め方

教養科目の学びを踏まえ、専門科目における学修の進め方は以下のとおりである。

「学部共通科目」科目群

医工学分野の概要を理解し、その後につながる科目を効果的に学習するために、「医工学概論」を1年次前期に開講する。

「医療技術の基礎」科目群

基礎的な科目である「医用機器学」、「医学概論」は、1年時に開講する。医療機器と医学の基礎的な内容を理解する。

「医工学の基礎」科目群

基礎的な科目は1、2年次に開講する。「物理学」、「電気工学」、「電子工学」を開講し、専門科目の理解へつなげる。

「システム・情報工学」科目群

今後ますます発達する情報技術、AI・IT技術に対応するために、基礎的な科目である「情報処理工学」、「プログラミング実習」、「システム工学」を1・2年次に開講し、3年次に「生体シミュレーション工学」、「生体制御工学」、「人工知能アーキテクチャ」へとつなげる。

「医工学」科目群

医工学の基礎科目である「物性工学」、「機械工学」、「バイオマテリアル」等の科目を2年次から3年次にかけて学修し、より専門性の高い科目への興味を喚起する。

「生体機能」科目群

「人の構造及び機能」、「生化学」、「病理学」等の基礎医学的科目を1・2年次に学修し、「生体計測」、「資格関連科目」への興味を喚起し、それぞれの科目の関連性を理解させる。

「生体計測」科目群

「計測工学」を2年次に学修させ、発展的科目である「生体計測装置学」、「生体信号処理工学」のより深い理解へとつなげる。

「機器と安全」科目群

3年次に「医用機器安全管理学A・B」などにより、システム安全の基礎となる信頼性工学、病院内における安全管理の実際などを学ぶ。

「臨床工学」科目群

2年次に「生体機能代行装置学総論」で、呼吸・循環・代謝代行装置学の基礎を学修させ3年次に履修する専門科目の理解につなげる。

発展的科目及び資格関連科目の基礎知識となる科目として、「循環機能代行装置学」、「呼吸機能代行装置学」、「代謝機能代行装置学」を開講する。

「ゼミナール」科目群

「卒業研究」は大学生活の集大成であり、各教員の研究領域から自分の興味のある分野を選択し、1年間をかけて研究・卒業論文を作成する。

「資格関連科目」科目群

臨床工学技士国家試験関連科目であり、「臨床医学各論」、「ME基礎」などを開講する。

2) 卒業要件

以下の合計で124単位以上修得する。

(履修科目の登録の上限：20単位(1学期))

□科目区分Ⅰ現代文明論<必修科目> 2単位修得

□科目区分Ⅱ現代教養科目

基礎教養科目<必修科目> 4単位修得

発展教養科目<必修科目> 6単位修得

健康スポーツ科目<必修科目> 2単位修得

□科目区分Ⅲ英語コミュニケーション科目 <必修科目> 4単位修得

□科目区分Ⅳ主専攻科目 76単位修得

<必修科目>

- 学部共通科目に設定された科目から1単位を修得
- 学科開講科目に設定された科目から12単位を修得

(計13単位)

<選択科目>

- 学部共通科目 ■医療技術の基礎 ■医工学の基礎 ■システム・情報工学
 - 医工学 ■生体機能 ■生体計測 ■機器と安全 ■臨床工学 ■ゼミナール
- に設定された選択科目の中から合わせて63単位以上修得

(計63単位)

<自由科目>資格取得希望者のみ履修する。卒業要件に含まない。

- 資格関連科目 23単位

□科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30単位修得

合計124単位修得

3) 履修モデル

前掲の【具体的な人材像】に基づき、履修モデルを資料として添付する。**【資料2】参照**

4) 履修科目の登録上限について

確実な学修とその定着を図るため、CAP制を設定する。1学期(1 Semester)における履修登録の上限を20単位と定めることにより、確実な授業外学習(予習・復習)がなされるようにする。資格取得のための卒業単位数に含まれない科目、Semester期間外の実習等については、「セッション科目」として扱うため上限の単位数にカウントしない。

5) 他大学における授業科目の履修について

他大学における授業科目の履修、単位認定については、大学設置基準に基づき本学が定めるルールに則り活用していく。但し、資格取得等に関わる科目については、その基準を満たしているか等、慎重に審査して行う。

6 実習の具体的計画

ア 実習の目的

臨床工学技士国家試験受験資格を得るため、臨床工学技士法に定められた単位数の臨床実習を行う。

臨床実習を通じて、先端医療技術・医療機器・医用システムの仕組みや生体機能・生体情報の工学的評価法を理解する。また、医療技術、医療機器の技術進歩に対応できる柔軟な力を身につける。さらに、チーム医療に必要な、人と人との円滑な関係を構築できるコミュニ

ケーション力や相手の考え方を理解、尊重し、また自分の考え方を相手に適切に伝えようとする態度を養う。

イ 実習先の確保の状況

【実習施設一覧】のとおり、実習先の確保について支障はない。【資料3】参照

【実習施設一覧】

実習施設名	所在地	実習科目	受入れ可能人数
東海大学医学部付属病院	〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 143	臨床実習 A	14 人
		臨床実習 B	14 人
		臨床実習 C	14 人
東海大学医学部付属八王子病院	〒192-0032 東京都八王子市石川町 1838	臨床実習 A	14 人
		臨床実習 B	14 人
		臨床実習 C	14 人

※資格取得を目指す学生は、「臨床実習 A～C」のいずれか 1 科目を修得する。

ウ 実習先との契約内容

個人情報の保護、守秘義務について、大学側から誓約書を提出している。また、「臨床実習指導者」の指示に従わない場合は直ちに実習を中止させることが含まれている。

エ 実習水準の確保の方策

日本臨床工学技士会によって「認定臨床実習指導施設」の指定が行われており、指定要件に「認定臨床実習指導者」の在籍が必須となっている。当該指導者は、日本臨床工学技士会主催による講習を受け、認定試験を受けている。この認定資格により実習指導水準は確保されている。

また、「臨床実習指導マニュアル」を作成し、臨床実習先に配布して質の確保をしている。

オ 実習先との連携体制

実習開始前、実習中、実習終了後に実習先の「臨床実習指導者」と面談または電話にて学生の状況について打ち合わせを行う手順となっている。また、学生への連絡網、実習指導者、学内の実習責任者の連絡先を交換している。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

水痘、風疹、麻疹の予防接種状況、抗体値を測定し、基準以下の場合は予防接種を行い、予防接種証明書を実習先に提出している。

キ 事前・事後における指導計画

臨床実習を行う学生に対し、感染対策、臨床実習に関する注意点、礼節等について講義を実施している。また、実習終了後に報告会を実施している。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

臨床実習中、専任教員は学内に最低1名待機し、不測の事態に備えている。また、臨床実習中は2週間に一度を目安に巡回指導を行う。

ケ 成績評価体制及び単位認定方法

基本的には、実習先の「臨床実習指導者」が、実習中の課題の提出状況、態度、意欲について評価する。実習成績に関しては学内成績責任者によるレポート等の点検後、最終判定がなされる。

7 取得可能な資格

工学部医工学科で取得可能な資格は、国家資格である臨床工学技士の受験資格であり、資格取得にあたっては、卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格関連科目の修得が必要である。なお、受験資格取得が卒業の必須条件ではない。

8 入学者選抜の概要

1. アドミッション・ポリシー

【アドミッション・ポリシー】

『求める学生像』

工学部医工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。

工学部医工学科で定められたディプロマ・ポリシーで、求められている能力を身につけると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくこと。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくこと。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していること。

(2) 思考力・判断力・表現力

科学的根拠に基づく生体医工学の理解に必要な論理的思考力と判断力もち、医学と工学の境界領域を意識して学ぶために努力できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

医工学科の教育内容は多様な周辺分野と関連するため、みずから進んで情報収集し、さまざまな人々と交流できる積極性を持っていること。

2. 入学者選抜の概要

工学部医工学科の入学試験は、次のとおり予定している。

学校推薦による選抜入試としては、付属高等学校長の推薦に基づいて書類審査及び「小論文」の試験により選抜を行う「付属学校推薦型選抜入学試験」、学校長の推薦に基づいて書類審査及び「小論文」、「面接試験（口述試験含む）」の試験により選抜を行う「公募制学校推薦型選抜入学試験」を実施する。

学力等による選抜入試としては、文系の3科目または理系の3科目を受験して高得点の2科目の結果で合否判定を行う「文系・理系学部統一選抜入学試験」、3教科の科目を受験して3科目の結果で合否判定を行う「一般選抜入学試験」、書類審査を経て大学入学共通テストの成績により合否判定を行う「大学入学共通テスト利用選抜入学試験」、書類審査及び課題発表、面接試験等により選抜を行う「総合型選抜入学試験」を行う。

なお、入学試験の募集定員全体の割合は、学校推薦による選抜入試 29%、学力等による選抜入試 71%である。

3. 入学者選抜の体制

入学試験における判定は、学長の責任・指揮のもと、学長を委員長、副学長、学部長、入学センター所長を副委員長とし、該当する学科の学科長等により構成される学部入試判定委員会によって実施される。

また、入試問題の作成は、入学試験の運営全体を統括する入試運営本部に設置される出題・採点本部の「入試問題作成部会」において行われる。入試問題作成部会は、「学科試験各科目」、「専門試験科目」、「実技試験科目」、「小論文」ごとに置かれ、その責任者及び委員は、出題・採点本部長から指名を受けた学部長の推薦に基づき、原則として専任講師以上の教員とし、学長が任命する体制となっている。

9 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 専任教員組織

工学部医工学科の専任教員組織は、教授5名、准教授2名、助教1名の8名で構成されており、完成年度における年齢構成は、40～49歳1名、50～59歳3名、60～64歳2名、65～69歳2名となっている。

本学の定年齢は、「学校法人東海大学教職員定年規程」のとおりであり、完成年度までに定年を迎える教員が1名（教授1名）いるが、「学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規」第2条別表の規定に基づき、特任教員として完成年度まで雇用することについて、「東海大学教員人事委員会」で承認されている。**【資料4】参照**

完成年度後の教員組織の計画については、令和7年度の完成年度以降において、中堅・若

手教員の教育・研究能力の育成を踏まえて昇格を目指すとともに、定年を超えている教員については、次のとおり後任の補充計画を策定している。

対象者	採用予定年度	採用条件等
教員A（教授 63 歳） 主な担当科目：「ヒューマンコンピュータインタラクション」	令和 8 年度	博士の学位を有する 30～50 歳代で、生体システム工学を専門分野とし、教授もしくは准教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者

この計画に基づき、他大学の現職教員等から広く候補者を募り、本学の教員採用基準に照らし合わせた厳格な審査のもと、採用を行い、開設時の教育水準の維持・向上を図る。

2. 教養科目の教員配置の考え方

本学においては、総合大学の強みを生かした文理融合の教育を進めており、教養科目については、各学部において運営するのではなく、センター等により行い、学部とは別の組織により運営を行っている。教養科目を構成する各科目については、学部の特色等にあわせて授業科目に教員を配置し、学生同士も学部や分野を越えてお互いに交わりながら、全学的に同一の授業形態にて授業を行う方法を実践する。このため、「Ⅰ現代文明論」、「Ⅱ現代教養科目」、「Ⅲ英語科目」については、原則として兼担兼任教員が担当する。なお、「Ⅱ現代教養科目」の「入門ゼミナール1・2」については、学部学科教育の導入を担う科目であるため、専任教員が担当する。

3. 専門科目の教員配置の考え方

ゼミナール科目や演習科目など、継続的な指導が必要な科目については、原則として専任教員が授業を実施し、履修者数を適切な人数で行うことにより対応していくが、医学等の専門知識や病院での経験が必要な科目については、実績がある他学科の教員を優先して配置する。

「学部共通科目」科目群

「医工学概論」は、研究・教育実績のある専任教員が担当する。そのほかの科目については、各分野を専門とする兼任教員が担当する。

「医療技術と社会」科目群

主に医師・臨床工学技士・看護師教育の経験のある専任教員が担当する。

「医工学の基礎」科目群

生体医工学領域の研究を行っている工学系教員・臨床工学技士の資格を持った専任教員が担当する。

「システム・情報工学」科目群

情報系の研究・教育経験のある工学系教員が担当する。また、生体情報処理についての経

験がある工学系の専任教員が担当する。

「医工学」科目群

生体医工学系の研究経験を持った工学系教員、臨床工学技士の資格を持った専任教員が担当する。

「生体機能」科目群

医師・臨床工学技士の資格を持った教員、生理系・生体系の研究経験のある専任教員及び実績経験を有する兼任教員が担当する。

「生体計測」科目群

生体計測は生体医工学領域について重要な分野であり、生体情報、生体情報計測法を熟知した工学系の専任教員が担当する。

「機器と安全」科目群

医用機器を安全に使用し、患者の安全を十分に確保しながら医療行為を遂行するために不可欠な医療機器の安全性および使用環境全体の安全対策について学ぶ分野であり、実績経験を有する専任教員が中心となって担当する。

「臨床工学」科目群

臨床工学は、主として「生体機能代行装置学」を取り扱うため、主として臨床工学技士の資格を持った専任教員及び兼任教員が担当する。

「ゼミナール」科目群

すべての専任教員が担当する。

「資格関連科目」科目群

臨床工学技士の国家試験関連科目であり、専任教員及び実績経験を有する兼任教員が担当する。

10 施設・設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

工学部医工学科は、1～2年次の教育を湘南校舎（神奈川県平塚市）において、3～4年次の教育を伊勢原校舎（神奈川県伊勢原市）において行う。

湘南校舎の校地面積は532,185.37㎡であり、多目的グラウンドをはじめ複数の運動場が整備されており、芝生広場「Palette パレット」などの学生の休息できる場所やその他の利用のための適当な空地も十分に確保されている。また、伊勢原校舎の校地面積は106,151.28㎡であり、学生コミュニケーションセンター（3号館）などの学生の休息できる場所やその他

の利用のための適当な空地も十分に確保されているため、新たな整備計画はない。

2. 校舎等施設の整備計画

校地校舎等の図面のとおり、湘南校舎において、12号館を中心として、専任教員研究室、コンピュータ室、教室等を専用・共用として確保している。また、伊勢原校舎においても、1号館を中心として、専任教員研究室、コンピュータ室、教室等を専用・共用として確保している。これにより、湘南校舎での1～2年次の教育、伊勢原校舎での3～4年次の教育、教員の研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書等の整備について、工学部医工学科の学問領域に関わる図書資料として、図書76,036冊を整備しており、教育研究に支障はない。引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書資料を幅広く収集して充実させる予定である。

学術雑誌については、プリント版ジャーナルと電子ジャーナルの2形態を整備する。「学術雑誌一覧」のとおり、多数の学術雑誌を整備しており教育研究に支障はない。**【資料5】参照**

また、既にオンライン・文献データベースが整備されており、学内の図書館をはじめ各施設、研究室、一部は学外から“SSL-VPN”を利用した24時間検索を実現している。

図書館の施設整備については、工学部医工学科の1～2年次が利用する湘南校舎の図書館の面積は11,089㎡、3～4年次が利用する伊勢原校舎の図書館の面積は3,215㎡であり、両校舎の図書館にそれぞれに閲覧室や東海大学蔵書検索システム(TIME-OPAC)を利用できる検索パソコンが既に整備され、教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

なお、東海大学では、新型コロナウイルスの流行に伴い、遠隔授業が導入されたことを契機として、電子書籍を利用できる環境を整えている。具体的には、学生や教職員がさまざまな専門分野の基本的な内容に関する電子書籍を自由に閲覧できるサービスを目指し、丸善雄松堂株式会社の「Maruzen eBook Library」(<https://elib.maruzen.co.jp/>)において、各学部の教員が推薦した各分野の基礎的・入門的な図書の中から特に選出した約1550タイトルと、岩波書店発行の「岩波新書」、「岩波現代文庫」シリーズなど500タイトルが利用可能となっている。また、先に述べたオンライン・文献データベースにより、世界各国で刊行されている学術雑誌や国内外で発行されている主要新聞・雑誌類の記事、「世界大百科事典」「日本国語大辞典」「新英和大辞典」といった辞書類、地図データベースなど数多くのさまざまな情報を大学の附属図書館以外の場所から検索・閲覧できる環境が整えられている。

本学では、社会情勢の変化に対応した教育研究環境を整えるべく、教員や学生が必ずしも大学の附属図書館に来なくても、書籍や情報の検索・閲覧が可能となる「非来館型サービス」を拡充していく。

他大学図書館との連携について、本学は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。また、国・公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係を確立している。その実績を生かし国立情報学研究所NACSIS-ILLのILL文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。

神奈川県内では神奈川県図書館協会に加盟し、その下部組織である大学図書館協力委員会

に参画し、県内の大学・短期大学図書館と共通閲覧証による館内における閲覧及び文献複写を原則とする相互利用により、活発な協力活動を展開している。今後は、同協会加盟の公共図書館、専門図書館と館種を超えた幅広い相互協力活動の展開への可能性も高まり、活発な協力活動を展開する計画である。

1 1 2 以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

1～2年次の教育を湘南校舎（神奈川県平塚市）において、3～4年次の教育を伊勢原校舎（神奈川県伊勢原市）において行い、湘南校舎の収容定員は160名、伊勢原校舎の収容定員は160名である。

専任教員の研究室、授業を行う教室等の各施設について、湘南校舎、伊勢原校舎それぞれに確保しており、湘南校舎における1～2年次の教育、伊勢原校舎における3～4年次の教育を支障なく実施することができる。

なお、湘南校舎、伊勢原校舎における各教員の出校日（授業実施日を含む）の曜日を固定していることから、教員・学生ともに、1日のなかで2校舎間を移動することは生じないため、余裕を持った授業運営ができる。また、学部学科の運営、教学、研究等を支える事務組織についても、湘南校舎、伊勢原校舎それぞれに既に構築されているため、教育研究に支障がない体制となっている。

1 2 管理運営

工学部医工学科の管理運営は、基本的には工学部教授会によってなされる。教授会は「東海大学学部教授会規程」に従い、通常、月1回開催され、その構成員は教授、准教授、講師及び助教であるが、必要に応じてその他の教職員を加えることができる。教授会は学部長がこれを招集し、その議長となるが、このとき構成員の3分の2以上の出席がなければ成立しない。また、その議決は、出席人員の過半数の賛成を要する。

なお、教授会では次のことを審議することで実際の学部運営を行っている。

- (1) 研究及び教育に関する事項
- (2) 学生の入学、卒業、学位の授与に関する事項
- (3) 学生の学籍異動に関する事項
- (4) 教務及び学生生活に関する事項
- (5) その他必要と認められる事項

また、工学部には、教育・研究及び管理運営の質的向上を図るために必要な事項の検討・点検・評価活動に関する「評価委員会」、教務事項に関する「教務委員会」、FD活動の推進に関する「FD委員会」、広報活動の充実に関する「広報委員会」が設置され、これら委員会は、学部長及び教授会との連携と機能分担がなされる。

13 自己点検・評価

東海大学は、学長の諮問機関として東海大学評価委員会が設置され、大学の自己点検・評価を行いながら、その結果に基づいて各種教学改革の提言を行っている。

各学部には、学部評価委員会が設置されており、ここで自己点検・評価を行うことになる。東海大学で実施している自己点検・評価活動は、機関点検・評価と教員個人の総合的業績評価に大別することができる。

1. 機関点検・評価

機関点検・評価は、学部・研究科等を単位として、各教育機関が、東海大学全体の中期目標・計画に沿って、学部・研究科の中期目標・計画を立て、ミッション・シェアリング・シート（5年計画で学部・研究科の教育研究改革、改善の目標と手段を明記した書類）に記載することから始まる。

このミッション・シェアリング・シート記載項目の達成度や問題点について、各学部・研究科が毎年度末に自己点検・評価を行った後、学部・研究科の相互評価に付され、さらに大学評価委員会によって最終的な評価が行われて学長に報告される。

また別途、大学基準協会が定めた点検・評価項目に従った自己点検評価報告書も作成している。学長は、これに基づいて、翌年の改革改善を指揮する流れが作られている。

2. 教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が、その活動状況について Web を利用して登録することが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、①研究活動、②教育活動、③学内外活動の3項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況を、教育活動については学部における教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動などが評価対象となる。これらは、教員の所属学部で毎年総合評価を受ける。

3. 認証評価及び大学全体の自己点検・評価

東海大学は、学部・大学院について、平成 29（2017）年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。次回の認証評価は、令和 6（2024）年度が予定されている。財団法人大学基準協会の認証評価とともに、東海大学は、大学全体の自己・点検評価を、前記 1 及び 2 などを取り入れながら毎年度実施しており、毎年度「教育研究年報」を大学のオフィシャルホームページに掲載して公表している。

14 情報の公表

本学は、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、以下のとおり、各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャル

ルサイトにより、広く社会に向けて開示している。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、大学院、学部における教育研究上の目的を、それぞれ各学則に定めており、オフィシャルサイトの<大学の概要>において、「学則」の条文中の別表として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育研究上の目的」：トップ>大学の概要>学則

イ 教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイト<大学の概要>において、「教育・研究組織について」として、各事務部門の組織名称と併せて学部及び研究科の名称を公表している。なお、学部・学科及び研究科・専攻の名称については、オフィシャルサイトの<教育・研究><学部・学科>、<大学院>において公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育・研究組織」の名称

トップ>大学の概要>教育・研究組織について

「各学部」の名称

トップ>教育・研究><学部・学科>及び<大学院>

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本学においては、昭和59年度より、年度ごとの教育研究活動の客観的事実を広く社会に報告することを目的に「東海大学教育研究年報」を年1回編集・発行しており、その中で教員組織に関する情報も公表してきている。教育研究年報がオフィシャルサイトトップページの<大学の概要><(大学の取り組み)教育研究年報>において、「教育研究年報」として閲覧できるようになっており、専任教員数及び専任教員の年齢構成については、オフィシャルサイトトップページの<各種情報・お問い合わせ>情報の公表<(教育研究上の情報)>において、公表している。

また、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトトップページの<教育・研究><学部・学科>、<大学院>のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「教員紹介」として公表している。なお、各教員の研究活動情報については、オフィシャルサイトトップページの<教育・研究><研究支援・体制>において、「研究活動・ライセンス検索」から検索ができるようになっている。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「教員組織等」

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>年齢別教員数

「教員が有する学位及び業績」

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>学部・学科>各学部・学科(各研究科・専攻) トップ>教員紹介「ResearchMap」

トップ>教育・研究>研究支援・体制>研究活動・ライセンス検索>教員研究活動情報の検索

エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針については、オフィシャルサイトトップページの〈大学の概要〉理念・歴史〉教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー〉に「アドミッション・ポリシー」として掲載している。入学者の数、収容定員及び在学する学生の数については、オフィシャルサイトトップページの〈各種情報・お問い合わせ〉情報の公表〉〈収容定員〉において、「学生数」として公表している。また、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトトップページの〈各種情報・お問い合わせ〉情報の公表〉就職者数において公表している。また、本学では、「就職指導も教育の一環」という理念に基づいて、全学的な就職支援体制を構築している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「入学者に関する受入方針」

トップ〉大学の概要〉（理念・歴史）教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数」

トップ〉各種情報・お問い合わせ〉情報の公表〉収容定員

「卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況」

トップ〉各種情報・お問い合わせ〉情報の公表〉就職者数

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と、授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅したシステムとなっている。学生の授業選択を強力にサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトトップページの〈各種情報・お問い合わせ〉〈情報の公表〉（授業について）シラバス又は年間授業計画の概要〉においてシラバス」を公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学部・学科」、「研究科専攻」のシラバス

トップ〉各種情報・お問い合わせ〉情報の公表〉（授業について）シラバス又は年間授業計画の概要〉授業内容・計画（シラバス）

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価等、大学設置基準等において、学生に明示することとされている事項については、オフィシャルサイトトップページの〈教育・研究〉〈学部・学科〉、〈大学院〉のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「カリキュラム」として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（学部・学科）」
トップ>教育・研究>[学部・学科]、[大学院]>各学部・学科・専攻・課程・
研究科トップ>カリキュラム

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトトップページにおいて、「各種情報お問い合わせ>情報の公表>（学校法人東海大学 情報公開）校地・校舎面積・耐震化率として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学生の教育研究環境等」：トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>（学校法人東海大学 情報公開）校地・校舎面積・耐震化率

ク 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトトップページの<受験・入学案内>において、「学部・学科学費」及び「大学院学費」として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」
トップ>受験・入学案内>学部・学科学費、大学院学費

ケ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトトップページの<学生生活>及び<キャリア・就職>において、それぞれ公表している。また、教育支援センターでは、東海大学が進めている教育改革を推進するために、すべての学生の目線に立ち、全学の組織的な教育改善計画（Faculty Development）を開発し、教育の質と教育力の向上を支援しており、大学のオフィシャルサイトとは別に教育支援センターサイトを開設し、その取り組みを公表している。

さらに、健康推進センターでは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生及び教職員が心身ともに健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートし、オフィシャルサイトでその取り組みを公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「修学支援」：トップ>学生生活>学生生活サポート

「進路選択支援」：トップ>学生生活>キャリア就職

「心身の健康等に係る支援」：トップ>学生生活>教育支援組織>健康推進センター

【教育支援センターサイト】 <http://jpn.esc.u-tokai.ac.jp>

【健康推進センターサイト】 <http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/pubhome/hokenc>

- コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認定評価の結果 等）

本学における「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において、「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」として掲載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において、「学則」として、東海大学大学院学則、東海大学学則を、それぞれ掲載している。

設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び平成29年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞＜学則・コンプライアンス＞において、「自己点検評価活動」として掲載している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「アドミッション・カリキュラム・アカデミックポリシー」

トップ＞大学の概要＞教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

「学則」

トップ＞大学の概要＞学則

「設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞学部、研究科等に係る「設置申請・届出書」及び「設置計画履行状況報告書」

「自己点検評価活動、第三者評価の結果」

トップ＞大学の概要＞自己点検評価活動

1.5 教育内容等の改善のための組織的な研修等

1. 教育支援センターによる全学実施体制

東海大学は、組織的・継続的なFD活動を推進する部署として、東海大学教育支援センターを設置している。教育支援センターでは、各年度に複数回、教育活動の活性化を図ることを目的に、学外から講師を招き、全学共通の内容を盛り込んだ「FD・SD研修会」を開催している。例年、年度において3回開催しており、この研修会において、教員だけでなく、事務職員や技術職員などの大学職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な研修を実施している。

2. 各学部の取り組み

工学部医工学科では、主専攻科目において授業アンケートを実施し、学生の理解度、講義形態に対する意見、学生・教員間のコミュニケーションの評価、などの意見を学期毎に集め、

次の講義にどのように改良していくのかについて、シラバスにおいても記載し、授業内容及び方法の改善についてPDCAのサイクルを実施する。

工学部にFD委員会を組織し、学士課程教育内容の改善を目標とした活動を実施する。活動内容は、多様な学修歴をもつ新生に対応するため初年次開講の専門基礎科目について、学生の履修履歴や学力実態に即した授業内容の組織的改善を行なうとともに、大学生活全般への導入、学部・学科に関する理解を深め専門分野への勉学の意欲を高めるための初年次をターゲットとしたFD研究会を実施する。さらにFD委員会では、授業公開を促進させ、授業の内容について、幅広く他の教員からの意見を聞き、以降の講義へ反映させる試みを継続的に行う。また、FDの講演会を定期的で開催し、多様な学生の気質の理解や、個々の教科における学生理解度の評価手法などについて理解を深める。活動としては、年度間において複数回のFD研究会を実施し、工学部所属教員による担当授業の改善報告やFDの講演会を開催し、講師として、優れた授業を行う教員を大学として表彰する「東海大学 Teaching Award」の受賞教員や授業改善に知見のある学外教員等を迎える計画である。

なお、学部においてMSS (Mission Sharing Sheet) を定義し、その中に授業内容・方法の改善に向けた個々の試みを登録し、学期毎にチェックすることにより、PDCAサイクルを実現する。

16 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組について

本学においては、現代市民として身につけるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動をとおして民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味している。

日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行うことにより、社会的・職業的自立を目指している。そのことを踏まえ、工学部医工学科においては、医療の科学技術化のみならず、高齢化社会、医療資源の枯渇あるいは環境問題などの解決に不可欠の学問分野である医用生体工学の全体像の把握を目指す「医工学概論」、座学で得た人体の機能の知識を体験学習を通じて身に付けることを目的する「基礎医学実習」を開設し、医用生体工学の視点から社会的、職業的な自立につなげる。

2. 教育課程外の取組について

本学に在籍している学生全てに門戸が開かれているチャレンジセンターの「チャレンジプロジェクト」により、本学が実践している4つの力「自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力」を身につける活動を行っている。これは、学生が活動を企画・運営し、目標の達成

を目指す課外活動であり、地域活性化、ボランティア等多様な活動を学生自身の手で展開している。

3. 適切な体制の整備について

教育課程については、東海大学教育審議会を柱として、パブリック・アチーブメント型教育の方向性を定め、現代教養センター・地域連携を担うT o - C o l l a b oを軸に運営を行っている。さらに、各学部・学科においては、専門科目へパブリック・アチーブメント型教育を展開している。また、教育課程外の活動についてはチャレンジセンターを中心に行っており、この双方の広がりから、地域連携を担うT o - C o l l a b oにより、実際に地域との連携する教育研究活動という形で、実践的な教育活動と学生の活動の場を維持している。

以 上

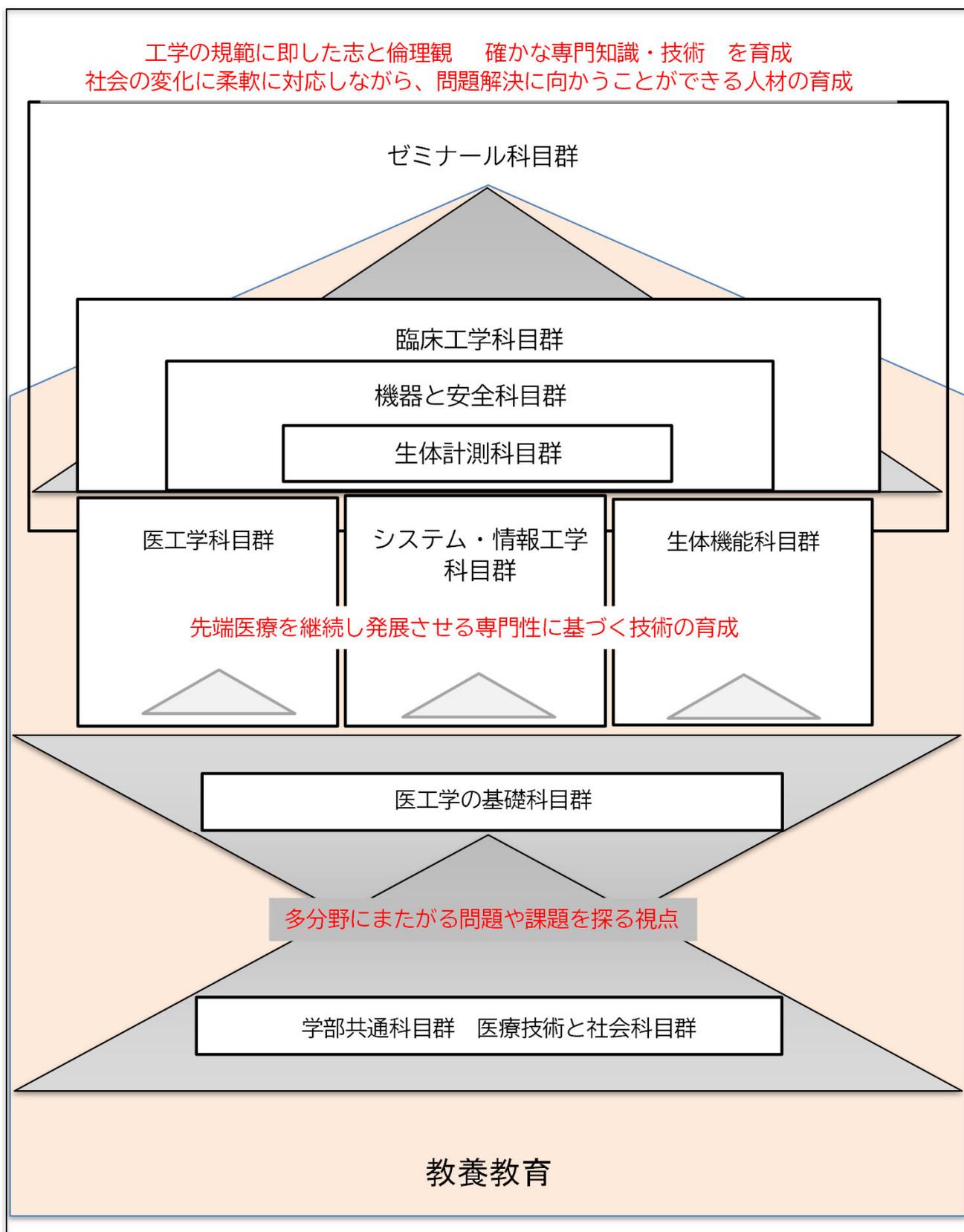
設置の趣旨等を記載した書類
工学部医工学科

【資料目次】

- 資料1 「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図
…p. 2
- 資料2 履修モデル…p. 3
- 資料3 実習受入れ承諾書…p. 5
- 資料4 学校法人東海大学教職員定年規程
学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規…p. 7
- 資料5 学術雑誌一覧…p. 12

工学部医工学科

「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図



履修モデル：工学部医工学科 【具体的な人材像】工学的分野に精通した臨床工学技士

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
II 現代教養科目	入門ゼミナールA	2	入門ゼミナールB	2	現代教養科目	2										
	シテズンシップ	2	地域・国際理解	2												
	健康・フィットネス理論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1												
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	2	英語リーディング&ライティング	2			英語プレゼンテーション	2								
IV 主専攻科目	微積分	2	物理学A (質点の力学・電磁気学)	2	物理学B (固体・流体・波動・熱)	2	電子工学B	2	公衆衛生学	1	電子工学実習	1	卒業研究1	2	卒業研究2	2
	線形代数	2	電気工学A	2	電気工学B	2	情報処理工学A	2	電気工学実習	1	薬理学	2	医用ロボティクス	2	バイオミメティクス	2
	確率統計	2	生化学	2	電子工学A	2	システム工学1	2	システム工学2	1	放射線画像診断学	2				
	工工学概論	1	人の構造及び機能A	2	応用数学	2	物性工学	2	バイオマテリアル	2	生体計測装置学実習	1				
	医用機器学	2	人の構造及び機能B	2	病理学概論	2	機械工学	2	バイオメカニクス	2	医用治療機器学	2				
	医学概論	1	基礎解析	2	生理学	2	免疫学	2	生体計測装置学	2	医用機器安全管理学B	2				
	情報処理実習	1			計測工学	2	基礎医学実習	1	医用機器安全管理学A	2	循環機能代行装置学B	2				
	プログラミング実習	1			生体機能代行装置学総論A	2	生体機能代行装置学総論B	2	代謝機能代行装置学	2	呼吸機能代行装置学	2				
							臨床医学総論	2	循環機能代行装置学A	2	臨床医学各論B	2				
									医用画像装置学	2	臨床医学各論C	2				
									臨床医学各論A	2	医工系専門英語	2				
	単位数合計		19		19		20		19		19		20		4	

※臨床工学技士受験資格取得希望者は、上記の科目以外に卒業要件に含まれない臨床工学技士国家試験要件科目を履修する。

履修モデル：工学部医工学科 【具体的な人材像】医療機器の開発のリーダー

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
II 現代教養科目	入門ゼミナールA	2	入門ゼミナールB	2	現代教養講義	2										
	シテズンシップ	2	地域・国際理解	2												
	健康・フィットネス理論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1												
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	2	英語リーディング&ライティング	2			英語プレゼンテーション	2								
IV 主専攻科目	工科の微積分	2	基礎解析	2	物理学B(固体・流体・波動・熱)	2	電子工学B	2	生体計測装置学	2	医用機器安全管理学B	2	卒業研究1	2	卒業研究2	2
	工科の線形代数	2	物理学A(質点の力学・電磁気学)	2	電気工学B	2	情報処理工学A	2	医用機器安全管理学A	2	医用治療機器学	2	システム工学2	2		
	工科の確率・統計	2	生化学	2	電子工学A	2	情報処理工学B	2	医用画像装置学	2	人工知能アーキテクチャ	2	バイオメカニクス	2		
	医工学概論	1	電気工学A	2	応用数学	2	システム工学1	2	生体制御工学	2	アドバンストプログラミング	2				
	医用機器学	2	人の構造及び機能A	2	病理学概論	2	物性工学	2	生体信号処理工学	1	レギュラトリーサイエンス	1				
	医学概論	1	人の構造及び機能B	2	生理学	2	機械工学	2	生体シミュレーション工学	2	医用ロボティクス	2				
	情報処理実習	1			計測工学	2	基礎医学実習	1	最適化学	1	電子工学実習	1				
	プログラミング実習	1			生体機能代行装置学総論A	2	臨床医学総論	2	電気工学実習	1	生体計測装置学実習	1				
							生体機能代行装置学総論B	2	臨床医学各論A	2	臨床医学各論B	2				
									循環機能代行装置学A	2	臨床医学各論C	2				
									代謝機能代行装置学	2	呼吸機能代行装置学	2				
								公衆衛生学	1							
単位数合計		19		19		20		19		20		19		6		2

(制定 昭和28年6月1日)

改訂 昭和43年4月1日 昭和63年4月1日
 1991年6月17日 1994年4月1日
 2000年4月1日 2003年4月1日
 2004年4月1日 2006年4月1日
 2007年4月1日 2011年4月1日
 2012年4月1日 2013年4月1日
 2017年4月1日

第1条 学校法人東海大学に勤務する専任の教職員の定年は、次のとおりとする。

教員

職種	区分	身分	資格	定年齢
教員	大学院・大学 短大・研究所等		教授	65
			准教授・講師・ 助教・助手	62
	高等学校・中等部 小学校・幼稚園	教諭・養護教諭 司書教諭	上級職1種・2種	65
			中級職1種・2種	62
			一般職1種	62
		助教諭	一般職2種	60
	2004年4月1日以後の採用者	教諭・養護教諭 司書教諭	一般職1種	60

職能資格制度を適用する職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	事務		参与・副参与 参事・副参事	65
			主事・副主事	62
			主査・職員一級 職員二級	60
			主席技師・主任技師 技師	65
	技術		技師補・上級技術員	62
			一級技術員・技術員 初級技術員	60
			1等級～4等級	65
	看護		5等級～7等級	62
			8等級以下	60
			主席保健技術員・副主席保健技術員・主任保健技術員	65
	保健			

			上級保健技術員一・上級保健技術員二	62
			中級保健技術員・保健技術員・初級保健技術員	60

職能資格制度を適用しない職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	船舶		船長・機関長	65
			一等航海士，一等機関士，通信長，事務長，次席一等航海士，次席一等機関士，二等航海士，二等機関士，次席二等航海士，次席二等機関士，三等航海士，三等機関士，次席三等航海士，次席三等機関士，小型舟艇船長，小型舟艇機関長，小型舟艇甲板長，甲板長，操機長，司厨長	62
			操舵手，操機手，調理手，甲板員，機関員，司厨員	60
	その他		課長職以上の管理職	65
			上記以外の役職	62
			上記以外の職員	60

第2条 定年による退職は、定年に達した日の属する年度末日とする。

第3条 定年令の計算は、「年令計算ニ関スル法律」及び「民法」第143条による。ただし、2000年3月31日までに採用された教職員についてはこれを適用しない。

第4条 教育上又は経営上必要と認められた者については、第1条の規定を適用しない。

第5条 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」により定年退職後に継続雇用する場合は、「学校法人東海大学大学・短大非常勤教員規程」、「学校法人東海大学初等中等教育機関非常勤講師規程」及び「学校法人東海大学臨時職員規程」を適用する。なお、継続雇用における条件については、「学校法人東海大学高齢者継続雇用運用細則」による。

付 則

- 1 この規程は、昭和28年6月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にあたって必要な細則については、別に定める。

付 則（2017年4月1日）

この規程は、2017年4月1日から施行する。

○学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規

(制定 2017年4月1日)

改訂 2020年4月1日

(目的・趣旨)

第1条 学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規（以下「この内規」という。）は、「学校法人東海大学特任教職員任用規程」（以下「規程」という。）に定める特任教職員のうち、大学・短大の特任教員（以下「特任教員」という。）の任用についての運用を定めることを目的とする。

(個別管理区分)

第2条 特任教員の各人の雇用条件を、雇用契約書等で提示することを目的として、規程第3条に定める個別管理区分は、次の項目とし、詳細を別表に定めるものとする。

- (1) 採用区分
- (2) 職務区分
- (3) 所属及び勤務地
- (4) 資格
- (5) 1回の雇用期間
- (6) 授業責任時間
- (7) 招聘の有無
- (8) 年俸額
- (9) 教育及び研究に関する経費配算
- (10) 外部資金要件
- (11) その他

(限度年齢)

第3条 規程第4条及び第5条の定めその他、次の各号の満年齢に達する年度末を契約期間の限度とする。

- (1) 教授 65歳
- (2) 准教授以下 62歳

2 原則として教授に限り、専任定年後に継続して雇用することができる。その場合、限度年齢は68歳とするが、特段の事情がある場合は、稟議により、70歳に達する年度末までを限度とすることができる。

3 本条における年齢の計算は、「年齢計算ニ関スル法律」及び「民法」第143条による。

(契約更新に関する条件)

第4条 特任教員の契約は、次の各号のいずれかに該当する場合、更新を行わないものとする。

- (1) 担当する授業科目が減少し、授業責任時間を満たさないとき。
- (2) 担当する業務がなくなったとき。
- (3) 担当する研究プロジェクトが終了したとき。
- (4) 外部資金要件の者については、人件費、研究費等の経費全額を充足し得る外部資金が確保できないとき。
- (5) その他、雇用契約書等に定める契約内容が遵守されないとき。

(専任への任用変更)

第5条 特任教員が専任教員への任用変更を希望する場合、人事計画に基づき、公募する教員採用に応募することができる。ただし、専任定年後の継続雇用者を除く。

2 専任教員と同等の職務に就く特任教員は、所属学部等より推薦があった場合、所定の専任採用審査を受けることができる。このとき、在職中の教育・研究の業績及び勤務実績のほか、学生指導、学部学科等所属する組織の運営業務、大学内外の各種業務等の担当について評価する。

付 則

1 この内規は、2017年4月1日から施行する。

2 (経過措置)

規程の付則第3項に定める経過措置を適用する特任教員第3種の任用手続は、規程の制定に伴い、任用に係る委員会を廃止するため、他の特任教員と同様とする。

付 則 (2020年4月1日)

この内規は、2020年4月1日より施行する。

別表

個別管理区分	内 容
(1)採用区分	新採用, <u>再採用</u> , 再雇用
(2)職務区分	教育・研究の職務を主に担当, 教育を主に担当, 研究を主に担当, 診療を主に担当, その他
(3)所属及び勤務地	各機関に定める所属及び勤務地
(4)資格	教授, 准教授, 講師, 助教, 助手
(5)1回の雇用期間	1回の雇用期間は1か年度毎とする。専任への任用変更は原則として5か年度以内とする。 最長雇用期間は9か年度とし、外部資金を要件とする者については、外部資金未確保の場合は更新しない。
(6)授業責任時間	職務内容に応じて3コマ, 6コマ, 10コマ, その他 専任定年後の継続雇用者は原則として3コマとする。
(7)招聘の有無	大学による招聘にて採用された者は、成果に応じて給与に特別加算することができる。ただし、専任定年後の継続雇用者を除く。
(8)年俸額	職務による諸手当については年俸額に含むものとする。実績による諸手当については、実績に応じて別途支給する。
(9)教育及び研究に関する経費配算	特定の診療を行う職務の教員を除き、職務内容に応じて、研究費又は教育開発費を配算する。
(10)外部資金要件	該当する外部資金の要件及び名称
(11)その他	<u>上記個別管理区分に定める他、特別の事情のある場合は、必要に応じて記載する。</u>

(注) 採用区分の内容は、次のように定める。

(1) 新採用

新たに特任教員として雇用契約を締結すること。

(2) 再採用

専任退職後、引続き特任教員として雇用契約を締結すること。

(3) 再雇用

退職した者が、一定の期間を経て、再度雇用契約を締結すること。

学術雑誌一覧

工学部医工学科

No.	誌名（国内雑誌）
1	Clinical engineering = クリニカル・エンジニアリング.
2	Newton : graphic science magazine = ニュートン
3	安全と健康
4	医学哲学医学倫理
5	遺伝
6	運動器リハビリテーション
7	化学工学
8	化学工業
9	化学装置
10	化学と工業
11	画像診断
12	からだの科学
13	教育と医学
14	健康管理
15	顕微鏡
16	工業材料
17	高分子
18	高分子論文集
19	呼吸
20	呼吸器ケア
21	細胞工学
22	産業医学ジャーナル
23	実験医学
24	循環制御
25	触媒
26	植物の生長調節
27	人工血液
28	心臓
29	腎と透析
30	進歩する心臓研究
31	生化学
32	生体医工学：日本エム・イー学会誌
33	生物教育
34	生物工学会誌
35	生物物理
36	総合リハビリテーション
37	透析ケア
38	トランジスタ技術.
39	日本医師会年次報告
40	日本応用動物昆虫学会誌
41	日本呼吸器学会誌
42	日本生体学会誌
43	年報医事法学
44	バイオインダストリー
45	バイオサイエンスとインダストリー

No.	誌名 (国内雑誌)
46	バイオメカニクス研究
47	バイオメカニズム学会誌
48	ぶんせき
49	分析化学
50	薬理と治療
51	有機合成化学協会誌
52	リハビリテーション医学
53	リハビリテーション研究
54	臨床透析
55	臨床放射線
56	臨床薬理
57	臨床薬理の進歩
58	医療機器学 = The Japanese journal of medical instrumentation
59	化学と生物
60	化学
61	科学
62	機能材料
63	計測と制御 = Journal of the Society of Instrument and Control Engineers
64	細胞 = The cell.
65	細胞工学 = Cell technology.
66	情報処理
67	人口動態統計
68	人工臓器
69	数学セミナー.
70	数理科学 = Mathematical sciences.
71	生体の科学 = Medical science
72	電子情報通信学会技術研究報告. MBE, MEとバイオサイバネティクス
73	電子情報通信学会技術研究報告. NC, ニューロコンピューティング
74	電子情報通信学会技術研究報告. SP, 音声
75	日経サイエンス : Scientific American日本版
76	別冊日経サイエンス

国内雑誌 76種

No.	誌名 (国外雑誌)
1	Advances in Chemical Physics
2	Advances in Chromatography
3	Advances in Physical Organic Chemistry
4	Analytical and Bioanalytical Chemistry
5	Applied and Environmental Microbiology
6	Applied Entomology and Zoology
7	Behavioral neuroscience.
8	Biology Letters
9	Bioscience, Biotechnology and Biochemistry
10	Cognitive Neuroscience Society Annual Meeting
11	Ecological Research
12	European Journal of Applied Physiology
13	Glycobiology
14	Heart
15	Human Evolution
16	International Review of Cell and Molecular Biology
17	Journal of Biomechanical Engineering
18	Journal of Bioscience and Bioengineering
19	Journal of Clinical Rehabilitation
20	Journal of materials science. Materials in electronics.
21	Journal of materials science. Materials in medicine.
22	Journal of Occupational Health
23	Journal of the Mass Spectrometry Society of Japan
24	Medical Physics (洋)
25	Medizinrecht
26	Methods of Biochemical Analysis
27	Monthly Book Medical Rehabilitation
28	Occupational and Environmental Journal (洋)
29	Organic & Biomolecular Chemistry
30	Pharma Medica
31	Plant Molecular Biology
32	Proceedings. Biological Science
33	Science. New series
34	Social History of Medicine
35	Sysmex Journal
36	The Japanese Journal of Nephrology
37	The Journal Biochemistry
38	Thrombosis and Haemostasis (洋)

国外雑誌 38種

学生確保の見通し等を記載した書類

工学部医工学科

【本文目次】

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況…p. 2
 - (1) 学生の確保の見通し…p. 2
 - 1) 定員充足の見込み…p. 2
 - 2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要…p. 3
 - 3) 学生納付金の設定の考え方…p. 4
 - (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況…p. 5

2. 人材需要の動向等社会の要請…p. 8
 - (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）…p. 8
 - (2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠…p. 8

学生の確保の見通し等を記載した書類

工学部医工学科

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

1) 定員充足の見込み

工学部医工学科の入学定員は、受験生の動向、社会からのニーズ、入学定員を確保できる人数等を踏まえ、教育研究体制を永続的に維持可能な体制として、入学定員を80名、収容定員を320名として教育研究活動を開始する計画である。

①全国的な傾向からの分析

定員を充足できる根拠は次のとおりである。工学部医工学科の学位の分野「工学関係」が含まれる「理・工学系」の過去5年の学部数、志願倍率、入学定員充足率状況(【資料①-1】【資料①-2】「令和2(2020)年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団) P.26・33)をみると、【資料①-1】のとおり、学部数は微増ながら増加傾向であることに對し、志願倍率も増加傾向を示しており、令和2年度においては13倍を超える水準に達し、定員充足率も100%を満たしている状況である。このうち、【資料①-2】のとおり、本学科と類似した学科が含まれる可能性がある学部に焦点を絞ってしてみると、令和2年度においては、「工学部」は約12.0倍、「理工学部」は約15.7倍となっており、【資料①-1】の動向と同様に、倍率に多少の幅はあるものの、入学定員を大幅に超える進学希望者が存在することが明らかであり、工学部医工学科が受け持つ学問分野について高い需要があると分析される。

②将来性についての分析

東海大学は、全国に19学部(令和3年現在。募集停止学部を除く。)を展開している大規模大学である。工学部医工学科は湘南キャンパス(平塚市・伊勢原市)で学修を進める計画である。現在、湘南キャンパスには、約18,000名程度の学部生が在籍しており、在学生の6割程度が首都圏(神奈川県、東京都、千葉県)からの学生である。特に、地元神奈川

県内の学生が、湘南キャンパスに通う学生全体の5割程度を占めている。また、4割程度は、首都圏以外、全国から入学してくる学生である。また、同様に、全国に14校設置されている付属高校からの入学希望者も一定数存在している。

将来的にみると、18歳人口の減少は避けられない状況であるが、本学の通学圏である首都圏においては、その減少率は低いものであることに加え、【資料①-3】のとおり大規模大学は、高い水準で志願者を確保していることから、この総合大学・大規模大学のスケールメリットを活用した教育体制により、上記①の傾向が続くものと分析している。

2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

①今後の人口動態

文部科学省「学校基本調査」のデータをもとに分析された、「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」(2020年度版) (リクルート進学総研) に依れば、全国の18歳人口の推移は、【資料②】のとおり「2020年116.7万人→2032年102.3万人」となり、「約14.4万人/12.3%」が減少するとの予想が立てられている。

一方、本学の入学者の半数程度を占めると考えられる神奈川県18歳人口の推移【資料③】については、「2020年79,403人→2032年73,550人」と、減少率は「7.4%」であり、全国の減少幅(約12.3%)に比べて、比較的小さいことが分かる。同様に、東京都をみても「0.6%」ではあるが微増の予測がなされており、東京への人口集中の傾向が続くと判断される。

【資料④】をみると、①進学率の上昇により、大学進学者数が増加していることに加え、②神奈川県における地元残留率は低下傾向にあるものの38.9%を維持している。さらに、この県内外の移動状況の詳細をみると、東京都への流出が1位であると同時に、東京都からの流入も1位であることが分かる。この傾向から、神奈川県と東京都は補完しあいながら、同じ生活圏・通学圏内として成立していることもわかる。

以上の状況から、本学の通学圏内である神奈川県と東京都は、18歳人口の減少の影響は生じるものの、比較的影響は小さい状況が継続すると予測される。そして、現在の進学者の傾向を維持しつつ、入学定員を超える一定数の志願者数を確保することが可能であると、判断することが

できる。

②類似する分野への大学進学状況

さらに詳しく分析するため、【資料⑤】「リクルート 入試実態調査」により、学部系統「理工学部」「工学部」の10年間の動向を確認していく。全国、一都三県、神奈川県のみのおいでも、「理工学部」においては、2020年度（令和2年度）には、17倍～18倍の高い志願倍率となっており、「工学部」においては、10年前から志願者数は大幅に増加し、志願倍率も10倍を超える高い水準になっている。

また、【資料⑥】のとおり、工学部医工学科と競合する可能性のある、類似した学部学科の動向をみても、高い志願倍率を維持しており、志願者数の確保を見込むことができる。

③既設の学部における定員充足状況

既存学部等の定員充足状況については、【資料⑦】のとおり、既設学科の工学部医用生体工学科（入学定員60名）の6年間の状況をみると、志願倍率は約5倍～6倍を確保している。工学部医工学科の入学定員は、80名を設定しており、志願者数が入学定員を大幅に超えている状況であることに加え、上記①②の傾向から分析しても、入学定員を超える一定数の志願者の確保は可能であると判断することができる。

3) 学生納付金の設定の考え方

納付金については、大学として適切な教育研究環境を構築・維持するのみならず、これからの社会の変化に対応した施設・設備の充実にも対応した、大学経営の根幹に係る財務状況を踏まえるとともに、受益者である学生への説明責任を重視する一方、近隣の他大学の学生納付金の設定状況も勘案した上で、完成年度に収支均衡を図れることを前提に適切に設定した。下表のとおり、【資料⑥】に記載する競合校の学納金と比較しても概ね範囲内に収まっており、適切な納付金であると判断している。

競合する大学 学部学科	入学 定員	入学金	授業料	設備施設費	その他 (諸会計等)	合計
東海大学 工学部 医工学科	80	200,000	1,354,000		59,200	1,613,200
東洋大学 理工学部 生体医工学科	113	250,000	1,075,000	260,000	5,000	1,590,000
桐蔭横浜大学 医用工学部 生命医工学科	40	200,000	1,090,000	300,000	53,600	1,643,600
北里大学 医療衛生学部 医療工学科	115	300,000	950,000	550,000	0	1,800,000

注1) 本学以外の各大学の情報は、2021年4月時点の公式ウェブサイトにより調査。

注2) 各大学の学生納付金の記載方法は、各大学の公表方法に基づく。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けて、大学として、全学的・組織的に学生確保に向けた入試広報を行っている。その方針としては、受験生、保護者、高等学校等の教員に対し、本学の学部・学科等の周知活動を行うだけでなく、大学への進路希望者に対して、体験授業や各学問分野別の紹介等、高校生の進路選択のサポート活動を行うことである。

令和2(2020)年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種行事の多くが中止となってしまったが、通常は以下①から⑥のとおりオープンキャンパス等を実施している。中止となってしまった令和2(2020)年度についてはWeb Open Campus と称し、自宅からでも参加できる「360° キャンパスツアー」、「バーチャルキャンパスツアー」等により実際のキャンパス環境についての確認ができるように対応したことに加え、各学科においては、動画にて、学部学科の案内等について、場所・時間に関係なく、「興味を持った受験生がいつでも確認することが出来る環境」を整えている。

また、HPや各種広告媒体等や高校訪問などを通じて、本学への受験、入学者希望者を増やすことを目指すだけでなく、「入試対策講座」の開催や、体験授業等を行い、高校生の進学へのサポート活動も積極的に行っている。

今後の取組としては、コロナ禍により整備されたWeb等の媒体と、オープンキャンパス・体験授業等各種イベント等の対面で行う活動を融合し、周知活動等を進める計画である。

①オープンキャンパス（対面、オンライン）計画

- ・2021年度東海大学開催オープンキャンパス（予定）

対面：6月20日（日）、8月21（土）、8月22日（日）、3月13日（日）

[学科説明、個別面談、キャンパス見学]

WEB：7月、8月

- ・入試対策講座（6月、8月、10月）
- ・進学相談会、キャンパス見学会
- ・全国開催進学相談会（約350会場を予定。実施は未定。）

②HP【受験生・高校教員向け】受験生情報サイト・SNSからの情報発信 YouTubeチャンネル（東海大学公式）配信動画

■東海大学ホームページ 受験生情報サイト
(<http://www.tokai-adm.jp/>)

■東海大学「日本まるごと学び改革実行プロジェクト」
(<https://tokai-marugoto.jp/>)

③高校訪問

高校訪問をして、進路・キャリア形成に関する講話を行う。本学への進学についてのPRだけでなく、進路の選び方、入学試験の種類等、高校生の大学進学をサポートを行っていく計画である。

④大学入試説明会（高校教員対象）：5月～6月にWebでの開催を予定。

⑤各種メディアからの情報発信（受験情報サイト、メディア企画）

⑥出願促進プロモーション

S N S 広告、エリアアド、コンビニ広告

交通広告、出願促進DM（全国の接触者対象）

以上の説明のとおり、全国的な「受験者数」や、分野別の「志願者の動向」、既設学部等における「志願者数、志願倍率、入学者数等の実績」に加え、学生確保に向けて具体的な取組を行うことにより、入学定員を満たすことができると確信することができる。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

工学部医工学科の教育研究上の目的は、工学の規範に即した志と倫理観を持った人材を育成すると同時に、先端医療を支えさらに発展させるための医療技術・医療機器・医用システムの研究・開発、応用、及び工学的評価ができる工学分野と医学分野の確かな知識・技術を持ち、社会の変化に柔軟に対応しながら、有機的かつ継続的に問題解決に向かうことができる技術者及び臨床工学技士としての人材を養成する。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）に記載されている通り、急激に変化していく現代社会において、産業界においても新しい事業開発や国際化の進展により、「高度な専門知識を持ちつつ普遍的な見方のできる能力と具体的な業務の専門化に対応できる専門的なスキル・知識」を持った人材が求められている。工学部医工学科においては、上記のとおり急激な社会の変化に対応し、工学分野と医学分野の確かな知識・技術を持ち、社会の変化に柔軟に対応しながら、有機的かつ継続的に問題解決に向かうことができる技術者及び臨床工学技士を養成し、倫理観をもって諸問題を解決していく力を身に付けた人材を育成していく計画であり、将来的に必要とされる人材像と合致している。

工学部医工学科は、工学部医用生体工学科を基礎として設置する計画であり、現状から分析すると、【資料⑧】のとおり、既設学科が育成する人材へのニーズは多岐に渡り、医療・福祉系を中心に、多様な分野へ卒業生が就職していることが分かる。また、【資料⑨】のとおり、2018年度は98.2%、2019年度は100%となっており、実数においても就職率は高い水準となっている。

加えて、本学への求人については、【資料⑩-1】の状況となっており、卒業生の数を大幅に超えており、【資料⑩-2】のとおり、全国から求人が寄せられている。工学部医工学科においても、その教育研究上の目的から、【資料⑧】と同様に、多様な分野への就職を目指していくことから、様々な分野からのニーズに応え、課題解決を目指して社会で活躍していく人材を、引き続き輩出していくと確信している。以上の状況から、工学部医工学科の教育研究上の目的は、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると判断される。

以上

学生確保の見通し等を記載した書類

工学部医工学科

【資料目次】

【資料①-1】令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 26）…p. 2

【資料①-2】令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 33）…p. 2

【資料①-3】「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）令和2年10月）37ページより抜粋。…p. 2

【資料②】リクルート進学総研マーケットレポート Vol. 82 2021年3月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」（2020年度版）6ページより抜粋…p. 3

【資料③】リクルート進学総研マーケットレポート Vol. 86 2021年4月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」（2020年度版）2ページより抜粋…p. 3

【資料④】リクルート進学総研マーケットレポート Vol. 86 2021年4月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」（2020年度版）15ページより抜粋…p. 4

【資料⑤】「リクルート入試実態調査」による統計…p. 5

【資料⑥】リクルート「入試実態調査」より集計…p. 6

【資料⑦】既設学科の学生確保の状況…p. 6

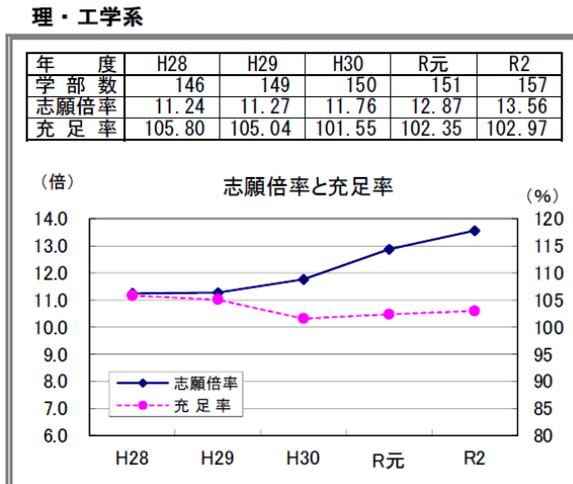
【資料⑧】既設学科の就職先…p. 7

【資料⑨】既設学科の就職決定率…p. 8

【資料⑩-1】東海大学産業別求人会社数…p. 8

【資料⑩-2】東海大学地域別求人会社数…p. 9

【資料①-1】



「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 26

【資料①-2】

5. 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

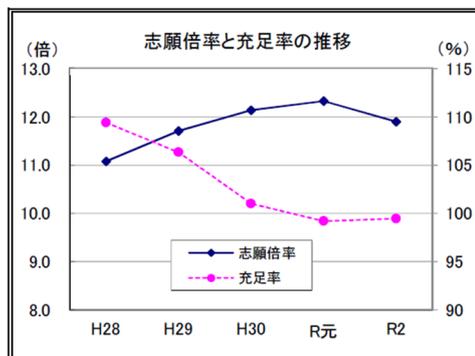
系統区分	集計学部数			入学定員(人)			志願者(人)			入学者(人)			入学定員充足率(%)		
	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減
工学部	49	48	△1	22,979	22,010	△969	256,256	265,197	8,941	24,293	23,507	△786	105.72	106.80	1.08
理工学部	29	30	1	18,441	18,581	140	275,555	292,296	16,741	18,318	18,496	178	99.33	99.54	0.21

「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 33

【資料①-3】

大規模大学（収容定員8000人以上）

年度	H28	H29	H30	R元	R2
学校数(校)	43	44	46	46	48
入学定員(人)	184,729	191,963	200,368	201,139	206,375
志願者(人)	2,047,202	2,247,102	2,432,551	2,480,804	2,455,871
受験者(人)	1,958,074	2,150,641	2,330,257	2,367,125	2,329,872
合格者(人)	595,366	583,179	558,289	572,392	647,736
入学者(人)	202,106	204,136	202,399	199,522	205,266
志願倍率(倍)	11.08	11.71	12.14	12.33	11.90
合格率(%)	30.41	27.12	23.96	24.18	27.80
歩留率(%)	33.95	35.00	36.25	34.86	31.69
充足率(%)	109.41	106.34	101.01	99.20	99.46



「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」

（日本私立学校振興・共済事業団）令和2年10月）37ページより抜粋。

【資料②】

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
全体計	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7
北海道	人数	45,674	45,007	44,276	42,489	41,028	41,853	41,256	41,087	40,148	40,064	39,321	38,302	37,985
	指数	100.0	98.5	96.9	93.0	89.8	91.6	90.3	90.0	87.9	87.7	86.1	83.9	83.2
東北	人数	83,524	80,269	78,146	75,379	71,809	73,104	72,063	71,026	69,024	68,469	66,592	65,270	65,431
	指数	100.0	96.1	93.6	90.2	86.0	87.5	86.3	85.0	82.6	82.0	79.7	78.1	78.3
北関東	人数	66,380	64,677	63,720	61,863	59,667	60,662	60,090	59,374	58,555	57,023	55,612	54,815	53,543
	指数	100.0	97.4	96.0	93.2	89.9	91.4	90.5	89.4	88.2	85.9	83.8	82.6	80.7
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
甲信越	人数	49,897	47,817	46,907	45,536	44,033	44,794	44,084	43,684	42,239	42,396	41,412	40,210	39,726
	指数	100.0	95.8	94.0	91.3	88.2	89.8	88.4	87.5	84.7	85.0	83.0	80.6	79.6
北陸	人数	29,004	27,814	27,545	26,692	26,008	26,219	26,256	25,852	25,177	24,413	24,515	23,760	23,613
	指数	100.0	95.9	95.0	92.0	89.7	90.4	90.5	89.1	86.8	84.2	84.5	81.9	81.4
東海	人数	145,478	143,651	140,510	138,309	133,550	137,154	137,505	136,524	134,543	134,593	132,524	129,893	127,045
	指数	100.0	98.7	96.6	95.1	91.8	94.3	94.5	93.8	92.5	92.5	91.1	89.3	87.3
近畿	人数	195,001	190,286	185,626	181,639	175,501	179,248	179,159	178,700	174,848	174,490	171,960	168,797	165,603
	指数	100.0	97.6	95.2	93.1	90.0	91.9	91.9	91.6	89.7	89.5	88.2	86.6	84.9
中国	人数	70,193	67,945	66,821	65,318	63,247	64,858	65,130	64,245	64,060	64,197	63,134	62,001	61,205
	指数	100.0	96.8	95.2	93.1	90.1	92.4	92.8	91.5	91.3	91.5	89.9	88.3	87.2
四国	人数	35,553	34,558	33,841	32,825	31,434	32,184	31,780	31,824	31,182	30,990	30,785	30,031	29,505
	指数	100.0	97.2	95.2	92.3	88.4	89.5	89.4	89.5	87.7	87.2	86.6	84.5	83.0
九州沖縄	人数	141,187	137,117	134,537	132,869	129,658	133,689	136,005	136,447	134,753	136,400	134,447	132,137	131,637
	指数	100.0	97.1	95.3	94.1	91.8	94.7	96.3	96.6	95.4	96.6	95.2	93.6	93.2

リクルート進学総研マーケットレポート Vol.82 2021年3月号

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」(2020年度版)6ページより抜粋

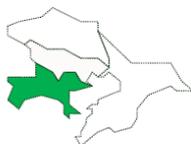
【資料③】

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
埼玉	人数	65,634	64,508	63,542	62,543	61,183	62,797	62,864	62,858	62,493	61,849	60,036	59,723	59,587
	指数	100.0	98.3	96.8	95.3	93.2	95.7	95.8	95.8	95.2	94.2	91.5	91.0	90.8
千葉	人数	55,220	54,908	53,904	53,438	51,411	52,883	52,926	53,796	52,669	52,233	51,260	50,271	49,742
	指数	100.0	99.4	97.6	96.8	93.1	95.8	95.8	97.4	95.4	94.6	92.8	91.0	90.1
東京	人数	105,200	104,150	104,018	102,330	100,133	104,347	106,120	103,176	103,784	104,068	103,144	104,317	105,791
	指数	100.0	99.0	98.9	97.3	95.2	99.2	100.9	98.1	98.7	98.9	98.0	99.2	100.6
神奈川	人数	79,403	78,433	77,892	76,186	74,208	76,178	76,880	77,980	76,991	77,104	75,135	75,021	73,550
	指数	100.0	98.8	98.1	95.9	93.5	95.9	96.8	98.2	97.0	97.1	94.6	94.5	92.6
全国	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7

リクルート進学総研マーケットレポート Vol86 2021年4月号

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」(2020年度版)2ページより抜粋

神奈川県



学校数

大学 : 31 (国立 2・公立 2・私立 27)
 短期大学 : 14 (公立 1・私立 13)
 専門学校 : 101 (公立 5・私立 96)

卒業者数

2011年60,814人→2020年66,293人 (5,479人増加)

進学者数

大学 : 2011年33,604人→2020年38,113人 (4,509人増加)
 短期大学 : 2011年 3,312人→2020年 2,295人 (1,017人減少)
 専門学校 : 2011年 8,694人→2020年11,737人 (3,043人増加)

進学率(現役)

大学 : 2011年55.3%→2020年57.5% (2.2ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 5.4%→2020年 3.5% (1.9ポイント低下)
 専門学校 : 2011年14.3%→2020年17.7% (3.4ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年43.9%→2020年38.9% (5.0ポイント低下)
 短期大学 : 2011年65.7%→2020年69.2% (3.5ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (10,133人)、2位静岡 (2,104人)、3位千葉 (2,101人)
 短期大学 : 1位東京 (265人)、2位静岡 (172人)、3位長野 (36人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (17,035人)、2位千葉 (912人)、3位埼玉 (909人)
 短期大学 : 1位東京 (605人)、2位北海道 (57人)、3位静岡 (30人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

リクルート進学総研マーケットレポート Vol186 2021年4月号

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」(2020年度版) 15ページより抜粋

「リクルート 入試実態調査」による統計

- *各年度で志願者数非公表の大学があります
- *分野系統は調査に協力いただきました大学の指定分野になります。
- *下記のエリアは本部設置所在エリアになります

<全国>

理工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	15,883	16,469	16,000	16,305	16,598	17,296	17,976	18,601	18,493	19,260
志願者数	228,332	239,953	261,791	279,319	284,812	296,929	304,397	317,034	334,414	363,942
志願倍率	14.4	14.6	16.4	17.1	17.2	17.2	16.9	17.0	18.1	18.9
工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	33,436	34,156	32,657	32,552	33,175	31,472	32,427	32,217	32,341	31,492
志願者数	251,173	269,923	302,133	326,672	343,195	339,033	360,223	380,879	431,255	455,944
志願倍率	7.5	7.9	9.3	10.0	10.3	10.8	11.1	11.8	13.3	14.5

<一都三県>

理工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	8,922	8,969	9,228	9,562	9,979	10,294	10,585	10,779	10,869	11,442
志願者数	127,978	135,131	152,173	156,800	159,463	173,594	174,058	182,761	189,860	207,976
志願倍率	14.3	15.1	16.5	16.4	16.0	16.9	16.4	17.0	17.5	18.2
工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	16,413	16,886	16,134	15,688	16,103	15,367	15,694	15,791	15,608	14,983
志願者数	154,434	171,244	184,788	198,621	207,653	207,306	215,552	234,344	262,769	269,763
志願倍率	9.4	10.1	11.5	12.7	12.9	13.5	13.7	14.8	16.8	18.0

<神奈川のみ>

理工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員			359	359	364	370	754	754	733	733
志願者数			2,821	3,158	3,563	3,340	7,580	8,487	11,489	12,896
志願倍率			7.9	8.8	9.8	9.0	10.1	11.3	15.7	17.6
工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	2,588	2,487	2,056	2,001	2,101	2,133	3,368	3,401	3,417	3,286
志願者数	11,478	13,706	12,269	13,334	14,290	13,473	22,272	23,209	30,168	33,071
志願倍率	4.4	5.5	6.0	6.7	6.8	6.3	6.6	6.8	8.8	10.1

株式会社リクルートマーケティングパートナーズより情報提供

【資料⑥】

学部・学科	大学	都道府県	学部	学科	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
工学部 医工学科	東洋大学	東京	理工学部	生体医工学科	募集人員	100	81	82	80	97	97	97	97	97	
					志願者数(合計)	643	516	639	571	819	1,080	806	1,051	1,397	1,183
					志願倍率	6.4	6.4	7.8	7.1	8.4	11.1	8.3	10.8	14.4	12.2
	桐蔭横浜大学	神奈川県	医用工学部	生命医工学科	募集人員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
					志願者数(合計)	131	169	203	192	310	198	201	228	256	275
					志願倍率	3.3	4.2	5.1	4.8	7.8	5.0	5.7	6.4	6.9	
	北里大学	神奈川県	医療衛生学部	医療工学科	募集人員	98	98	98	98	98	98	115	115	115	115
					志願者数(合計)	1,022	923	1,016	758	871	826	685	764	638	743
					志願倍率	10.4	9.4	10.4	7.7	8.9	8.4	6.0	6.6	5.5	6.5

リクルート「入試実態調査」より集計／データは株式会社リクルートマーケティングパートナーズより提供

【資料⑦】

既設学部等の学生確保の状況

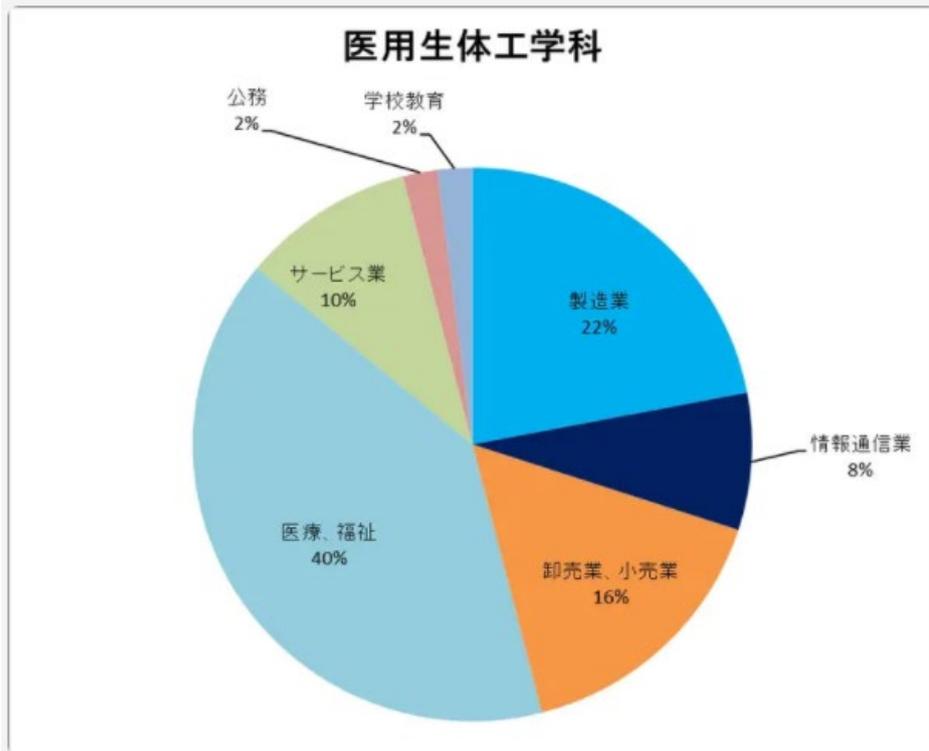
工学部 医用生体医工学科（入学定員60名）

	志願者	受験者	合格者	入学者	志願倍率	定員充足率
2016年度	338	314	158	79	5.6	1.31
2017年度	404	390	156	67	6.7	1.11
2018年度	347	327	137	63	5.8	1.05
2019年度	375	362	174	63	6.3	1.05
2020年度	388	374	198	56	6.5	0.93
2021年度	358	341	214	73	6.0	1.22

主な就職先

キヤノンメディカルシステムズ/ジェイ・エス・エム/GEヘルスケア・ジャパン/日本光電工業/シーメンスヘルスケア/アボットメディカルジャパン/フィリップス・ジャパン/島津メディカルシステムズ/済生会中央病院/横須賀共済病院/北里大学病院/横浜栄共済病院/横浜労災病院/横浜第一病院/聖マリアンナ医科大学病院

※ 2019年度



東海大学 HP より抜粋

2) 学部

2020年5月15日現在

<就職決定率の算出方法>

※就職決定率 = 調査時点の就職決定者数 / 就職希望者数 × 100

※決定者数 = 「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営（フリーランス）」、「起業」、「現職継続（社会人学生等）」、「進学と同時に就職（正規・非正規）」、「臨床研修医」に決定した者

※2018年度決定率は2019年5月21日時点の数値

<就職希望者数の算出方法>

※2019年度就職希望者数 = キャリア支援ナビ進路希望登録で第一希望が「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営（フリーランス）」、「起業」、「現職継続（社会人学生等）」、「進学と同時に就職（正規・非正規）」の者 + 就職希望者の内「3月末までに就職の意志あり」、「就職準備」、「パート・アルバイト」に決定した者

学部	学科	専攻・課程等	卒業者数	就職希望者数	就職決定者数	2019年度		2018年度	
						決定率 (%)	進学者数	決定率 (%)	
工学部	応用化学科		75	57	57	100.0	14	100.0	
	光・画像工学科		50	41	41	100.0	6	100.0	
	原子力工学科		33	21	21	100.0	10	100.0	
	電気電子工学科		129	104	103	99.0	20	99.1	
	材料科学科		65	33	31	93.9	28	100.0	
	建築学科		179	149	146	98.0	26	100.0	
	土木工学科		99	85	83	97.6	5	100.0	
	精密工学科		77	53	52	98.1	17	100.0	
	機械工学科		121	88	88	100.0	23	100.0	
	動力機械工学科		131	106	106	100.0	22	99.3	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻		97	61	60	98.4	26	100.0
		航空操縦学専攻		40	33	31	93.9	0	96.4
		医用生体工学科		66	51	51	100.0	8	98.2
	合計		1274	969	954	98.5	223	99.5	

【資料⑩-1】

2019年度 東海大学産業別求人会社数

産業	2019年度
農業・林業・鉱業・漁業・酪農畜産	66
建設・住宅・不動産	1,624
水産・食品	251
素材・化学	244
医薬品・医療関連・化粧品	95
ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	63
鉄鋼・非鉄・金属製品	362
機械・プラントエンジニアリング	434
電子・電機	472
自動車・輸送用機器	329
精密機器・医療用機器	174
印刷・パッケージ	84
OA機器・家具・スポーツ・玩具・その他	136
小計	4,334
エネルギー	88
銀行	27
信用金庫・労働金庫	75
信販・クレジット・ファイナンス	10
その他金融	29
リース・レンタル	47
保険	66
証券・投信・投資顧問	34
小計	288

産業	2019年度
商社（総合）	93
商社（水産・食品）	117
商社（ファッション関連）	62
商社（素材関連）	52
商社（化学・医薬品・化粧品）	67
商社（エネルギー）	20
商社（精密機器・医療用機器）	156
商社（自動車・輸送用機器）	212
商社（家具・インテリア・日用品）	25
商社（鉄鋼・非鉄・金属製品）	67
その他商社	235
小計	1,106
百貨店	16
コンビニエンス・GMSストア	94
生活協同組合	26
専門店（ファッション関連）	111
専門店（エンターテインメント）	9
専門店（電器）	18
専門店（家具・インテリア）	4
専門店（フード）	23
専門店（ドラッグストア・調剤薬局）	39
専門店（自動車関連）	112
専門店（動物関連）	3
その他専門店	105
小計	560

産業	2019年度
フードサービス	127
ホテル・旅行	179
その他の教育・学習支援業	91
エンターテインメント	54
調査・コンサルタント	200
人材紹介・人材派遣	107
その他サービス	856
小計	1,614
IT・情報処理	情報処理・ソフトウェア 1,475
情報・インターネットサービス	196
小計	1,671
情報（通信・マスコミ）	通信関連 87
マスコミ	324
小計	411
運輸・倉庫	運輸 241
倉庫	63
小計	304
官公庁・団体	373
教育機関	113
医療・福祉施設	675
専門・技術サービス業	38
合計	11,575

2019年度卒業生数 6,281名

